

名人忌辰錄

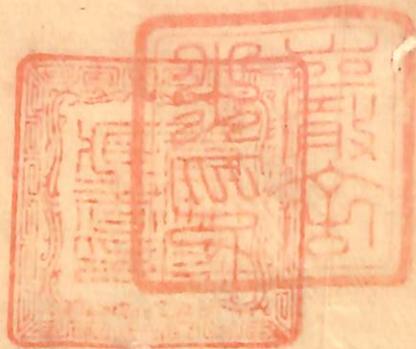
上卷

關根只誠編
關根正直校

名人忌辰錄

東京

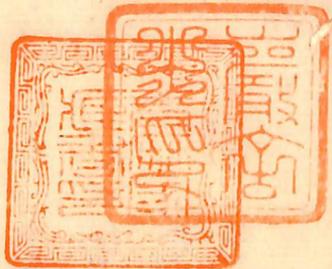
吉川半七藏版



故關根只誠遺稿
名人忌辰錄上卷索隱

いふはに
ほへとち
りぬるち





故関根只誠遺稿
名人忌辰録上卷索隱

い
は
に
は
へ
と
ち
り
奴
る
如



関根只誠編
関根心直校

名人忌辰録

東京

吉川半七藏版

わかよセウ

たれ廿九才

つね世五才
な世六才
ら世四才
も世十才

大師流尔働ひきり
小野銅書

関根只誠翁性行

翁名と正亮只誠と稱し七兵衛と稱す江戸の人なり
若き時より讀書を以て好みし暇あるを以て
聖乗雜書を讀みたり抄録を生涯の樂と
せらば其抄本は百五十餘卷の多きに
及ぶ其の戯曲小説狂歌俳諧など近世の文事に精し
一人の人間心とありて明確なる答へたり
其の平生文学的稱を得たり翁た希高と稱す
大まかしく性温和なり親らむと義侠の質
あらきなり其の人よりさあがれ事をよむ

行を皆よと来しそ望みをか能くしり後そ成徳
とて慕ひしとありお母の書もその跡に記すへきハ
梨園の戯を深く好まし作しつた十年の演劇
芝歴史俳優の家系に類を考へしりる著書百餘
巻ありこれ其談よ及ぶとそ其跡にきりし
とお知く主客日りに命の傾とをわきりし才たな
りけれを貝道より至りふり識者として劇神
仙と呼ぶもその性壯健なりとそ後藤高き松葉
歌もたそそのりしつた明治二十六年の四月枝心より
そ所風病を王治らひしそその十八日朝ひよ六十九

とつと身ありし礼ぬおのりおのり
とれ交りおのりなり 此遺稿に一言そへるなりと
語らぬとそわがわたりたりて後迫世を事実と
きけわる折よと翁ありすとおのり梨園の能場
りしそおのり友少とけりておのりおのり志の
そつとにきけりてそつとにそつとにそつとに
需めれおのりて草紙わらしおのりおのり
那しおのりおのりおのりおのりおのり
明治廿七年四月廿三日のふりしそつとに

小中村清雄

今や翁逝てはや歳餘を過ぐ。頃日令嗣正直君來り云ふ。先人の遺稿中。まづこの名人忌辰録を印行して。故舊知己の人々に贈らん。とす。父執その幾十百人なることを知らず。然れども文學社會に於て。交り殊に深く。且久しきは先生と前田香雪君などのみ。敢て一言を乞ふ。余や物識り顔にも。今昔の世態風俗に對して。其沿革盛衰を。うそぶくは。翁の賜ものたるも。少ならず。されば其舊誼を謝せんがため。口幅ひろくも。腹中を述ぶること。かくの如し。

甲午七月

如電大槻修敬白

亡父の遺稿を印行するゆゑよし

去年の春、父のみまかられし折より、一めぐりの正忌まで、遺稿のうち、何をがな印刷し、亡父のかたみとして、舊知のかたぐいに、贈り參らせばやと思ひ、此の書は、故人の忌日を集録せしものにて、縁なきにあらねば、かきさしの書ながら、まづこれをと思ひ定めつ。

此の書は、凡そ三百年來の、學者文人、僞傑の士、工術技藝の達人、奇言畸行を以て聞えたる、さらぬも何事にか一ふし名を得たるは、其のみまかりし年月日をむねとるる、墓地も知られたる限りは、書きをへたるものにて、碑面にきざめると、諸書に散見すると、人に聞きたると、みづから搜りて得たるとを集めて、おほよそ二千九百人あり。されど高位高官の人たちは、凡て漏らせり。たましく高貴の人を載せたるも、詩歌俳諧書畫などを嗜み、風雅に遊べる類ひ、父が心のひくかたのみに止めしなり。演説談などに名高きも、騙盜博徒の刑死、愚夫痴婦の情死の如きは勿論載せず。これらは刑死録情死録と名つけて別にあり。又俳優は始めより別集になりたれど、卷末に合綴せり。

此の書の、去年の五月より、原稿の謄寫をはじめ、公務のいとましく、に校合して、

印刷に附したるは、今年二月の末つ方なりき。かくて四月十八日の父が正忌ま
 ぞには、必成し果さんと期したるものから、さまざまの障りありて、いつしか、そ
 のでも、過ぎけるぞくちをしき。始めは唯舊知の人々親族たちへのみ、贈らむの
 心構へなりしが、亡父の友に、此の稿本を見し人ありて、同じくは世に公にせま
 しかばと、勧めらるゝ。そは、なほく、なり。されど此の書よも、かきさとの稿本な
 れば、必漏らすまじき漏れたるもあるめり。又誤れるもなしとは断じて言ひ
 難し。父はなほ補ひもし、訂しよせん。の志ありけむを、己れ不肖にして、さるも
 えせず、なまじひに世に出さん。なまじ父のため、いかゞあらむと、ためらひしが、
 よしや誤りたらむも漏れたらむも、己れが校補のいたらざるにて、其の責、固よ
 り己れにあり。なき父を咎むる者よもあらじ。且は大方識者の補正を得んこと、
 却て亡父が本意にもかなふらむと、思ひかへして、遂に人の勧めま従ひぬ。

明治廿七年七月

關根正直 著るす。

名人忌辰録上卷

關根只誠 編

いの部 附る

色川三 瑞霞園 初名英明、號東海、稱彌三郎、常州土浦の
 人、國學、典故に精通し、又度量の學を諸
 葛琴臺に學ぶ。安政二年卯六月廿三日歿、歳五十四、浦城
 南神龍寺に葬る。

伊庭可笑 堪亭 通稱猪與八、天明三卯年六月三日歿、歳
 七十七、四谷大木戸理性寺に葬る。法名玄
 如院、要山居士。

岩垣松苗 東園 通稱大舍人、助京師の人、歴史典故に精通
 せり。嘉永二酉年十二月三日歿、歳七十
 六、京の東山に葬る。

岩田涼菟 神風館 伊勢山田、祠官稱又次郎、後權七本名正
 致、號園友、齋也、蕉門人、享保二年酉四月
 廿八日歿、歳五十七、辭世の句「合點ちやその曉の郭公」

岩田夫山 名忠恕、字子貫、通稱來助、文政二年卯八月十六日
 歿、歳六十二、淺草田圃幸龍寺に葬る。

岩田周幸 一瓶齋 通稱幸太夫、江戸の人、數内に學ぶ。一奇
 人と稱す。享和三年卯九月六日歿、歳年
 八十三。

岩永大洲 名澄元、字子通、太田氏を冒す。醫にして本草學に
 精し。寛政七卯年十月十二日歿、歳七十五。

茨木春朔 地黃坊樽次

本姓伊原、城氏、酒井、雅樂、侯、抱、醫
 師、寛文十一亥年四月七日歿、
 歳五十八、駒込千駄木妙林寺に葬る。法名信善、院日宗、(春朔
 大塚の邸に住し、深底と酒職に利を得し事を記して、自ら
 水鳥記を著せり。小石川戸崎町瑞鳳山祥雲寺住僧は、酒徒に
 て有しか。樽次死後、十餘年にして寺内に石碑を建つ。是
 樽次存生に約せし故と聞ゆ。正面に立像の不動を刻し、右
 に法名酒徳、院醉翁、樽次居士と記し、左に辭世二首を刻す。又
 延寶八庚申年正月八日とあるは、是碑を建てし日なり。

岩崎彌太郎

名寛、號東山、土佐國安藝郡井之口村に生る。郵
 船廻漕の業を興して、三菱會社長たり。後從五
 位に叙せらる。明治十八年二月七日歿、歳五十二、築井墓地
 に葬る。

岩本乾什 竹婦人

初め吉原江戸町一丁目の娼家、天満屋
 實曆九卯年二月十七日歿、歳八十、淺草寺中人丸堂前に碑
 あり。(乾什は、活洲の門人となり、満足庵與文と云ひ、淺草竹
 門に住みて、竹婦人と號す。後此號を弟子の竹島正朔(仁有、名主
 云に譲る。繪蓬萊、いの字、扇、浮む瀨、江の島、禿萬歳、難登
 勢、花かたみ、水調子、有馬筆、等の河東節、其他の謠ひもの
 を多く作れり。)

磐瀬勘平 華沼

名行言、字子言、奥州の人、島原侯の儒臣、川
 口三八の門人にして、書は三井親和の門
 なり。文化七年十一月八日歿、歳七十四、赤坂松泉寺に葬る。

岩瀨鷗所 蟾洲 幕府の士肥後守名は忠震號岐雲園書を椿山に學ぶ文久三亥年七月十三日歿す
歳六十一小石川蓮華寺に葬る

岩瀨京傳 醒々齋 俗稱京屋傳藏號山東庵本姓灰田氏馨瀨氏と稱す別號菊花亭文化十三年九月七日歿す歳五十六兩國回向院に葬る

磐瀨京山 涼仙 通稱利一郎京傳義弟名は百樹號の鐵筆所回向院に葬る法號修院自點(京山)も篠山侯に仕へしが辭して京橋太刀賣に住し再び兄弟宅に移りて印刷を業とし傍戲作をなせり天保九戌年二月晦日齡七十に及ひ剃髮して涼仙と改め年賀の書畫會を催せり安政五年九月廿四日娘の井伊侯へ奉公せし方へ参りて一泊し夜明て更に起出す其娘いふかりて行て見しに事されたり卒中風なりと云ふ

磐瀨京水 通稱梅作京山の男蒔繪を以て業とす慶應三卯年三月九日歿す歳五十二本所回向院に葬る

伊藤梅宇 伊藤仁齋の二男字重藏名長英備後阿部侯に仕ふ延享二年十月廿八日歿す歳六十二

伊藤勃海 名晃字玄朗通稱良助江戸の人太庚の門人磐城侯の侍讀たり享和三亥年四月五日歿す歳六十
三淺草萬隆寺に葬る

伊藤東里 名弘美通稱延藏東所の子文化十四丑年五月廿四日歿す歳六十一私に恭敬と諡す

伊藤東涯 名の長胤通稱源藏號慥々齋主人元文元丙辰年七月十七日歿す歳六十七私に紹述先生と諡す
小倉山二尊院に葬る

伊藤益道 子行 通稱善藏廣澤の門人號華岡安永五申年十一月廿七日歿す歳六十八下谷坂本養玉院に葬る

伊藤固庵 才庵 平安の人正徳元辛卯年正月十四日歿す歳七十一京極西光寺に葬る

伊東燕普 詞菴 通稱仙右衛門伊東派講釋師の祖天保十一年子十二月十日歿す歳八十

伊東燕凌 二代目なり本姓漆畑稱新助初代燕凌門弟始凌す歳五十五深川淨心寺中玉泉院に葬る法號智泉院燕凌日譽辭世醉さめのこれやこの世に秋の水

伊藤錦里 鳳陽 通稱宗二龍州の男洛の錦小路に居住す依て錦里と云ふ越藩に仕へ安永元辰年三月九日歿す歳六十三私に文恪と諡す京極大雲院に葬る

伊藤 儀 好義齋 字邦達長門の人仁齋門人膽齋の父享保十二年九月三十日歿す歳七十一
高輪泉岳寺に葬る

伊藤信徳 梨梯園 通稱助左衛門號竹丈子松永貞徳に従ひて俳諧を能くす元祿十一丙寅年十月十三日歿す歳六十六(信徳は新町夷川に住す祖翁許すに徳の字を以す翁没して後山本西武に従て道を學ぶ武没して後高瀬梅盛を師とす又東武に往反し蕉翁に親むこと深し徳は酒數斗を飲む雨の日や門提て行杜若といふ句を蕉翁に贈れり)

伊藤仁齋 維貞 字源吉後に避ること有て名を維慎字源助と改む平安の人寶永二乙酉年三月十日歿す歳七十九小倉山二尊院に葬る私に諡して古學先生と云ふ

伊藤東所 通稱忠藏東涯の子(東涯四子あり三人は皆天す)東所八歳の時父歿せり文化元子年七月廿九日歿す歳七十七私に修成と諡す

伊藤長準 竹里 仁齋の四男通稱平藏久留米侯に仕ふ寶曆六年九月十一日歿す歳六十五麻布吉川曹溪寺に葬る

伊藤潮花 號廣明堂軍談師中の識者なりき明治十三年七月廿五日歿す歳七十一(この翁至て多藝なりしが中んづく易占茶道に精しく常に卜筮を以てかたはらの業とし茶道指南をもえたり)

伊藤長衡 介亭 通稱正藏仁齋の三子書畫を能くす高槻侯の儒臣となる安永元辰年十月廿四日歿す歳八十八私に謙節先生と諡す

伊藤坦庵 宗怒 字は元務號自怡堂活所の門人京師の人越藩の文學と成る寶永五戌子年八月廿四日歿す年八十六

伊藤澹齋 悠哉 名は貞字は知量邦達の義子鳩巢門人明和元年九月廿一日歿す歳七十一

伊藤長秋 匡山 字萬年松山天姥の門人一號執古齋天明七年八月廿日歿す歳五十餘淺草新寺町本立寺に葬る

伊藤蘭岨 長堅 仁齋五男字は才藏紀藩に仕ふ碩儒の聞えあり安永七戌年三月廿六日歿す歳八十六

伊藤蘭田 龜年 通稱金藏又天遊館金谷の門人文化六巳年四月二日歿す歳七十六駒込吉祥寺中洞泉寺に葬る

伊藤松軒 倚松庵 通稱次太夫歌及び書を能くす寛政六寅年十月晦日歿す歳八十六青山梅窓院に葬る武者小路實岳卿の門人なり

伊藤自然 白華園 名は益寛政四子年八月廿日歿す

伊藤順卿 板溪 名は信順卿は字なり文化十四年九月廿三日歿す歳四十七目白臺蓮華寺に葬る

伊藤若冲 斗米庵 名汝釣字景和平安の人初め狩野家を學び後光琳の筆意を習ふ寛政十二年申九月十日歿す歳八十五淺草石峯寺に葬る

伊藤弘齋 古義堂 稱壽賀藏一號東里弘化二巳年八月十日歿す歳四十七

市場通笑 橘雫 名は軍一字子産俗稱小平次職明に住すもと經師屋にして戲作を好めり文化九申年八月廿七日歿す歳七十四淺草祝言寺に葬る法號覺具法念

一立齊 廣重 立齋 通稱安藤徳兵衛幕府の小吏なり歌川豐廣の門人にして浮世繪を能くす安政五年九月六日歿す歳六十二淺草松山町東岳寺に葬る

市川與左衛門 隆禮 文久二戌年閏八月七日歿す歳六十八

市川鶴鳴 通稱藤兵衛字八子熊耳の門高崎藩の儒士後多門と稱す寛政七卯年七月七日歿す歳五十七西の窪光明寺に葬る

市川小左衛門 寬齋 名世軍字子靜號半江漁夫安遠文仲が時社に入り後富山侯に抱へらる上毛の人文政三辰年七月歿す歳七十二幕里本行寺に葬る

市河三玄 米庵

通稱小左衛門字孔陽號山林堂三玄の稱しよ依て也米庵の書法を能くして大名あり安政五年七月十八日歿す歳八十八日暮里本行寺に葬る法號文慶院米庵日儀

市川恭齋

天保四巳年六月廿七日歿す歳三十八

市野三右衛門 光業

字子暉江戸の人家世商估にて富暦十辰年十一月十一日歿す歳三十五東本願寺中真福寺に葬る此八學を好て太宰春臺に從ひ經義に通し篤實を以て著る家藏の書三萬卷あり尤西漢以上の事實に博覽なり常に客を愛し文士を招致し有志者に遇へば學業の資錢を出して其欲する處を遂成しむ

市野三右衛門 光彦

字子邦速庵と號す不忍池漁とも成る佐久間町四丁目に住す天保十一年七月二日歿す歳七十餘淺草本願寺塔中真福寺に葬る

一具庵一具

嘉永六丑年十一月十七日歿す

一陽軒素外 玉池

本姓池田氏文政六未年二月八日歿す歳九十今戶慶養寺に葬る法號起倫院物先業外居士

一圓齋誠翁

本姓村上氏常州の人醫を業とす明治廿年五月八日歿す歳八十五向島弘福寺に葬る

一碗亭玄武

本姓神谷氏號麟甲醫を業とし白山に住す寛政十四年正月十九日歿す牛込濟松寺中芳正院に葬る

一色時棟 雲溪

平安の人字子續俗稱市之進伊豫松山侯の儒臣享保十巳年十月十日歿す歳七十

入江太華 千里

名貞字駿通稱幸三郎南の浪子元文三年五月五日歿す歳僅に十八下谷常林寺に葬る

入江南溟 子園

通稱幸八名忠剛後門人居名浪浪間明和二年五月廿八日歿す歳八十八下谷常林寺に葬る

入江 貞 北海

通稱與右衛門出羽の人南溟の義子と成歿す歳七十六下谷常林寺に葬る

入江 皆助 寧

字子道入江北海の男なり文化九年正月十九日歿す下谷常林寺に葬る

犬塚唯助 印南

名遜字退翁姫路藩士文化十四年閏十一月十二日歿す歳六十四駒込十方寺に葬る

犬井 乾峰

延享三寅年十月四日歿す歳三十四

犬井 貞恕 一囊軒

俗稱次郎兵衛名重次進髮して貞恕と改む京四條東洞院に住す元祿十五午年三月四日歿す歳七十五上鳥羽邑實相寺に葬る貞恕はもと越前敦賀の人なり始め乾と書す室門人萬治の比江州大津に寓居す一とせいまだ遠くはのびと落人といへる前句に「道はたにいさりことたて馬の糞」を附けてより大津の馬糞と云ふ名を得たり

五十嵐俊明 穆翁

吳氏字方篤號孤峯越後新潟の人初め狩野家を師とし後俊梁階又張平山に

伊賀平藏 風山

字武貫勢州桑名の世臣濃州加納に住す享保三戌年九月七日歿す歳七十五志州鳥羽淨安寺に葬る

板垣宗愴 眞庵

名短字張徳水戸光圀卿の臣にて醫家なり元祿十一寅年六月九日歿す淺草金龍寺に葬る

板倉安右衛門 帆邨

名安字美仲復軒の長子南郭門人なり延享四卯六月廿四日歿す歳三十九雜司ヶ谷法明寺に葬る

板倉帆丘

俗稱富尾彌一郎名重隆實永二年七月十七日歿す歳七十七

板倉九右衛門 復軒

字概叔木下順庵門人享保十三申年四月廿三日歿す歳六十四雜司ヶ谷法明寺に葬る

板倉卜齋 如春

號意齋元甲斐の人儒醫なり明暦元乙未年十二月廿二日歿す歳七十八淺草寺中醫王院に葬る林信篤撰の碑は修善院にあり卜齋は淺草砂利場の邊に文庫を建て和漢の書籍を藏め之を淺草文庫といへり

伊丹鬼貫

平泉氏本姓上島通稱三郎兵衛伊丹の人にて俳諧の大家なり號權花翁元文三年閏八月二日歿す歳七十八攝州伊丹墨染寺に葬る

磯谷正卿 滄洲

通稱與左衛門正卿を名とす尾張の人享和元酉年十二月廿日歿す歳六十八尾張名古屋常徳寺に葬る

五松鶴林 鶴林翁

通稱次右衛門出羽國米澤の人近衛流依て菅原姓并法橋を賜る文化十年十月廿八日歿す歳七十一淺草東門跡寺中徳本寺に葬る

泉 豊洲

名長遠字伯盈號遊文館通稱斧太郎文化巳巳年五月六日歿す歳五十二淺草光明寺に葬る

泉 目吉 守一

俗稱吉兵衛號香齋本郷一丁目に住す探信の門に入り守の字を許さると云ふ文化十二年十二月五日歿す無縁坂講安寺に葬る

稻葉華溪 貞隆

通稱兵吉寛政十二年十二月廿七日歿す歳五十五淺草新堀端西福寺に葬る

稻葉正信 默齋

通稱又三郎開會門人土井侯儒臣たり寛政十一年十一月朔日歿す歳六十八上總成東元倡寺に葬る

稻葉迂齋 正義

俗稱重左衛門佐藤直方の門人たり肥前唐津の人實曆十辰年十一月十日歿す歳七十七駒込龍光寺に葬る

稻掛棟隆

伊勢松坂の人本居大平の實父寛政十二申年四月七日歿す歳七十一

稻垣長章 白叟

通稱茂左衛門春盛門人大野土井の臣に觀海金峰を太宰門の四天王と云ふ安永六酉年六月十一日歿す白山妙清寺に葬る

稻垣東山

名の長和字は惠明通稱茂助流芳園とも號す東奥の人にして白叟の義子となる寛政三亥年十月十三日歿す歳四十九山妙清寺に葬る

稻津祇空 青流 難波の人號空閑人又竹筒山人享保十八年四月廿三日歿七十一相州箱根に終る同所早雲寺に葬る(祇空も詩文を能くす後諸國遊歴の序宗祇墓前に於て落髮祇空と改む)

稻毛官右衛門 屋山 名直道字善民號燕々居家刻家な十八(此人讚州高松の人柴野栗山と同郷なり郷里に栗屋山といふあり栗山屋山共に此山名をとりて號としたれども二人昇沈の程格別なり)

稻生魚彦 通稱茂右衛門樞取氏常州香取の人真淵の門人天明二年三月廿三日歿す歳六十同郡牧野村觀福寺に葬る

稻生若水 江戸の人名の宜義字は彰信醫道を見宜翁に學びて加州侯より三百石を賜ふ庶物類纂一千卷を著す皆自筆なり紅葉山に納む正徳五未年七月六日歿す歳六十一洛東迎稱寺に葬る

隱元禪師 名隆琦明人承應二年來朝して黃檗山萬福寺の開基たり普照國師と賜號す延寶元丑年四月三日歿す歳八十二

允明齋惺々 迪甫 名古氏二代享保十乙巳年四月七日歿す歳六十一淨福寺に葬る

祐天大僧正 名愚心號顯譽與州岩城郡新妻村西村善内男寛永十九年正月元日生幼名三之助權通上人の弟子となる享保三戌年七月十五日歿す歳八十三

伊能忠敬 東河 通稱三郎右衛門後勘解由と改む號樂天翁又樂天樓忠敬は下總伊能に生る若年の比江戸に出高橋東岡の塾に入り曆術及測量を學び寛政

十二年閏四月測量御用となり北陸道東南沿海地圖取調翌年二月恩賞を賜ふ文政元戌寅年四月十三日歿す歳七十四淺草源空寺に葬る明治十六年二月廿七日遺功を賞表し贈正四位たり有功院と贈號す

伊能穎則 蒿村 號梅宇通稱三左衛門下總香取郡佐原の人にて國學大家なり初め神山魚貫門人の後小山田與清を師とせり明治十年七月十一日歿歳七十三同郡牧野村觀福寺に葬る

生玉琴風 如羅架 大阪の人江戸に來て蕉翁に學ひ後實歿す歳五十九押上春慶寺に葬る

生田檢校 正徳五未年六月十四日歿す歳六十

活井舊室 號聒々坊江戸の人世の人天狗坊と稱す明和元年十一月廿八日歿す歳七十二西門跡地中覺證寺に葬る

今村 亮了庵 近代漢方醫の大家にして漢學を能くす山縣大貳の裔なり明治二十三年一月十三日歿す歳七十七谷中天王寺に葬る

今井宗久 本姓高宮氏出羽守氏高の嫡紹鳩の門人にて抹茶の技を能くす剃髮して大藏卿法印に叙し文祿二年八月歿す歳七十四

今井宗董 宗久男帶刀左衛門久胤と稱す剃髮して宗董と號す茶法を宗久より傳ふ寛永四卯年四月十一日歿す歳七十六

今井昆山 名兼規字子範信州の人安永五申年十二月十九日歿す歳六十嶺南寺に葬る

今井弘齋 魯齋 通稱藏之助名將與承應元年十月生れ元祿二巳年正月十二日歿す歳三十八本郷六丁目喜福寺に葬る

今井蜀山 柳靜 文政十二丑年三月廿三日歿す

今大路道三 一溪 曲直瀬氏翠竹庵と號し法印に叙せらる醫道の大家なり永正四卯年九月十八日京に生る文祿三年正月四日歿す歳八十九

今大路悠山 源秀 平安の人にて醫家なり中林竹洞の門人嘉永三酉年十一月六日歿す歳六十

今枝文節 名榮齋字允明號竹庵又令齋平安の人天明五巳年九月廿日歿す歳六十八洛西回向院に葬る

池西言水 紫藤軒 通稱八郎兵衛名則好號風下堂俳人なり南都の人始江戸に出て檀林の黨より其名四海に轟く晩年に及ひ自ら洛下童と稱す享保四亥年九月廿四日歿す歳七十三京極誠心院に葬る

池野大雅堂 霞樵 通稱嘉右衛門後秋平字貸成又號九霞山樵平安の人貨殖家なりし其業を惡み避て畫工となり秋平と云池物と號す沈無名を愛し自ら名を無名と改む其質雅にして聊に越らす諸道よ達して頗る奇なり名家全書に別號三岳道人と云京師の人畫を祇南海及柳里泰に學ひ後雲林伊字九に倣ひて山水人物風韻尤高く超越の妙處に至る舟岡淨光寺に葬る生れ安永五申年四月十三日歿す歳八十

池田彌十郎 遷齋 名郷字德郷書家なり文化七年二月十三日歿す白山蓮華寺に葬る

池田孤村 三倍 號煉心窟亦舊松軒書家なり慶應一寅年二月十三日歿す歳六十六本所押上大雲寺に葬る

池田孤山 寒松庵 名清彌通稱左門始通玄庵一點と號す茶人孤峰の門下臺司傳授の高足たり文化十三年九月十八日歿す歳六十四

池田英泉 一筆庵 通稱池田善次郎後里介と改む號溪齋小説家にして書を能くす嘉永元申年八月廿六日没歳五十七四谷福壽院に葬る辭世「色ぞれる五色の空に法の道こゝろにかゝるくまざりもなし」

生月鯨太左衛門 肥前平戸の産にして玉垣額之助門弟角力なり身丈七尺三寸嘉永四亥年五月廿三日瘡毒にて死す歳廿四本所竹町天祥寺に葬る法號晴光院巨海生月居士

池永道雲 一峯 名榮春書家あり元文二巳年七月廿九日歿す歳六十二淺草誓願寺に葬る

池守秋水 鳥足園 本姓太田氏通稱儀右衛門名龍字潛夫小倉侯に仕ふ古學の儒家なり嘉永元年七月廿三日歿す歳七十一本妙寺中惠雲院に葬る

伊佐半々庵 幸琢 延享二年丑六月十一日歿す歳六十二茶道に開けし人なり

伊澤辭安 蘭軒 名は信恬字の瀧甫號は姑射山人又三養堂福山侯の醫士伊藤長安の男なり儒學は泉豊州に學ぶ文政十二丑年三月十七日歿す瀧谷長谷寺に葬る

石橋眞國 號は稽古樓俗稱茶屋七助江戸町奉行附腰掛茶店の主人なりしが國學を以て知らる安政二卯年歿す忌日未詳

石原正明 蓬堂 通稱喜左衛門尾州の人保巳一檢校の門

石王安兵衛 黃裳 名は明誠號は塞軒三宅尚齋門人安永

石川一夢 俗稱津屋佐兵衛漆物商にして牛込神樂坂に

石川豊信 秀葩 俗通糠屋七兵衛小傳馬町に住し旅人宿

石川勘介 柏山 羽州の人業都より來り佐々木志津摩に學

石川六樹園 雅望 通稱糠屋七兵衛後五郎兵衛と改む字

石川疊翠軒 總誼 通稱左金吾三千石を領す三田古川町

石上改上 不至齋 名尹字子江戶の人天保五年四月

石田梅巖 興長 通稱勘平丹波桑田郡東縣村に生る延享

石田 篤 醒齋 通稱糠屋半兵衛江戶の人天保五年八月

石田新助 牛渚 名の雄國字は器之備前岡山の世臣江戸

石田幽汀 名は叔明京師の人能く幽禪の書を撰す鶴澤探

石田未得 乾堂 通稱文左衛門未得は江戸の人故あり

石塚豊芥子 豊亭 通稱鎌倉屋十兵衛からしやと云ひ集

石島正崎 筑坡 通稱與右衛門常州筑波下に生る依て筑

石川麟州 向井三省の門人にして小倉藩儒具如堂と號す

石川安貞 香山 字は順夫尾州鳴海の人尾州侯の儒臣な

石川晃山 髯髮客 字は士晃宗助と稱す下野國都賀郡川

石川梧堂 龜甫 名は總明字は鶴我一號知秋菴書家なり

石川清澄 石川雅望の男なり天保五年四月十五日歿す

石川丈山 重之 俗稱嘉右衛門號詩仙堂又六々山人天正

石塚崔高 雪堂 名の士堅文化四卯年二月七日歿す高輪

石作駒石 士幹 通稱貞五郎信州山村の臣にして書家な

石井狸谷 天保十二年十二月十日歿す年五十八

石井五橋 暮四 通稱源右衛門石舞庵又五橋翁と號す俳

石井了珪 菊水亭 通稱源右衛門石舞庵又五橋翁と號す俳

石井彌五兵衛 三采花 名は收房州の人水府に仕入草

石井左司馬 子彭 文化九卯年八月廿九日歿す歳七十五

石野廣通 通翁 通稱平藏藤府の旗本にして食祿三百石

石島正崎 筑坡 通稱與右衛門常州筑波下に生る依て筑

飯田東溪 名は忠厚字は裕然左仲と稱す元文三年三月廿九日歿す歳七十九淺草稻荷町本藏寺に葬る

飯田良雲臺 字は君貞飯田藏人の後にして彦根侯の儒臣なり寛政六寅年八月廿五日歿す歳五十八淺草本藏寺に葬る

飯田規文謙齋 字巨卿大華と號す百川の男にして書家なり安永二巳年六月二日歿す歳五十八芝西久保青龍寺に葬る

飯田百川規濤 通稱源四郎細井廣澤の門人にして書家なり明和四亥年十二月廿日歿す歳七十西久保青龍寺に葬る

飯塚純次郎畏齋 名は道茂伊豫の人なり安永七戌年七月廿三日歿す歳廿四

飯室近右衛門天目 名の武仲字は偉文江戸青山の人勢州侯の儒員なり寛政三戌年三月十日歿す歳六十六四谷南寺町戒行寺に葬る

伊勢海五太夫 角力年寄初柏戸と云明治十九年三月三日歿す歳六十餘深川萬徳院に葬る

伊勢貞丈安齋 通稱平藏伊勢貞益の次男國典故實に精通して著書數部あり天明四辰年五月廿八日歿す(公儀の届けは六月五日)歳七十西久保大養寺に葬る(貞丈は幕府の旗下にて兄の時までは千石を領せり享保十一年六月十五日兄陳天死す然るに八月に至り舊家の故を以て格別に思召され相州舊領の内にて三百石を貞丈に下され寄合席となる延享二年九月十三日御小姓組番に入天明四年二月三日年老を以て小普請入仰せ付られ金二枚を賜はる同年三月十一日致仕麻布に住せり)

猪飼敬所彦博 弘化三年十一月十日歿す歳八十六伊勢津の龍津寺に葬る

居初貞六堂乾峯 二世なり明和七寅年四月廿七日歿す歳四十七

居初雲峯 都廳舎又年々翁寛延元年辰十二月十八日歿す歳七十一

井上竹溪 名元繼字養安京の人元文三年八月十六日歿す歳七十洛の妙連寺に葬る

井上直記毅齋 名天覺字先民四明の孫岡山藩士弘化三年九月四日歿す歳五十五落合村泰雲寺に葬る

井上南臺子存 名堪通稱新藏常陸の人金峨の義子幕府の儒官と成る寛政十年十月十四日歿す谷中感應寺に葬る

井上蘭臺通照 通稱嘉膳備前の人林風岡門岡山藩儒にて四明の父なり寶曆十一巳年十一月廿七日歿す歳五十七落合村泰雲寺に葬る

井上蘭澤 名逸通稱新右衛門太宰門人天明元丑年六月十四日歿す歳六十四白山妙清寺に葬る

井上正鐵 本性安藤氏真鐵の二男足立郡梅田村に住して神道一派を開く天保十四卯年五月廿四日伊豆三宅島へ遠島七ヶ年在島の後嘉永二年二月十八日歿す歳六十一

井上眞白 易占及刀鎗術を善くす嘉永二戌年十一月二日歿す歳七十八

ぬの部

井伊半三郎四娟 名の萬字は大年弘化四未年六月五日歿す歳六十一

井原西鶴二萬翁 別號松壽軒亦難波俳林と稱す大坂館屋町に住す元禄六癸酉年八月十日歿す行年五十二大坂八丁目寺町誓願寺に葬る法名仙皓西鶴

井波浪花應々山人 越中井波瑞泉寺の住職にして應心院と號す向井去來の門に入て俳諧を能くす元禄十六年未十月九日歿す歳三十二同寺に葬る

井部香山五華山人 越後の人萬三郎と稱す書工春木南華の師なり嘉永四亥年八月廿一日歿す麻布右京坂報土寺に葬る

井戸甘谷 通稱勘右衛門名は慈鳩巢門に入り儒學を學ぶ幕府先手與力なり寛延三年七月十七日歿す日暮里正蓮寺に葬る

井戸廣川九如 名は弘梁號董九如又痴齋稱平助江戸の山崎薫烈の父なり享和二戌年七月廿三日歿す歳五十九

井川雪下園鳴門 名は貢稱源兵衛文化二丑年十二月廿五日歿す坂本長光寺に葬る

井上玄徹靈叟 本性田谷氏周防山口の人醫師なり延壽院玄淵門東福門院を診し奉り効有て交恭院法印の號を賜ふ貞享三年四月十九日卒す歳八十五

井上文曜東鳩 平安の人元文二巳年九月五日歿す歳四十一洛本國寺に葬る

井上文雄元眞 田安侯の臣歌堂又調鶴、岸本由豆流に學ぶ明治四年十一月八日歿す歳七十六谷中玉林寺に葬る法名文雄院歌堂明道辭世老果て命惜しとはおもはねど死ぬるといへばかなしかりけり

井上弘甫義齋 名貞寛弘甫は字平安の人太町教素門人延享三年十二月七日歿す歳五十八蓮臺寺に葬る

井上金峩純郷 名立元通稱文平信州の人號樂堂折衷學の祖なり始蘭臺の門に入て學び後に一家を成し折衷學と稱せらる其學漢宋諸儒の經說を取合し善なる者に從ひ一家の言に專守せし故に折衷學と云ふ江戸の文學之爲に一變す蘭臺の學漸々衰ふること此人の斥非するに依てなり諸侯の招に應せず仕官せず又此人山水の畫を善くせり天明四辰年六月十六日歿す歳五十三芝青松寺に葬る

井上士朗專菴 又號朱樹翁又號翁菴尾州侯の醫なり常平家を語り琵琶に達したり一掃也とりてしばし心を月の雲一などの句もさこゆ文化九年五月十六日歿す

井上四明 名仲龍字仲號佩弦堂蘭臺義子岡山侯文學文政二卯年二月廿一日歿す歳九十七谷中感應寺に葬る

井上石溪 名儀備字子文儒家なり安永元辰年九月十三日歿す歳八十四根岸善性寺に葬る

井澤強齋 黒谷の人寶曆五亥年四月十二日歿す歳五十二

惟然坊 廣瀬氏號辨慶菴俳道に遊ぶ濃州關の人寶永庚寅年五月廿一日歿す

猪瀬天遊 閑齋 名世美通稱良平萩原大麓門人儒を業とす天保二卯年六月十八日歿す歳六十一小石川圓生寺に葬る

はの部

梅里山人 梅里 陶氏字は仲巳瓦方御用達にして山水書を善くす松林山人の門弟なり寛政十年六月廿八日歿す歳六十二本所中の郷成就寺に葬る

賣茶翁 柴山 名元昭號高遊外又月海寶曆十三未年七月十六日歿す歳八十八

梅鱗菴 五璉 安永八亥年九月六日歿す歳七十六小石川一音寺に葬る

梅滴齋 鶯居 伊豫松山藩士通稱奥山内記隱居して俳諧を宗とす明治二十三年八月廿五日歿す歳八十二辭世散ると見しまぼろし消えて花に月

馬場董水 青海堂 名政隆春水の男明和三戌年九月廿七日歿す歳七十八市ヶ谷長昌寺に葬る

馬場竹坡 文安 字上恭美濃の人安政六未年十一月五日歿す歳七十七市ヶ谷柳町光徳院に葬る

馬場佐十郎 穀里 長崎の人文政五年七月廿七日歿す歳三十六

馬場存義 古來菴 初名泰里號李井菴亦有君菴俳諧をよくす天明二寅年十月三十日歿す淺草誓願寺に葬る

馬場文耕 馬文耕 本性中井氏左司馬と稱す伊豫の人後中井文右衛門と改む軍談師にして文才あり著述多し寶曆八寅年十二月廿五日四十四才にて刑せらる

馬場條助 春水 號青地堂寛延元辰年八月十四日歿す歳八十六市ヶ谷長昌寺に葬る此の人元來書法を能くせり七十餘才にて猶若年の手跡の艶有るを或人如何にして然るかと問ひしに怠らず日々書改めたりといへりとか

服部半左衛門 杜芳 名欽伊賀の人芭蕉門人なり享保十一年四月十八日歿す

服部仲英 元雄 攝津の人南郭の養子初め西村多門と稱す明和四亥年六月八日歿す歳五十四品川東海寺中少林寺に葬る

服部中庸 水月 本居宣長門人文政七申年二月廿三日歿す歳六十九

服部蘇門 名天遊字伯和號嘯翁通稱六藏介亭の門人明和六丑年九月十六日歿す歳四十六もと平安の商人にして織物を業とせし也

服部嵐雪 玄峯堂 通稱作助後彦兵衛越後の人號雪中菴又不白軒黃落菴井上侯に仕ふ寶永四丁亥年十月十三日歿す歳五十四駒込常驗寺に葬る(一書に曰く嵐雪は淡路小坂並村の人と)

服部寛齋 保庸 通稱藤九郎木下順菴門人號龍溪享保六丑年六月三日歿す歳五十五小石川茗荷谷徳雲寺に葬る文廟侍講、若き時孝子の聞ありし人

服部清助 保孝 名誠之號鶴溪翁享保十四酉年十一月廿三日歿す小石川茗荷谷徳雲寺に葬る

服部源八 保命 字愿恭號樽洲通稱善藏後源八儒にして書を能くす保庸の弟なり正徳元卯年二月十四日歿す歳六十五茗荷谷徳雲寺に葬る

服部繁二郎 愿郷 服部南郭二男名惟恭元文五申年三月十一日十七歳にて天死す品川東海寺に葬る

服部元喬 南郭 平安の人字子選、始幸八後小右衛門と改む、號を芙蓉館主人と云天和三年十歳にて江戸に來り後三年繪事を以て柳澤侯の臣と成り後致仕し徂徠に學で詩文を以て一時を風靡し海内に山斗たり芝赤羽に居るを以て赤羽とも號す、寶曆卯年六月廿一日歿す歳七十七品川東海寺中少林寺に葬る

服部善藏 栗齋 攝津の人名保命字左甫一號旗峯又梅圃子とも云ふ村士玉水門人なり、寛政十三年五月十一日歿す歳六十五

八田知紀 香川景樹門人明治六年八月二日歿す歳七十五品川大圓寺に葬る

八田龍溪 名憲章字子漢備前の世臣寶曆五亥年七月廿一日歿す歳六十四

八田古秀 古藤 字子堂平安の人應舉門人文政五年九月五日歿す

八朶園寥松 天保三辰年閏十一月十七日歿す歳七十三

八文字舍自笑 安藤氏通稱八左衛門京麩屋町に住す延享二丑年十一月十一日歿す歳八十

芳賀一晶 冥靈堂 京の人玄益と稱す俳諧を各徳に學ぶ又書を能くし崑山と號す江戸に出て伊勢町に住む寶永四亥年四月朔日歿す歳六十四

春田九臯 名鷲字羽高號葆真菴儒にして詩文を好くす佐藤一齋門人文久二戌年二月十一日歿す歳五十二赤坂種徳寺に葬る

春田播摩 壽廉堂 名永年具足師にて古實に委し寛政十三年五月二十九日歿す歳四十八

春木南溟 名秀熙字子緝號擘雲漁者書を以て鳴る明治十年十二月十二日歿す歳八十四谷中天王寺墓地に葬る

春木南華 讀書齋 通稱扇之助南溟の男慶應二寅年六月十七日歿す

春木南湖 幽石亭 通稱門彌名鯉號烟霞釣叟、天保十亥年四月廿五日歿す歳八十一

秦鼎滄浪 尾州の人漢學を能くす天保三辰年七月十三日歿す歳七十三

秦源藏 星池 名其馨號初如齋文政六未年三月八日歿す歳六十一書家なり

畠山卿八 梅園 名常操初名常保入道して梅軒と云ふ一橋侯の目付役たり古實歌學に委し文化十三年八月剃髮して金杉村に隱居す天保十二年十二月四日歿す歳七十一四ッ谷笹寺に葬る

畠山如心齋 郷八の孫故實に通す明治十六年六月廿七日歿す

畠山箕山 吞舟軒箕山を見よ

畠山隨應 牛菴 名光政明曆二申年八月廿一日歿す歳六十八

畠山隨世 牛菴 名義高光政の男元祿六酉年四月廿七日歿す歳六十九

畑金鷄 道雲 上毛の人號觀奕道人別號燕石樓又は奇々羅と稱す文化六巳年正月廿一日歿す歳四十二

畑銀鷄 平亭 上毛の人通稱數馬字毛義金雞の子なり嘉永元申年五月廿日歳四十九上野に於て歿す高尾村長覺寺に葬る

畑道意 鐵鷄 字習之號翰齋銀鷄の男あり文久二戌年二月四日歿す歳四十九上野高尾村長覺寺に葬る

秦清次 觀阿彌 本姓服部氏初名觀世九後三郎結崎治部と云ふ謠曲の作者なり應永十三戌年五月十五日歿す歳五十二

秦元清 世阿彌 結崎左衛門太夫清次の男初藤若九後三郎字宗全 康正元亥年七月廿二日歿す歳八十一

英一峰 世一挺 一峰男、天明八申年六月十二日歿す西本願寺眞光寺に葬る

英一桂 名信重北窓翁四世孫天保十四卯年十二月廿一日歿す歳八十五二本榎願乘院に葬る法號英壽院一桂日仙辭世一二三百生きやうとこそおひしに八十五にて不時の若死

英一舟 東窓翁 英一蝶養子長八の嗣又號潮窓通稱彌三郎名信種明和五年正月廿三日歿す歳七十二、二本榎承教寺中願乘院に葬る

花房九十九 名正治因州鳥取藩士易學に達す又俳諧を嗜み雅名を百鳥園英舎と云ふ明治廿一年九月廿七日歿す歳七十一牛島弘福寺に葬る

原白隱 慧鶴 名惠鶴駿河原禪支寺住職たり畫風一流あり明和五年十二月十一日歿す歳八十四勅諭して神機獨妙禪師と給ふ

原仲 冠山 本姓小笠原號樂易道人文政四巳年四月廿一日歿す歳五十九

原冲藏 狂齋 淡路の人名公逸字飛郷後僧となり脩眞と云ふ井上金峩門人、寛政二戌年四月廿日歿す歳五十六服部坂金剛寺に葬る

腹唐秋人 中井董堂を見よ

原更山 羊遊齋を見よ

原田平入 宗貞 號無心菴石州流の茶人あり寶曆八寅年三月三日歿す歳七十一田畑興樂寺に葬る

秦元雅 大圓 結崎次郎元清の嫡男長祿三卯年十月九日歿す歳六十五

羽川珍重 三同 真中氏名仲信俗稱太田幹五郎大田ハ川口號宣觀居士鳥居清信の門人寶曆四戌年七月廿二日歿す歳七十六下谷池端東園寺に葬る

塙檢校 保己一 武州兒玉郡保己村の産始め萩原宗國門人後暫く眞淵に從ふ文政四巳年九月十二日歿す歳七十六四ッ谷南寺町安樂寺に葬る

塙二郎 忠瑤 號温古堂保己一の男なり文久二戌年十二月廿二日歿す歳四十九四ッ谷南寺町安樂寺に葬る

花安松江女 平安の人歌津女と稱す寛政八辰年九月十七日歿す歳廿五鳥郡山に葬る

花笠魯助 文京 本姓東條氏琴臺の實兒にて號純亭豊島新造と稱す戯作者なり萬延元申年三月二日歿す歳七十六深川靈巖寺地中葬る法號魯鈍筆辭世一山の端に老ら雪と見し花は根にかへりし後のはるの古さと

英一蝶 北窓翁 通稱猪三郎後次右衛門初多賀湖、狩野安信門人後一家を起す俳號曉雲亭保九辰年正月十二日歿す歳七十三、二本榎承教寺中願乘院に葬る

英一蝶 世信勝 通稱長八號栗舎北窓翁長男元文二巳年閏十一月十一日歿す歳四十七深川陽嶽寺に葬る

英一峰 春窓翁 通稱彦輔寶曆十辰年四月廿八日歿す歳六十四

原田吉右衛門 東岳 名直字温夫豊後の人東涯の門人天明三卯年十二月三日諸州漫遊中、中津に歿す歳五十五

原坦山 鶴巢 本姓新井氏盤城藩士後姓を改て原氏と云ふ初め蘭學を學ぶ後故有て天保十七年出家佛門に入る明治廿五年七月廿七日歿す歳七十四市ヶ谷長延寺に葬る

原雙桂 尙菴 名瑜字子才平安の人漢學を以て唐津侯に仕へ後古河侯に移る明和四年九月廿日歿す歳五十駒込吉祥寺中洞泉寺に葬る

原三右衛門 念齋 名善字公道北山門人文政三辰年三月十九日歿す歳四十七

原南陽 水戸の人文政三辰年八月十六日歿す歳六十八

原松州 文政十二丑年十月十九日歿す歳五十二

原敬仲 恭胤 雙桂二男肥前唐津に生れ後古河侯に仕ふ寛政五丑年八月十一日歿す歳四十六吉祥寺中洞泉寺に葬る

原武太夫 盛和 幕府御手先與力の隱居初名富次郎渾名原富といふ牛込清水町に住す寛政四子年二月二十二日歿す歳九十五(隣の痴氣奈良柴等の著者)

原在中 臥遊 名致遠字子重平安の人有職畫所典畫師と稱す天保酉八年十一月二十八日歿す歳八十八

原震平 古處 名震秋月侯世臣文政十亥年正月廿二日歿す歳六十一秋月城西、西念寺に葬る

伴蒿溪 閑田 名資芳近江八幡の人有賀長伯の門人なり國文和歌を能くす文化三寅年七月廿五日歿す歳七十四頂山に葬る

伴洲五郎 信友 若州小濱の臣本姓山岸氏、宣長翁の門人にして博覧なり尤史籍に通ず弘化三年十月十五日歿す歳七十四若狹發心寺に葬る

半時菴淡々 三揚 本姓松井氏其角門人號長水翁寶曆十一年十一月二日浪花に歿す歳八十八大坂難波村端龍寺に葬る法號百門長水と云ふ辭世あさ霜や杖で畫がさし不二の山

幡隨意院長兵衛 本姓塚本氏慶安三寅年四月十三日歿す歳三十六下谷北寺町源空寺に葬る

白幽子 白仙 姓氏不詳北白川の山中に住し常に金剛經を誦せり石川丈山の八分字は此翁に學へりと云ふ寶永六丑年八月九日歿す高壽にして二百餘歳に及へりとぞ

羽黒謙齋 養潛 元祿十五年正月十一日歿す歳七十四

白壽坊信我 江戸の俳人本姓野村氏號道元居士文化十四年十月十六日歿す歳六十四麻布園林寺に葬る

白水田良 箏山 名は棟字は田良其先は明人姓劉氏天明辰年四月廿五日歿す歳六十二洛東眞如堂に葬る

羽倉外記 昌齋 名は則字は用九號可也又簡堂又蓬翁とも號す文久二戌年七月三日歿す三田臺町一丁目正泉寺に葬る

林 信篤 春常 初又四郎一名懸字直民號鳳岡又整字鶴窓居橋隱亭主人の諸號あり延寶八年庚申二月廿三日家督を繼ぐ元祿四年辛未正月十三日特に命して蓄髮せしめ大學頭に任じ從五位下に叙す十一年戊寅牛込數百區の地を賜ふ享保十七年壬午六月朔日卒す歳八十九私諡して正獻といふ

林 信充 幼名七三郎後春察と稱す信篤の子なり側室内田氏所出字子厚一名愈、字士信號榴瀾又快堂彩雲峯復軒翼齋の諸號あり其居を松風亭と云ふ元祿二年巳巳十二月始て常憲公に謁し寶永元年庚申九月十三日中興御小姓格となり四年丁亥三百苞を賜ふ享保八年癸卯二月九日職をつき大學頭に任す、九年甲辰家督を繼ぐ賞賜皆父信篤の時の如し寶曆八年戊寅十一月十一日卒す歳七十八私諡して正懿といふ

林 信智 稱百助一名恣、字禹玉號退省確軒容與園白鶴觀主人の諸號あり寛保三年癸亥六月四日卒す歳五十七私に靖厚と諡す

林 信言 初泰助後内記と稱す初名信武一名愿字子恭風谷と號し居所を松風亭といふ信充の子享保十年始て謁見延享四年十二月圖書頭從五位下となり安永二年十一月廿八日卒す歳五十三私に正貞と諡す

林 信愛 稱内記信言の男一名悠字子節龍潭と號す居所を此君亭といふ寶曆十一年十二月十八日韓使來聘之扱により從五位下に叙し圖書頭に任せらる、明和八年五月廿八日父に先たちて卒す

林 信徵 初又三郎後内記信愛男一名惠字子明號鳳潭安永三年甲午三月八日家督をつぐ天明六丙午年八月廿八日卒す正良と私諡す

早野巴人 宗阿 號秋半亭竹雨郡又月泉其角門人東都の人寛保二戌年六月二日歿す行年八十一京師に客死

林 藤坡 名は瑜字宇尹通稱周輔加州侯の儒士天保七年七月廿五日歿す歳五十六加州石川郡大乗寺に葬る

林 幹々 女 幹々 谷文晁の妻稱波瀾寛政十一己未年七月廿三日歿す淺草北寺町源空寺に葬る

林 鶴梁 長孺 明治十一年正月十六日歿す歳七十三溜池澄泉寺に葬る

林 吉勝 林又左衛門子幼名吉松、稱左近衛門號俚齋、元和元年卯正月廿九日歿す歳七十三

林 長枝 諸鳥の男文化五辰年五月廿日歿す下谷幡隨意院に葬る

林 道春 羅山 名忠字子信明曆三丁酉年正月廿三日歿す行年七十五墳墓忍岡の別邸に在りしを元祿十一年牛込山伏町に移すといふ

林 道榮 墨痴 名應宗肥前長崎の人万治二年江戸に來り薙髮して官梅と號す又蘿山となる後歸りて通事と成り書法一家を成す寶永五年十月廿二日歿す歳六十九

林 信亮 幼名又次郎後式部又宇兵衛と改稱す一名懸字伯虞又勝文號松洞又稽古齋菊溪天明年辛丑閏五月十九日歿す歳七十六

林 信敬 初大吉後内記實は富田能登守二男信篤養て嗣子とす一名敬字子行號錦峰又號潤齋、天明七年二月家督をつぐ寛政五年癸丑三月卒す簡順と私諡す

林 子平 友直 本姓岡村氏海國兵談三國通覽を著はし妻なし子なし板木なし金もなければ死にたくもなしと讀みて自ら六無齋主人と號せり寛政五丑年六月廿一日歿す歳六十二仙臺西の町龍雲院に葬る

林 永喜 名證又名信澄稱東舟號樽墩子道春同母弟なり賜ふ同十五年寅八月十九日卒す歳五十四

林 天瀑 述齋 名衡字公鑑從五位下大學頭初又藏と稱し蕉軒老人と號す天保十二年七月十日卒す歳七十四下總千葉郡高津村觀音寺に葬る

林 周助 東溟 名義郷長州の人字周文安永九子年九月廿五日歿す歳七十三牛島弘福寺に葬る

林 春齋 幼名吉松寛永七庚午春元服又三郎と稱す名は軒葵軒夕陽軒等諸號あり十一年甲戌十月三日祝髮して春齋と稱す天和元年辛酉五月五日卒す歳六十四私に文穆と諡す

林 春徳 名守勝字子文號函三後又欽哉考榮邁剛納子靜庵甚齋之諸號あり後専ら讀耕齋と號す後祝髮春徳と稱す萬治四年辛丑三月十二日疾て卒す歳三十八私に貞毅と諡す

林 春東 幼名又助、延寶四年丙辰十一月九日歿す歳二十三

速見春曉齋 春曉

大坂北の新地一丁目幾竹屋源兵衛の
事なり文政六未年五月十日歿す歳六
十餘

濱村六藏 藏六

文政二卯年七月十八日歿す

濱野政政

通稱太郎兵衛用和六丑年十月廿六日歿す歳七
十四

本居宣長の門に及ぶ
三年三月歿す歳五十一攝津西成郡浦江村妙壽寺に葬る

橋本經亮 香圃

橘氏肥後守號香慕園有識故實に精し文
化三寅年六月十日歿す歳四十七

長谷部柳居 眠柳居

通稱半左衛門寛延元辰年五月廿
九日歿す

長谷部柳居好齋 又人の號

林 春益 幼名源三郎後又右衛門と稱す一名譽字翼成號
學軒又谷飲後名信如字利生號萬應延寶四年
丙辰十一月十八日家督を繼ぐ享保十九年甲寅九月十五日
卒す歳六十四實の高麗春澤法眼の二男なり

林 春宗 幼名吉松後又三郎名惠號鷄峯貞享二年乙丑十
一月廿八日歿す歳僅十八

林 叔勝 字敬吉稱左門寛永六巳年六月六日歿す歳十七

林 檀雨 檀宇 名趨號塙齋又篤亭初又三郎と稱す從五
位下左近將監弘化三年十二月六日歿
す歳五十五

林 諸鳥 林居士 本姓鹽瀨氏稱和助眞淵門人京橋に住
す寛政六寅年六月十九日歿す歳五十
餘下谷幡隨意院に葬る

林屋正藏 林泉 三笑亭可樂門人樂我と云ふ可龍亦笑三
とも正三ともいひ後林屋正藏と改む怪
談師の祖なり天保十三寅年二月六日歿す歳六十二

速見仁右衛門 象之 名恒則江戸の人紀府上郷安藤氏
の儒官春臺門人延享元年十二月
月三日歿す歳三十八

速見春曉齋 春曉 大坂北の newly 一丁目幾竹屋源兵衛の
事なり文政六未年五月十日歿す歳六
十餘

濱村六藏 藏六 文政二卯年七月十八日歿す

濱野政隨 通稱太郎兵衛明和六丑年十月廿六日歿す歳七
十四

長谷部好齋 蘭溪 又の號調親延享二丑年十二月廿四日
歿す歳五十六本所中之郷妙縁寺に葬
る

泊瀬川 歌川 越前三國出村街荒町屋多七抱遊女なりし
が中途にして東武より來り俳師と往來せり
半年にして歸り再び勤め期満りて後薙髮して歌川と云ふ
同所に庵を結ひ安永六酉年七月十七日歿す歳六十一

長谷川勤兵衛 戲塙の道具仕掛其他小道具怪談物の工
夫に妙を得たり中にも千人廻し三方せ
り上げ等に名高し天保十二年八月歿す歳六十三淺草橋
塙保元寺に葬る其孫長谷川勤兵衛明治二十三年二月八日
歿す長原寺に葬る

長谷川嵐溪 本姓阿部氏越後三條の人名重怒號謹翁慶應
元丑年閏五月九日歿す歳五十二郷里實塔院
に葬る

長谷川雪洞 等運 名信行安永九子年九月五日歿す淺草
崇福寺に葬る

長谷川雪堤 名宗一字松齋雪旦男明治十五年六月十五日
歿す歳六十四淺草幸龍寺に葬る

長谷川雪旦 一陽庵 名宗秀一號嚴岳齋天保十四卯年
正月廿八日歿す歳六十六淺草田圃
幸龍寺に葬る

長谷川保樹 壽山 通稱理平、號櫻戶主人周防岩國の藩
士初め和歌を二條派に學び又眞淵景
樹を折衷す明治廿三年一月九日歿す歳八十二辭世一樂し
さへさこそと思へ後の世も花と紅葉の山陰にして

濱松歌國 浪花狂言作者俗稱武助南水漫遊其他著書數多
あり文政十亥年二月十九日歿す歳五十二大坂
谷町筋天龍寺に葬る

萩原綠野 敬齋 名承字公龍稱鳳二郎安政三辰年九月歿
す歳六十二忌日未詳

萩原乙彦 本姓森語一郎十時庵の門に入り對梅居乙彦と
云ふ亦二世梅居里谷城と改む後萩原秋庵の養
子と成る小説家にして俳諧を能くす明治十九年二月廿八
日甲州矢村にて歿す歳六十一

萩原英輔 大麗 字休郷名萬世廣道兼山門人漢學家な
り文化八未年五月八日歿す歳六十、芝
三田中寺町妙福寺に葬る

萩原宗固 貞辰 通稱七左衛門市谷本村に生るもと鈴木
氏四谷左門町萩原家の養子となり和歌
を能くす天明四辰年五月二日歿す歳八十二四ッ谷南寺町
本性寺に葬る

萩原秋嚴 通稱只助名暈字大飛號松鶴堂明治十年二月十
九日歿す歳七十五谷中天王寺に葬る

萩原廣道 蒜園 通稱小平太岡山藩浪人にして鹿藏と曰
ひ後鹿左衛門と改む號出石居鹿鳴草舎
本居宣長の門に入り國學を善くす又小説をも作れり文久
三年三月歿す歳五十一攝津西成郡浦江村妙壽寺に葬る

橋本經亮 香圃 橋氏肥後守號香慕園有識故實に精し文
化三寅年六月十日歿す歳四十七

長谷部柳居 眠柳居 通稱半左衛門寛延元辰年五月廿
九日歿す

芭蕉堂以長 一翁 通稱有馬菊右衛門幕府の町同心隱居
して俳諧を嗜む明治三年十一月廿一
日歿す歳六十四青山龍巖寺に葬る

海に人の部

丹羽正伯 實曆二申年正月四日歿す歳五十三本郷丸山本
妙寺に葬る

丹羽雲氣 奎仲 名晟字奎仲漢學者なれど終身妻らす僧
の如し寛政十二申年四月九日歿す麻
布廣尾光林寺に葬る

二條康道公 明珠院攝政俳諧を松永貞徳に學び一体を成
し給ふ千九卿と號す寛文六午年七月廿八日
歿す歳六十

二宮尊徳 相模國足柄柏山の人通稱金次郎、安政三年辰
十月廿日歿す歳七十一

西脇惣右衛門 棠園 名前字居敬本姓高階氏丹波の人
儒士天保二卯年七月廿四日歿す
歳六十九小石川松雲寺に葬る

西川伊二郎 吳延 通稱萩野忠次郎俗に云ふ人形遣ひな
り二代目伊三郎と稱す弘化三年年八
月十一日歿す歳六十九東本願寺中教覺寺に葬る

西川如見 如軒 享保九辰年九月廿四日歿す歳七十七

西川祐信 自德齋 通稱右京初名祐助京の人號文華堂初め狩野永納の門人後土佐光祐に學ぶ自ら大和繪師と稱す寶曆四卯年九月十一日歿す歳八十一

西川祐尹 得祐齋 祐信の男通稱祐藏寶曆十二年八月廿五日歿す歳五十七

西依儀兵衛 成齋 名周行肥後國玉名郡の人若林強齋門人寛政九巳年歿す歳九十六

仁科白谷 備前の人弘化二巳年五月廿九日歿す歳五十五播磨國印南郡今市浦正覺寺に葬る

仁科琴浦 通稱吳平字士明始め琴川文化十一戌年五月八日歿す歳五十九

西村芳園 松村景文の門人にて繪を能くす慶應三卯年十一月八日歿す歳六十二

西村藐菴 通稱西村左兵衛號花柳園新吉原の坊正なりき嘉永六丑年十一月廿四日歿す淺草等學寺に葬る(花街漫録を著述せし人なり)

西村重長 通稱孫三郎號仙花堂通油町に住す浮世繪師なり寶曆六子年六月廿七日歿す歳六十餘

西山宗因 梅翁 通稱二郎名豊一始め一幽後宗因肥後の人號向榮菴西翁梅花翁とも云ふ天和二戌年三月廿八日歿す歳七十三天満寺町西福寺に葬る

西山建甫 木下順菴門人名順恭本姓阿比留氏元祿元辰年十月三日歿す歳三十一下谷坂本養玉院に葬る

西山拙齋 名正字士雅本姓坂本氏備中の人寛政十年十月五日歿す歳六十四

堀部勝女 妙海尼 赤穂義士堀部彌兵衛の女安永七戌年二月廿五日歿す歳二十六高輪泉岳寺に葬る

堀利賢 有梅 織部正號梅花散人万延元年十一月六日卒歳四十三小石川源覺寺に葬る

堀田麥水 加賀の人なり天明二寅年十月十四日歿す

堀田正敦 攝津守仙臺侯宗村が八男下野佐野城主たり寛政二年六月十日若年寄と成り文政八年四月十日八日准城主と成る同九年江州堅田より舊領佐野へ所替と成り城主に任ぜらる天保三年正月致任す同九月九日卒す歳七十五、澁谷祥雲寺地中香林院に葬る

堀内迎光菴 雲鼓 京五條橋東千觀松片陰に寓す號千百翁剃髮して助給貞徳派の俳人なり享保十三申年五月二日歿す歳六十四

堀内仙鶴 範齋 水間沾徳門人號長生庵又自鶴翁江戸の人京師に住す寛延元辰年閏十月廿一日歿す歳七十四大象の來りし時の句に「今や引富士の裾野の蝸牛 化笛齋」

堀山洞廷 名暢字君舒京師の人安永七戌年十月五日歿す歳三十一洛本満寺に葬る

堀正藏 南湖 名正修字身之號習齋木下順庵の甥藝州侯の儒臣寶曆三酉年三月七日歿す歳七十

堀楓亭 名貞恒字士輝安永六酉年六月廿一日歿す歳二十六京極誓願寺に葬る

壕越二三治 菜陽 始め澤村二三治寛延二年壕越と改む演劇作者なり安永七戌年二月十八日歿す歳五十八

西澤一鳳 通稱正本屋九右衛門大坂心齋橋南四丁目に住す書林板元戯作を好み豊竹座の戯曲作者となり享保十六亥年廿四日歿す歳六十七

西澤一鳳 李叟 通稱九郎右衛門號綺語堂又理助と稱す戯曲作者なり嘉永五年十二月廿二日歿す歳五十一

西澤眞雛 鳳堂 通稱正本屋利兵衛李叟兄幼名助市天保十一年六月廿九日歿す歳四十九大坂下寺町大連寺に葬る

西湊州 天保八酉年二月十九日歿す歳四十二

新家春三 陶宮術の主唱者明治二十三年六月廿七日歿す歳七十七谷中天王寺墓地に葬る

新島襄 上野國安中の幼名七五三太安政中蘭學測量航海術を修め元治元年六月支那及米國に到り明治七年西京に學舎を創立し同志舎と云ふ明治二十三年一月廿三日相州大磯旅舎に歿す歳四十八大坂天王寺に葬る

新見法入 通稱傳右衛門幕府の士にて御寶藏番頭たり白山御殿に住す享保二酉年三月十一日歿す歳五十五駒込淺嘉町高林寺に葬る法號一起院眞心法入居士

ほの部の

堀杏菴 正意 藤原惺窩門人江州の人字は敬夫尾州の臣寛永十九年十一月廿五日歿す歳五十八芝切通金地院に葬る

牡丹花宵柏 大永七亥年四月八日歿す歳八十五

細川藤孝 玄旨 兵部少輔法印正四位權髮して幽齋と云ふ慶長十五戌年八月二十日卒す歳七十七、歌學に委しく著述多し

細川俊平 林齋 名素岡字獨慎印刷に妙なり明治六年二月七日歿す

細川林谷 天保十四卯年十月十八日歿す歳六十五彌勒寺地内龍光院に葬る

細川忠興 三齋 玄旨法印男越中守忠興正保二申年十二月二日卒す歳八十三

細井平州 徳民 通稱甚三郎字世馨南宮大嶽の門人享和元酉年六月廿九日歿す歳七十四淺草北寺町天岳院に葬る別號如來山人尾州の人なり

細井竹岡 君中 通稱次郎兵衛名庸號馬石山人書家なり寛政七卯年二月十三日歿す歳八十一淺草善松寺に葬る

細井廣澤 知慎 通稱次郎太夫字公謹號思怡齋又篤林庵と云ふ万治元戌年遠州掛川に生れ東都青山に住す儒にして書を能くせり享保二十年卯十二月廿三日歿す歳七十八武州等々木村満願寺地中豫應院に葬る法號不孤有隣大居士

細井九臯 知文 廣澤の男通稱文三郎號澤雅道人天明二寅年五月四日歿す歳七十二等々木村満願寺地中豫應院に葬る

細井錦城 知雄 廣澤の孫稱左右衛門字長羽文化五辰年十月十一日歿す歳五十七同寺に葬る

細井貞雄 昌阿 號詞花堂稱藤十郎元桶町に住せし桶方用達なり山本正臣の門人後木居翁の門人と成る文政六未年九月二日歿す歳五十二西本願寺中福泉寺に葬る

細井之水 成江堂 志水延清の門人稱忠右衛門、寶曆十一年巳年六月二日歿す歳七十三

細井半齋 斗南 名離字麗玉稱八郎右衛門浪花の人別號太乙真人享和三亥年十一月六日歿す歳七十七

細木香以 香意 字冷和號香以山人明治三年九月十日歿す四十九駒込願行寺に葬る(通稱津の國屋藤次郎人呼んで津藤といふ狂歌を彌生庵雜丸に學び挑江園と云ふ後三世千種庵を繼ぐ遊里に豪奢を極め晩年零落す)

穗積以貫 伊助 播磨の人東涯門人放蕩不拘の人大坂に住し醫を業とす享保十一年年歿す

穗積元供 天也翁 名惟正字元供上毛の人、天保十四卯年十月十八日歿す歳六十五彌勒寺中龍光院に葬る

本因坊算砂 碁所元祖名日海元和元亥年五月廿六日歿す歳六十四

本因坊秀甫 碁客なり明治十九年十月十四日歿す歳四十九本郷丸山本妙寺に葬る十八世秀甫と稱す

家を出で武辨を事とす尊氏の刀劍の奉行となる其子本妙其子妙大其子妙秀其子妙壽々々男子なくして足利六世の將軍普賢院義政の近習松田右衛門三郎清信を養子とす此六世本光なり家業の巧手本阿彌中興と稱す本光の子光心始め男子なく多賀豊後守中原高忠の二男片岡二太夫が妻は妙壽が二女にして其子は本阿彌の外孫なるを以て二太夫の子次郎左衛門を養て家を嗣かしむ剃髮して光二と云是光悦が父なり織田右府に親任す後光心に實子光利三兵衛 出來しかば家名を實子光利に譲り別家を立つ此本阿彌の家を別る初めなり前田家の元祖前田利家卿の府中に在せし時三百石を給りて家臣とある

本目權左衛門 名親辰本目流二世元文元辰年七月十六日歿す小日向本法寺に葬る

本目親信 本目流手跡の祖通稱左衛門と稱す寶永元申年五月三日歿す歳五十八小日向本法寺に葬る

本目親英 隼人 初總輔關鳳岡門人字子芳又號蘭草、安永十五年二月三日歿す

本松齋一得 元常林寺住僧文政三辰年正月朔日歿す歳百三才淺草常林寺に葬る

本松齋一得 通稱佐藤雲平名淨鑑幕府の人嘉永三寅年六月十四日歿す歳七十一四谷蓮乘寺に葬る

鳳潭法師 元文三年二月廿六日歿す歳八十五

北條團水 樞堂 白眼居士才慶の門人俳諧を業とす正徳元卯年正月四日歿す歳四十九

北條霞亭 名讓號天放生通稱讓四郎志州の人文政六未年八月十七日歿す歳四十四巢鴨眞性寺に葬る

本多沖翁 壺山 名忠如字子璋時之助と稱す後從五位下越中守たり南郭に學ぶ安永二巳年三月十五日卒す歳六十本郷麟祥院に葬る從四位侍從正大弼忠篤の父なり

本多忠統 猗蘭 通稱駒之助河内西臺侯あり祖徠門人寶曆七年二月廿九日歿す歳六十六深川靈巖寺に葬る(忠統字大乾後に從五位下伊豫守と成る元祿四巳年六月十八日近江膳所城に生る延享三年隱居して拙翁と號す男子十八女子十人あり畫は雪舟派なり)

本多忠永 隨應 勢州神戸城主丹後守俳名清秋文化十四年九月十七日卒す歳九十四深川靈岸寺に葬る辭世「雨はれて連に眞如の月夜哉」

本間遊清 號九江吉田藩醫士龍別號眠雲又百里と云ふ嘉永三戌年八月歿す歳七十和歌を能くす

本阿彌光甫 空中齋 光悦男書及陶器製造に至妙なり天和二戌年七月廿四日歿す歳八十二

本阿彌光賀 明治二十年六月廿九日歿す谷中妙法寺に葬る

本阿彌光悦 徳友齋 本阿彌光心養子號空中奄又大虛庵と云ふ寛永十四丑年二月三日歿す洛北光悦寺に葬る歳八十一刀劍鑿定を業とし又書を能くす

本阿彌長春 妙本 刀劍鑿定家の元祖京都の人文和四邊野に葬る(妙本は五條家の元祖高長卿老年の庶子にして長春と云ふ後剃髮して本阿彌と號す高長卿の子長經の末子となし刀劍唯識を好み足利等持院將軍に仕ふ初て儒

豐藏坊信海 孝雄 號牛籠豐藏坊任職松花堂門人又狂歌を善す元祿元辰年九月十三日歿す歳五十四

穗井田忠友 標助 景樹門人三河の人弘化四未年九月十八日歿す歳五十六淺草常林寺に葬る

北藤浮生 銀塘居 一號迦樓羅關江戶銀町に住す享保二酉年正月廿三日歿す歳四十八小日向金剛寺に葬る

本者庵湖十 老鼠 曾氏號鼠軒元文三戌年七月廿七日歿す歳六十三淺草山谷宗林寺に葬る

黒川亭雪麿 敬丹舎 越後高田の人通稱田中善三郎墨川亭月麿の門に入り書を學ぶ後戲作を兼たり安政三辰年十二月五日歿す歳六十白金臺町九丁目妙緣寺に葬る

甫喜山景雄 明治十七年四月五日歿す歳五十七

への部

米庵牛吞 號牛放庵、米仲の門人寛政四子年三月五日歿す歳七十

平秩東作 東蒙山人 立松氏字子玉號嘉穂庵名は懐之内藤新宿旅籠屋後烟草商寛政元酉年三月八日歿す歳四十二市谷善慶寺に葬る法號釋宗專

編無爲 貞鎮 通稱五十嵐定右衛門萬治元戌年三月十三日歿す歳八十四墓所一覽云依田貞鎮號編無爲居士稱伊織明和元年三月十七日歳六十六にして歿す府中善明寺に葬ると

この部

鳥羽僧正覺猷 醍醐天皇第六の皇子西宮左大臣高明公四世の孫宇治大納言隆國九子なり保延六年申九月十五日寂歳八十八山城國鳥羽に居し以て鳥羽僧正といふ

鳥羽屋二右衛門 四代目杵屋六左衛門弟子初名文五郎中興の名人なりき仔細有て中頃東武線太夫となり後三右衛門と改む明和四亥年二月廿七日歿す歳五十六

土橋亭りう馬 龍馬 俗稱彌太郎元祖龍生門人にて落語家なり始めりん馬後二代目龍生後りう馬と改め植木店に住す嘉永四年亥六月十日歿す歳五十三淺草寺中常林寺に葬る

魚屋北溪 葵園 名辰行號拱齋俗稱岩窪金右衛門始め養川院門人後北齋の門に入る家業生魚を鬻ぐ仍て氏を魚屋と改む故に鯉魚を畫くに妙を得たり嘉永三年歿す歳七十青山千駄谷立法寺に埋葬す

鳥取大武 鳴卿 通稱鳥取幸右衛門名謙文化九年八月六日歿す淺草南泉寺に葬る

鳥居忠耀 畔庵 舊幕府旗下高二千五百石初名耀藏後甲斐守に任す其後斷絶す明治六年十月三日卒す駒込吉祥寺に葬る墓表隆清鳥居君之墓とあり

鳥居清信 俗稱庄兵衛父を庄七清元といふ難波町に住して浮世繪の一派を開く享保十四年七月廿八日歿す淺草寺町法成寺に葬る

鳥居清倍 俗稱庄助清信男實曆十三未年十二月二日歿す歳五十八淺草寺町法成寺に葬る

鳥居清満 俗稱半三始め清元芳師三味線所後鳥居養子と成る天明五巳年四月三日歿す歳五十一淺草寺町法成寺に葬る

鳥居清長 通稱新助後市兵衛本材木町に住す新場の清長といふ是れなり文化十二年六月五日歿す歳六十四餘墓所未詳

鳥居清満 三代目清満の孫然れども清長に學ひ始め清峯と云ふ文化十二年五代目清満と改む明治元年十一月廿一日歿す歳八十二淺草寺町(今南松山町と改)法成寺に葬る

鳥居清満 五代目清満男明治廿五年八月十九日歿す歳六十一淺草南松山町法成寺に葬る

遠田澄庵 松平三河守抱醫安政五年七月三日奥醫師に召出され二百俵三人扶持下さる明治廿二年七月廿九日歿す雜司ヶ谷旭町本立寺に葬る

遠山荷塘 一圭 一圭は越後の人京都妙心寺の僧たりし江戸に來り本所表町横町に住り一人比丘尼を具したり是は彼か妻あり長崎妓家の女なりとそ是を連てかしこを走りしにや知らずされ容儀もよからず殊に一圭より年越て見えたり月琴を弾くことは其比丘尼に學ひたりと西廂記を講じ所々にて小説をよめり亦職人を雇て月琴提琴を作らせ崎陽より舶來品を取よせたる由云て望む人に賣りの才子にて小説は我もの如くいひ説きしかど往々誤しこと有り表札には荷塘と書きて號を苗字の如くにしたたり天保二卯年七月朔日歿す歳三十七淺草稱念寺に葬る

遠山景晋 樂土 從五位下左衛門尉前名金四郎天保八酉年七月廿二日卒す行年八十八本郷九山本妙寺に葬る

遠山左衛門尉 景元 從五位下高五百石景晋男天保十一年三月より十四年二月迄北町奉行を勤む弘化二年三月より嘉永五年二月迄南御奉行再勤慶應四年辰八月廿六日卒す行歳六十餘

遠坂文雍 雪堂 稱庄司號十友園谷文晁門人嘉永五子年七月廿日歿す歳七十

十時梅屋 顧亭 名半藏浪花の儒者又書畫を能くす忍項寺梅谷の父文政元子年正月廿五日歿す歳七十二

豐田長敦 形外 通稱重三郎號播磨古典服制に委し明治九年一月三日歿す歳七十四谷中天王寺墓地に葬る

豐田天功 松岡 通稱彦二郎水戸の人名亮漢籍國典に通す元治元子年正月廿二日歿す

豐竹若太夫 梁塵軒 豐竹派の祖竹本義太夫に學び始め竹本采女太夫後豐竹若太夫と改む享保十六年九月領受して豐竹越前少掾重恭と云ふ明和元年九月十三日歿す歳八十四大阪中寺町本經寺に葬る

豐島豐州 稱周吉名幹字子卿後終吉本姓中岡文化十一戌年十一月七日歿す歳七十八牛込原町幸國寺に葬る

豐田佳風 有紀堂 號才菴稱平次右衛門俳人にて江戸堺町に住す才應門人享保十二中年十二月十四日歿す歳四十九谷中大雄寺に葬る

戶田可靜 瑞雲園 松本應隨の兄號松軒京に住す天明五巳年十一月六日歿す歳五十八

戶田欽堂 大垣侯の三男五歳の時分家戶田阿波守養子となりて其の家を嗣く放蕩にして落魄し小説戯文を綴りて世を渡り明治廿三年八月十日横濱にて歿す歳四十一駒込蓮光寺に葬る

戶田茂睡 露軒 名恭光かくれが又梨本ともいふ其祖は東照公に仕へて戦功あり後故有て浪人となり歌學に功ありし人なり實永三戌年四月十四日歿す歳七十一淺草金龍寺に葬る

戶塚彦助 沼津侯の臣柔術家なり明治十九年四月十五日歿す歳七十四千葉胤住寺に葬る

香舟軒箕山 幼々齋 通稱藤木七郎左衛門名成庸號了
因居士又如幻齋別號遮莫堂京の
八寶永元申年六月廿一日歿す歳七十七辭世一かりの世に
地水火風をもどすなりこれ五輪のさしひきいなし一箕
山俳諧を真徳に學び又好て戯作をなす其著色道大鏡は六
十餘州の花街を巡遊し年を積む事三十餘年にして成れり
と云

東方籙山 祖山 名望字滿卿加賀人江沼の家臣文化十四
年六月廿五日歿す歳六十六
膝 木石 名桓字子虎通稱嘉一兵衛姫路藩士徂徠門又熊
耳に從學す寛政九巳年六月十日歿す歳四十八
膝 南豊 名斐字公錦扶搖と號す佐伯毛利侯の庶子熊耳
に學て詩を能くす天明六年七月某日歿す歳五
十七

桃林亭東玉 玉整 本姓阿部稱桃次郎始め太統軍談の風
大阪に登り大に流行して所の者東の玉なりとて東玉と名
付たり嘉永二酉年八月十九日歿す歳六十四柳島本性寺に
葬る法號智光遠道辭世人とは、友達ともがむかへにて
浄土の席をうつとこたへよ

東里山人 鼻山人 通稱細川浪次郎幕府の與力麻布三軒
家に住す戲作は京傳門人號九陽亭後
奇方傳授屋となる安政五年三月廿五日歿す歳六十八
東海和尚 不豚 常州の人鈴木直右衛門男水戸壽昌山禪
園寺の住職幼少より書を好み中にも河
豚を畫くに妙手たり又禪學を善くす享和二戌年十月三日
寂す歳七十七全寺に葬る

藤堂梅花 巴陵の男書家弘化元辰年三月七日歿す歳七十
六谷中坂町臨江寺に葬る

董 九如 廣川 本姓井戸稱平助名弘梁字仲魚號翠軒幕
府の士なり書を宋紫石に學ひ後一家を
成す著色花鳥墨竹尤妙なり享和二戌年七月廿三日歿す歳
五十九淺草法養寺に葬る

殿村守親 櫻亭琴魚を見よ
德本上人 紀州日高郡志賀谷櫛村の農、田伏三太夫の子
廿七歳にして出家し全郡往生寺大圓に從ひ剃
髮し德本と稱す文化十五寅年九月廿七日遷化年六十一巢
鳴一行院に葬る清淨菩薩現身如來と諡す一我庵は草履の
うへに笠の下杖を柱と墨染のそで一の歌人口に膾炙す

獨步庵超波 清水氏稱長兵衛江戸の人俳師貞佐の門人も
と味噌商なりしか志有て俄に髮を削り家の
紋巴と長兵衛の長の字を合せ長巴と稱す後超波と改元文
五申年七月廿七日歿す歳三十六阿部川町稱念寺に葬る

獨立天外 天外一間人 明人始め戴笠字蔓公と稱す明
の亂を避けて來化し隱元に隨
ひ僧となる書法を玄岱に受く詩文醫を善す寛文十二子年
十一月六日寂す歳七十七

德力龍澗 名は良弼字子靜通稱十兵衛恭軒の男安永六酉
年二月八日歿す日暮里南泉寺に葬る

德力恭軒 有隣 名良顯字原稱十之丞讚州高松の人評定
所儒者元文三年五月十日歿す日暮里
南泉寺に葬る

土佐光吉 從五位下泉州堺に住す慶長十八年五月五日卒
す歳七十五

土佐光芳 大藏少輔 實永七年從六位上に叙し元文四
年十一月彈正忠に任す享十三
年八月落髮法名常寬明和九年八月廿七日歿す歳七十三

藤堂巴陵 通稱勝右衛門名良鼎號木壽伊賀侯臣江戸に生
る書を能くす寛政九巳年十月廿九日歿す歳七
十九谷中臨江寺に葬る

桃 道隆 東園 號浮葉菴實曆七丑年十一月廿八日歿す
歳五十五牛島弘福寺に葬る

藤堂凌雲 名良曠字千里梅花の男書家明治十九年十一月
三十日没す歳七十八谷中坂町臨江寺に葬る

東條文藏 一堂 上總の人號士毅安政四年己七月十三日
歿す本所番場妙源寺に葬る法號知音院
古微日勒居士

東條琴臺 呑海堂 東條亭首三男幼名幸藏後文左衛門名
耕字子藏明治十一年九月廿七日歿す
歳八十四谷中天眼寺に葬る

藤 貞靖 本姓藤井氏京の人明和八酉年八月十九日歿す
歳六十八内野看清寺に葬る

東花坊支考 瑟々庵 別號獅々庵又野盤子美濃の人姓
渡邊各務氏を稱す俳諧俳文に長
す享保十六亥年六月七日歿す歳六十八

東蝶樓欣堂 壽仙 神田白壁町質屋にて稱貞次郎號向榮
樓又欣堂閑人後狂言作者と成り實田
壽助と改む天保九戌年二月十九日歿す歳四十二

藤菴太年 明治二十年三月十六日歿す歳六十六

東西庵南北 制刷師にて始め本所竹町に住す通稱朝倉力
藏後に藤八と改む後芝金杉に移れり戲作を
好みて著書もあり文政十亥年七月歿す

土佐光成 左近將監 正保三年十二月廿日生元祿元年
五月從五位全六月刑部大輔に任
す宮中書所實永七年三月廿一日卒す歳六十五

土佐光則 寛永十五寅年正月十六日卒す歳五十六

土佐光信 刑部太輔 始め左近將監將軍義政に奉仕し
從五位に叙す大永五年五月廿日
歿す歳九十二

土佐光起 左近將監 元和三年十月廿三日生る剃髮し
て法名常照といふ貞享十二年四
月十六日法眼に叙す元祿四年九月廿五日卒す歳七十五

土佐光祐 右近將監 初名光高元祿元年十二月正六位
下に叙し右近將監に任す實永七
年七月九日卒す歳三十六

戶崎十太夫 淡園 稱五郎太夫名允明字哲夫常陸の人金
華門人政仕の後淨嚴と號す文化三寅
年十一月十四日歿す歳八十三巢鴨東福寺に葬る

常盤津文字太夫 文中 京都寺町に生る佛具商文右衛
門と云ふ宮古路國太夫門弟と
なり享保廿一年江戸へ下り豊後豫養子宮古路文字太夫と
改む元文元年正月市村座へ初て出動是常盤津の祖なり安
永十年十二月朔日歿す歳七十三麻布廣尾祥雲寺に葬る

常盤津文字太夫 初代文字太夫門人始め常盤津鐘太
夫後兼太夫と改む天明七年八月養
子となり文字太夫と改む寛政十一年七月八日歿す歳四十
四淺草正念寺に葬る

常盤津文字太夫 兼太夫の實子幼名林之助文化四年
十一月小文字太夫と改め市村座へ

常盤津文字太夫 兼太夫の實子幼名林之助文化四年
十一月小文字太夫と改め市村座へ

常盤津文字太夫 兼太夫の實子幼名林之助文化四年
十一月小文字太夫と改め市村座へ

富田泰州

近江の人香川景樹門人天保十一子年五月廿五日歿す歳五十

富塚隆一

靜盧

名信易字子直仙臺侯の儒臣享保七寅年十月四日仙臺に於て歿す歳六十

富永君慶

名正翼字長南明和三成年十一月十一日歿す聖坂稱壽寺に葬る

富谷休團

龜翁 伊豫松山の人嘉永三成年九月七日歿す歳八十二白銀正源寺に葬る

ちの部

千葉茂右衛門

芸閣

名玄之秋山玉山門人江戸の人後古河侯に仕ふ寛政四子年十一月七日歿す歳六十六千駄木總禪寺に葬る

千葉周作

名成政淺利又七郎の門北辰一刀流の一派を成す水戸侯に仕ふ安政二卯年十二月十日歿す歳六十

土肥默翁 自觀

號堪齋又自觀居士稱左何享保十一年四月廿九日歿す歳六十七市谷長延寺に葬る

千代倉知足

照軒

號蝸廉亭尾張鳴海の人通稱勘左衛門寶永元申年四月十三日歿す歳六十六

千代倉蝶羽

知足の男俳人なり寛保元年酉十一月十二日歿す歳六十五

如羅架琴風

浪花の人始女羅架享保十二未年二月七日歿す歳五十九本所押上春慶寺に葬る

東元書

字義都號既白山人明朝の人天正十五年渡來歸化す宣文十一年亥年六月九日歿す歳八十五尾州名古屋建

出勤^{十六歳}に全十二年文字太夫と改む文政三卯年十一月朔日歿す歳廿八正念寺に葬る

常盤津兼太夫^初惠橋 二代目文字太夫の弟始め大和太文字太夫歿して跡目後見の事より不和となり寛政十一年十月より吾妻國太夫と改め一派を初む芝居へ出勤流義の段物となりし大方此兼太夫に始まる大橋に住して大橋兼太夫と云は是なり享和二年六月十六日子細有て横死歳四十八

常盤津兼太夫^三代芝中 二代目兼太夫取立始綱太夫文化芝の魚賣まぐろ兼太夫と云ふ是なり文化十一年七月廿七日歿す歳五十四(廿六夜に蟹を食して夫か爲に死すと云ふ)

東美土印 狼唄窟 富氏名敦吉從五位上通稱左近將監京東山に住む俳文一家を成す文政二卯年九月十七日歿す歳五十九

富尾似船^二 名は重隆號蘆月庵又似空軒五條堀川の人寶永二年酉七月十六日歿す歳七十七

富田泰州 近江の人香川景樹門人天保十一年五月廿五日歿す歳五十

富塚隆一 靜廬 名信易字子直仙臺侯の儒臣享保七寅年十月四日仙臺に於て歿す歳六十

富永君巖 名正翼字長南明和三戌年十一月十一日歿す聖坂稱讚寺に葬る

富谷休團 龜翁 伊豫松山の人嘉永三戌年九月十二日歿す歳八十二白銀正源寺に葬る

ちの部

千葉茂右衛門 芸閣 名玄之秋山玉山門人江戸の人後古河侯に仕ふ寛政四子年十一月七日歿す歳六十六千畝木總禪寺に葬る

千葉周作 名成政淺利又七郎の門北辰一刀流の一派を成す水戸侯に仕ふ安政二卯年十二月十日歿す淺草誓願寺に葬る劍術に於て二男榮次郎も名人の開えありしが文久二戌年正月に歿せり

地黄坊樽次 茨木春朔を見よ

千柄菊旦 日本橋西川岸の坊正清右衛門と云享和元酉年二月二日歿す歳七十二淺草南龍院に葬る

近松半二 本姓穂積氏千前軒門人戯曲作者剃髮して半二坊天明二寅年二月某日山科にて歿す歳五十八

近松徳叟 雅亮 浪花坂町の娼家大榭屋と呼べり若年に者となり伊勢音頭の仕組より立作者となり近松徳三と云ふ文化七年十二月廿六日歿す歳五十九

近松門左衛門 信盛 本姓杉森氏幼名平馬長州萩の人肥前唐津近松寺に遊學す後京師に登り古式古實を學ぶ後仕官を辭し近松門左衛門と名乗り淨瑠璃作者と成る享保十九年十一月廿一日歿す歳七十二大坂寺町法妙寺に葬る

千代春道 板下書にて橋本徳瓶と云ふ馬喰町に住み義太夫稽古本の板下尤能し傍戲作を爲し浮世喜樂とも云へり文政八酉年十一月三日歿す

富本豊前太夫^初代豊洲 俗稱福田禪司宮古路文字太夫門人品太夫後師と絶して富本と改む明和元申年十月廿二日歿す四十九淺草専修院に葬る

富本豊前太夫^二代豊翁 初代の實子幼名馬之助後午之助して豊前據と云ふ文政五年午七月十七日歿す歳六十九右同寺に

富本豊前太夫^三代豊珠翁 二代目の養子通稱善太郎藝名初午之助後豊前太夫其後豊前據又豊珠翁と改む明治十三年八月十三日没す歳七十二右同寺に

富本豊前太夫^四代豊洲 三代目豊前太夫の實子幼名保太郎後豊志太夫又四代目豊前太夫と改む明治廿二年九月七日歿す歳六十右同寺に

土肥鹿鳴 名貫雅通稱秀太郎因州鳥取の臣文化十三子年二月十三日歿す歳七十三西久保金地院に葬る

土肥霞洲 允仲 名元成稱源四郎白石門人號松巖實曆七丑年八月十四日歿す歳六十五市谷長延寺に葬る

土肥默翁 自觀 號堪齋又自觀居士稱左仲享保十一年年四月廿九日歿す歳六十七市谷長延寺に葬る

千代倉知足 照軒 號蟬康亭尾張鳴海の人通稱助左衛門寶永元申年四月十三日歿す歳六十六

千代倉蝶羽 知足の男俳人なり寛保元年酉十一月十二日歿す歳六十五

如羅架琴風 浪花の人始女羅架享保十二未年二月七日歿す歳五十九本所押上春慶寺に葬る

陳元贊 字義都號既白山人明朝の人天正十五年渡來歸化す實文十一亥年六月九日歿す歳八十五尾州名古屋建中寺に葬る

千種有功卿 千種有條卿二男歌道に秀つ安政元寅年八月廿八日卒す歳五十八

千種庵恒海 通稱山中要助書林也狂歌を嗜みて梅霜解と號す文化八未年四月廿六日歿す歳五十一淺草今戸稱福寺に葬る

茶屋宗古 細川三齋門人元祿六酉年十二月十七日歿す歳七十五

致曲菴逸志 笠家逸志とも云ふ號素竹軒又半局菴延享四卯年五月廿七日歿す歳七十三淺草報恩寺中高徳寺に葬る

智恵内子 元の本網の妻俗稱通女狂歌を嗜む文化四卯年五月十八日歿す歳六十三深川正覺寺に葬る

笠々亭仙果

石亭積丸明治十七年三月五日歿す歳四十八
廣徳寺地中に葬る

笠翁齋亂鳥

插花師なり享和三亥年十二月十七日歿す歳
八十八

柳下亭種員

本姓坂倉氏幼名金次郎又万太郎とも云ふ後
通稱坂本屋新七始め酒買後小間物商又書估
ともなりしが乾坤坊良齋の弟子となりて紀ノ海音と名の
り講談の席にも出でたり後柳亭種彦の門に入て種員と改
む安政五年八月廿一日歿す歳五十二深川靈巖寺地中安
禪寺に葬る

柳亭種彦

足薪翁 通稱尚屋彦四地林村の旗二口
を賜る名知久戲號愛雀軒亦諺紫樓狂

龍公美 草廬

通稱彦次郎伏見の人字君玉號又吳竹齋
根侯儒員寛政四子二月二日歿す歳七十九

劉東閣

元祿八亥年九月十八日歿す歳六十三

劉龍門

通稱宮瀬三右衛門紀州の人名維翰字文翼號龍門山
人明和八卯年正月四日歿す歳五十三高田玄國寺に
葬る

劉安生 壽山

名元育字元統號長養齋諸葛監門人書を業
とす寛政二戌年三月九日歿す麻布古川曹
溪寺に葬る

梁象水

寛政八辰年正月廿九日歿す歳七十六

小濱子洋 樸齋

名大海安政二卯年三月十四日歿す歳六
十四

越智鳳臺

名通貞字子章二樂子安永七戌年六月五日歿す
歳四十八本所中の郷成就寺に葬る

廣徳寺地中に葬る

笠翁齋亂鳥

插花師なり享和三亥年十二月十七日歿す歳八十八

柳下亭種員

本姓坂倉氏幼名金次郎又万太郎とも云ふ後通稱坂本屋新七始め酒賈後小間物商又書估ともなりしが乾坤坊良齋の弟子となりて紀ノ海音と名のり講談の席にも出でたり後柳亭種彦の門に入て種員と改む安政五年八月廿一日歿す歳五十二深川靈巖寺地中安禪寺に葬る

柳亭種彦

定新翁 通稱尚屋彦四郎 蘇州の風、二日、狂と賜る名久成號登蓬軒亦諺紫樓狂

劉東閣

元祿八亥年九月十八日歿す歳六十三

劉龍門

通稱宮瀬三右衛門紀州の人名維翰字文翼號龍門山人明和八卯年正月四日歿す歳五十三高田玄國寺に葬る

劉安生 壽山

名元育字元毓號長養齋諸葛監門人書を業とす寛政二戌年三月九日歿す麻布古川曹溪寺に葬る

梁象水

寛政八辰年正月廿九日歿す歳七十六

小濱子洋 樸齋

名大海安政二卯年三月十四日歿す歳六十四

越智鳳臺

名通貞字子章二樂子安永七戌年六月五日歿す歳四十八本所中の郷成就寺に葬る

越智一樂

名通順字子玄明和三戌年四月廿四日歿す墓所同上

ぬの部

廣徳寺地中に葬る

笠翁齋亂鳥

插花師なり享和三亥年十二月十七日歿す歳八十八

柳下亭種員

本姓坂倉氏幼名金次郎又万太郎とも云ふ後通稱坂本屋新七始め酒買後小間物商又書估ともなりしが乾坤坊良齋の弟子となりて紀ノ海音と名のり講談の席にも出でたり後柳亭種彦の門に入て種員と改む安政五年八月廿一日歿す歳五十二深川靈巖寺地中に葬る

柳亭種彦

足薪翁 通稱種彦の庶子二日俵を賜る名知久戲號愛雀軒亦諺種彦

龍公美 草廬

根侯儒員寛政四子二月二日歿す歳七十九

劉東閣

元祿八亥年九月十八日歿す歳六十三

劉龍門

通稱宮瀬三右衛門紀州の人名維翰字文翼號龍門山人明和八卯年正月四日歿す歳五十三高田玄國寺に葬る

劉安生 壽山

名元育字元毓號長養齋諸葛監門人書を業とす寛政二戌年三月九日歿す麻布古川曹溪寺に葬る

梁象水

寛政八辰年正月廿九日歿す歳七十六

小濱子洋 樸齋

名大海安政二卯年三月十四日歿す歳六十四

越智鳳臺

名通貞字子章二樂子安永七戌年六月五日歿す歳四十八本所中の郷成就寺に葬る

越智二樂

名通順字子玄明和三戌年四月廿四日歿す墓所同上

ぬの部

りの部

李由法師 湖東平田村光明通照寺住職亮隅上人云傍俳諧を能くす寶永二酉年六月廿日遷化歳四十五

緑亭川柳 前旬附川柳點の祖淺草新堀阿部川町里正通稱柄井八右衛門寛政二戌年九月廿三日歿す歳六十三淺草新堀龍寶寺に葬る

緑亭川柳 本姓水谷氏俗稱金藏代々佃島に住す魚御用漁師四代目川柳の門始めこまめと云ふ安政五年八月十六日歿す歳七十三西本願寺に葬るみめぐりの碑に「和らかくかたく持ちたし人心」

緑亭川柳 五代目川柳の子俗稱金次郎後金藏狂名田作願寺に葬るみめぐりの碑に「つさらぬといふはちいさか智恵袋」

笠々亭仙果 初代仙果門人通稱篠田久次郎と云ふ初め万石亭積九明治十七年三月五日歿す歳四十八廣徳寺地中に葬る

笠翁齋亂鳥 挿花師なり享和三亥年十二月十七日歿す歳八十八

柳下亭種員 本姓坂倉氏幼名金次郎又万太郎とも云ふ後通稱坂本屋新七始め酒買後小間物商又書估ともなりしが乾坤坊良齋の弟子となりて紀ノ海音と名ひ講談の席にも出でたり後柳亭種彦の門に入て種員と改む安政五年八月廿一日歿す歳五十二深川靈巖寺地中安禪寺に葬る

柳亭種彦 足薪翁 通稱高屋倉四地掛附の旗二口柳を賜る名知久戲號愛雀軒亦諺紫樓狂

名柳の風成作名初の三彦後種彦と改む天保十三寅年七月十八日歿す歳六十赤坂浄土寺に葬る

柳亭種彦 仙果 通稱高橋彌太郎尾州熱田神官名廣道戲稱す初代の親戚及び柳門より種彦の名を止めらる依て柳亭種彦と改む慶應四辰年二月九日歿す歳六十三本所東盛寺に葬る

柳亭種彦 藍泉 本姓高島通稱瓶三郎幕府の坊主兼淺草七軒町組屋敷に生る書を高橋波藍に學ひて藍泉と云ふ戲作を好み轉々堂と號す明治十五年一月三世種彦と改む明治十八年十一月十八日歿す歳四十八淺草松葉町正定寺に葬る

柳風庵 一雪 柳梨氏稱三郎兵衛京の人高瀬梅盛の門人號牛露庵延寶八申年九月二日歿す歳六十

柳前齋 蒼狐 通稱喜平次又號五千堂明和三年十一月六日歿す歳五十五駒込徳性寺に葬る

龍公美 草廬 通稱彦次郎伏見の人字君玉號又與竹翁彦根侯備員寛政四子二月二日歿す歳七十九

劉東閣 元祿八亥年九月十八日歿す歳六十三

劉龍門 通稱宮瀬三右衛門紀州の人名維翰字文翼號龍門山人明和八卯年正月四日歿す歳五十三高田玄國寺に葬る

劉安生 壽山 名元育字元毓號長養齋諸葛監門人書を業とす寛政二戌年三月九日歿す麻布古川曹深寺に葬る

梁象水 寛政八辰年正月廿九日歿す歳七十六

ぬの部

沼尻收平 龍涯 字其章關其寧の門人書家文政五年七月十五日歿す歳七十五本所彌勒寺に葬る

貫名海屋 名苞字子善晚年松翁通稱泰次書畫共に善し文久三亥年五月六日歿す歳八十六

をの部 附れ

小畑良卓 詩山 名行簡號真隱明治八年亥七月四日歿す

小原新助 淳齋 本姓伴氏名正貞字季忠寶永七寅年閏八月八日歿す歳六十一洛東稱迎寺に葬る

小林歌城 元雄 號雲衣堂舊稱田兵衛其の祖は大坂の役和歌を嗜みて名を知らる文久二戌年二月八日歿す歳八十五淺草西福寺に葬る

小濱子洋 樸齋 名大海安政二卯年三月十四日歿す歳六十四

越智鳳臺 名通貞字子章二樂子安永七戌年六月五日歿す歳四十八本所中の郷成就寺に葬る

越智二樂 名通順字子玄明和三戌年四月廿四日歿す墓所同上

越智正球 本姓曲直瀬氏醫家享保十三申年十二月十三日歿す歳八十五麻布天眞寺に葬る

小川一敏 明治十九年一月三十日歿す

小川破笠 笠翁 名觀號夢中庵又卯觀子通稱平助俳名宗宇江戸桶町に住す後津輕侯に仕ふ延享四年六月三日歿す歳八十七書は一蝶の門にて一蝶と云ふ

小川萍流 名盧門文政三辰年二月廿七日歿す歳六十五

小河保壽 中臺 號鶴巢山人天明三辰年九月六日歿す歳七十牛込善國寺に葬る

小河伸栗 天門 名寛字仲栗長崎の人中西澄州門人寶曆十一己巳年六月十三日歿す歳五十増上寺地中瑞華院に葬る

小川立所 成章 字伯達伊藤仁齋門人稱茂七郎平安の人元祿九子年七月十七日歿す歳四十八洛西蓮臺寺に葬る

小川泰山 名信成字誠甫通稱藤吉郎天明五己巳年五月廿二日歿す歳七十七小石川光岳寺に葬る藤吉郎は相州の人泰山は相州大山の事にして人々大山の奇童と呼し故に自ら號とせり五六歳の比より敏慧にして書を讀む

とを好み十歳にして歴史を誦すると既に通し其父之を喜
て江戸へ携へ北山の門に學ばしむ平生史類を讀むとを好
み其の解しかたさものを研究し解説數萬言を著したり此
人若し存在せば一代の儒宗なるべしと有識者之を稱して
惜めりとぞ

小川直記 華山 號圖南嘉永二酉年八月三日歿す歳五十
八白銀立行寺に葬る

小川弘齋 稱茂輔名成材立所弟享保三戌年三月八日歿す
歳六十八

小川松民 明治廿四年五月三十日歿す歳四十八谷中天王
寺墓地に葬る

小川秀藏 算島 北總の人数學星象に精し文化三寅年四
月廿八日歿す壽節郡明王山寶泉寺に葬る

岡西惟中 一時軒 初一有俳句は西山宗因門人望一に醫
を學ぶ又書をよくす元祿五申年八月
十日歿す歳五十四

岡 德藏 鳳鳴 名 德字肅夫平安の人油小路に住す東
所門人天明元丑年八月十一日歿す歳七
十廉節と私諡す

岡部白駒 龍洲 字千里通稱太中播州の人蓮池侯儒官明
和四亥年十一月八日歿す歳七十六洛東
迎稱寺に葬る

岡部左太夫 稠朶 名盛賢號千仍武州多摩郡の人土井侯
儒臣算術に精し明和六丑年八月四日
歿す歳九十一牛込長源寺に葬る

岡 林竹 名義道字物海號即翁稱三右衛門元文辰年六
月廿四日歿す歳六十六淺草寺町安宗寺に葬る

岡 鶴汀 名書卿字元齡通稱惣左衛門文化八未年正月十
八日歿す歳七十六麻布本村長興山に葬る

岡田半香 米山人の男名肅字子羽稱宇左衛門儒にして書
畫を能くす弘化三年二月八日歿す歳六十五

岳 太伸 東海 名融字子陽號白雲樓足守侯文學享和三
亥年二月廿三日歿す

岡田盤齋 磯波翁 名正利通稱左近跡部光海門人神道學
者なり近江の人江戸下谷に住す延享
元年六月十五日歿す歳七十八淺草新寺町行安寺に葬る

岡田平治郎 樗軒 本姓立野氏通稱伊勢屋平次郎號老樗
軒又讀考庵摩所一覽の編者なり文政
七申年八月十四日歿す歳四十六池の端讀賢寺に葬る

岡田米仲 號八樂菴明和三戌年六月十五日歿す深川六間
堀惠然寺に葬る

岡田米山人 名國字士彦稱查兵衛浪花の人文政元寅年八
月九日歿す歳七十五

岡田寒泉 泰齋 通稱清助字子強村士玉水門人文化十四
丑年八月九日歿す歳七十一

岡田閑林 通稱石輔號梯蔭嘉永二酉年十一月七日歿す歳
七十

緒方蘭阜 名修字叔明東與桑折の人伊達信夫二郎の地に
て護社の學を唱ふるは此人に始る實曆十辰年
正月廿七日歿す歳四十四

緒方光琳 方祝 尾形主馬の男名惟富號長江軒稱市之重
京の人享保元戌年四月六日歿す年五十
六京都妙顯寺地内日蓮宗本行院に葬る(光琳は父尾形宗

岡井郡太夫 嶺洲 名孝先仲錫黃陵の弟高橋侯儒官明和
二酉年九月七日歿す高輪東禪寺に葬る

岡井孝祖 黃陵 通稱彦太郎字伯錫水室長子享保三戌年
四月廿三日歿す歳五十三高輪東禪寺に
葬る

岡井郡太夫 赤城 名鼎字伯和謙州子享和三亥年三月廿
二日歿す田中興禪寺に葬る

岡野伊平 明治十九年六月三日歿す

岡安喜二郎 始め松永仙四郎長唄の名人文政四巳年四月
八日歿す歳六十二

岡安喜美太夫 始め富士松登喜太夫元治元子年三月廿六
日歿す歳六十八

小笠原一甫 名長和稱理左衛門明和七寅年十一月廿六日
歿す牛込大信寺に葬る

小笠原 仲 冠山 原冠山を見よ

小笠原祇尹 槿花坊 名長堅一號此花仙寛政十二申年
四月五日歿す牛込原町大信寺に
葬る

岡 三鳥 丹前舍 通稱岡芳右衛門名長益字哲甫近藤金
之丞臣文政十一年歿す戲作は始馬琴
を師とし後三馬に従ふ

岡崎彭齋 盧門 名信好字師古稱平太郎龍草盧門人京師
の人天明七未年三月廿六日歿す歳五十
七鳥部山に葬る

謙に從て書を學ひ既にして山本素程の門に遊ひ其技大に
進む後安信如慶等の筆意を參りし遂に一家の法を開き號
して青々齋と云ふ姓の字樣を改めて緒方を書す京都市中
に住し慶齋を開き善繪を以て業となし雁金屋と稱す晩年
専ら繪畫に従事せり父は本阿彌光悅及兒嶋宗真門なり

尾形乾山 男稱新三郎號深省又紫翠散人又習靜堂光琳兄
寛保三亥年六月二日歿す歳八十一坂本善養寺
に葬る

緒方洪菴 名章文久三亥年六月十日歿す歳五十四近世蘭
學醫大家

岡田宣純 享保六丑年九月八日歿す小石川傳通院中常樂
院に葬る

岡田宣汎 字彦愛宣純の子なり寛延三年十一月十七日
歿す小石川傳通院中常樂院に葬る

岡田新川 名宜生稱彦左衛門尾州の人號甘谷一號朝陽寛
政十一未年三月廿四日歿す歳六十三

岡田彦助 南嶽 號煌亭下總の人字秀三天保九戌年四月
十日歿す歳四十七

岡松良安 元文辰年十二月九日歿す歳七十二洛島部山
に葬る

岡村不卜 一柳軒 石田未得門人稱一郎右衛門元祿四未
年四月九日歿す歳六十余本所法恩寺
に葬る

岡井碧菴 東臯 名泰字定叟林鳳岡門人元祿十一年寅七
月廿五日歿す歳七十三高輪東禪寺に葬る

岡崎屋勘六 勘亭 中村座手代戲場看板等の書法を改め
て今の如くせし始は此人なり文化二
丑年二月三日歿す歳六十淺草田原町清光寺に葬る

小島嶋 果 肥前大村の人工學士にして史學に涉り日本
食志日本英異志の著あり明治二十五年十月
三十日歿す青山墓地に葬る

岡島冠山 名璞字玉成一字明敬稱彌太夫長崎の人享保十
三申年正月二日歿す歳五十五洛東清光寺に葬
る(冠山通稱彌太夫後に援之と改む林風岡門人長崎の人
壯年の時譯官を以て長州侯に仕ふ後致仕して京師に講説
し華音に精なるを以て開の晩年に至て稗官の學を以て徒
に授く我邦に於て水滸傳兩漢演義等の院本を讀むもの
冠山より始る江戸に在ては祖徠に寄寓す)

岡 秀竹 名泰嵩稱權平林竹男元文三年四月廿七日歿
す歳三十九淺草寺町宗安寺に葬る

岡本半助 宣就 初名正武號喜巷又無明道人産根侯國老
茶道和歌書を善くす明曆三酉年三月十
一日歿す歳八十三

岡本豊彦 司馬 字寧齋號鯉喬書家松村吳春門人弘化二
巳年七月十一日歿す歳六十八

岡本保孝 甲斐守正四位下に叙す加茂祠官和歌を嗜み殊
に能筆の名高し文政元寅年四月十九日卒す歳
六十八

岡本保孝 况齋 通稱勘右衛門又縫殿助博學高識まかも
隠君子なり著書算にたへす皆隠れて世
にあらはれず借ひ 明治十一年四月五日歿す歳八十二
淺草松山町東國寺に葬る法名養壽院殿徳温賢良

川戸崎町浄土宗無量院の所化玄秀と云者來りて屍を昇去
り茶毘して寺に葬れり其妻も元祿八年七月十四日に歿せ
り此地南浦(入浦)壽庵(支那廣東)二官(安南)三人の墓
も無量院にあるよしなれど所在定かならず

岡本秋暉 秋翁 通稱祐之丞小田原藩士始圭齋に學ぶ廣
間番たり鐵形の門人にて花鳥を畫くに
妙を得たり文久二戌年九月四日歿す歳七十八青山教覺院
に葬る

岡本氏足 初名氏祥後氏足に改む加茂祠官正四位下近江
守書博士に任す天保十一年四月八日歿す歳
五十一

岡本普亭 通稱慎助號秋書堂天保十亥年四月廿三日歿す
歳六十三

岡本子普 東郭 名元貴佐竹侯の臣儒官を兼天明七未年
十一月十二日歿す歳六十三秋田城西天
徳禪寺に葬る

岡本省翁 花亭 名成字子省號豐洲老人近江守詩歌を能
くす嘉永三戌年八月廿七日歿す歳八十
三四谷寺町安樂寺に葬る

男谷燕齋 通稱精一郎名思孝字君則天保十一年六月十
八日歿す歳六十四

岡 清兵衛 重俊 江戸和泉大夫の淨瑠璃作者又金平本
の作者京操の作も有り貞享四年七
月歿す

小田海僊 海仙菴 名藤字巨海百谷と號す稱長平長門の
人平安に出で奥月溪に學び後一家を
なし文久二戌年閏八月廿四日歿す歳七十八

岡本啓迪院 玄治 法印正保四亥年四月廿日卒す歳六十
餘麻布廣尾祥雲寺に葬る

岡本玄珠 玄治男法眼に叙す貞享元年九月廿二日歿す
歳五十九廣尾祥雲寺に葬る

岡本文彌 文壽軒 山本土佐藤門人一流を語り出し文彌
節と云ふ今諸流に此節付を用ふ元祿
七戌年正月十一日歿す歳六十二大坂下寺町稱念寺に葬る
法號清淨淨鑑信士

岡本胡保 保孝の子正四位下甲斐守に叙任す書博士と號
す天保七年七月廿四日歿す歳六十三

岡本三右衛門 南蠻シ、ワヤ人伴天運なり貞享二丑年七
月廿五日歿す歳八十四小石川戸崎町無量
院に葬る(岡本三右衛門ハ南蠻シ、ワヤの中バレルモト
云所の者にて伴天運よりシヨセイフ、カウコといひ寛永
二十年未五月黒田右衛門佐の領分筑州ヤキラ嶋へ漂着せ
り故に領主より一應尋問したるに切支丹宗を弘めんとい
ふ渡され同年七月十三日江戸へ着し宗門奉行井上筑後守
預りて傳馬町の獄屋に入れ夫より筑後守宅へ移して乳間
し段々説法ありければ改心して日本の宗門に歸依して是迄
も神妙に被し思召岡本三右衛門と名を下され耶蘇教穿鑿
の手引者として山屋敷に置れ年々銀子壹貫目と月俸十口
を以て上意にて此姓名と刀脇差等送賜はり召仕の男女等を
附られ又豆州三崎西町の某刑せられしを以て其妻を三右
衛門に下さる其後貞享二年七月初旬發病し牢獄醫石尾
道歸藥石を與へしも其功なく同月廿五日申の夕刻行年八
十四歳にて死去せり同人は山屋敷に在る事四十二年小石

小田穀山 文化元年六月六日歿す歳六十五

小田村伊助 廓山 名望之字公望山縣周南門人長州侯に
仕ふ周防三田尻の人明和三年八月
廿二日歿す歳六十四

小田切圖南 名翼字万里稱東次郎天保十二辛丑年五月歿
す

小田切土佐守 直年 從五位下寛政四年正月十八日北
町奉行文化七年十二月廿六日
加増五百石元高三千石勤役廿ヶ年文化八未年四月廿二日
卒す年六十九

乙 二坊 號松窓文政六未年七月九日歿す

小野隆菴 飛鳥 名常建號飛鳥山人太由南畝門人狂歌師
寛政五丑年八月晦日歿す歳八十一

小野重賢 蝸園 又の號蝸樓樓京の人天保五年正月十
四日歿す歳五十九

小野蘭山 名職博士以文號朽狐軒京の人通稱喜内文化七
午年正月廿七日歿す歳八十二淺草誓願寺に葬
る此の人物産の學を以て江戸に聞へ寛政十年九月七十歳
にて京より江戸に召され翌十一年七月廿八日御納戸格に
て初て御目見被仰付三十人扶持被下之

小野お通 元和二辰年三月五日歿す歳五十八

小野 梓 東洋 共存同衆創起者翻譯著述多し明治十九
年一月十一日歿す歳三十五谷中天王寺
に葬る

小栗宗丹 自溪

足利家の臣周文の門に入り後一家を成す墨書に妙なり相國寺に寓す寛正五年正月九日歿す歳六十七

小栗百萬 伽羅菴

稱次右衛門安永七戌年六月十六日歿す歳五十四西本願寺中覺性寺に葬る

小山田與清 松屋

名與清字文儒號知非齋弘化四年三月廿五日歿す歳六十五深川靈巖寺に葬る(與清は武藏國小山田の郷土中本孝の次男なり天明三年三月生る幼名寅吉後寅之助又仁右衛門と改む享和三年九月見沼通船方高田氏養子と成り庄次郎與清と改む字を正に改む後茂右衛門又六郎右衛門と改む又樂山堂後に松屋と改む別號報恩舎と云亦報國舎とも云ふ書を集めて推書舎と名付く漢學の師は古屋普陽和學の師は村田春海なり)

小倉鹿門

名實藤字廉平尚齋子長州侯の侍讀と成る安永申年十月二十日歿す歳七十四

小倉政義 三省

名克江州の人士佐侯に仕ふ谷時中門人南學の祖とす承應三年七月十五日歿す歳五十一

小倉尙齋

名貞字實操長州侯儒官元文二巳年十一月三日歿す歳六十一萩府泉和寺に葬る

小山元純

弘化二巳年正月二十四日歿す歳三十四淺草報恩寺地中尊念寺に葬る

小澤蘆菴

通稱帶刀名玄仲號觀荷堂冷泉爲十卿門人歌學に秀つ元龜山侯の臣享和元酉年七月十一日歿す歳七十九北白川心性寺に葬る

小澤卜尺

通稱太郎兵衛號孤吟又吟叟寶曆元未年九月三十日歿す淺草誓願寺に葬る

小澤得入

本船町坊正通稱利右衛門號詞文寶永六巳年十月二十四日歿す歳九十四淺草誓願寺に葬る

小澤蘭江

名政敏字叔道稱多門天明七未年八月十三日歿す駒込活妙寺に葬る

尾崎伴右衛門 敬孝

名廣安東郡の人書を以て業とす天明六年五月二十五日歿す歳五十七増上寺地中常照院に葬る

尾崎雅嘉 春陽軒

通稱春藏字有魚號春の屋別號盡月園學を善くす文政十亥年十月三日歿す歳七十三浪花細口春陽軒に葬る

萩原英輔 大麓

名萬世字休卿上毛の人文化八未年五月八日歿す歳六十

萩原近江守 重秀

初名彦次郎號三千七百石元祿三年十月二十一日歿す歳九十後御勘定頭正徳二年九月十一日免職正徳三巳年十月二十五日卒す歳五十六谷中長明寺に葬る

萩野八百吉 梅塙

名長字元亮號蛇山病夫本姓小野氏天保十四卯年五月十五日歿す歳六十三本所中の郷成就寺に葬る

萩野喜内 鳩谷

名信敏號天愚字孔平一號草鞋大王又高下谷泰宗成に葬る雲州の世臣幼年の時祖徠の門に入後遂に儒臣と成(喜内家世々藩の番師たり秩三百石を食む此人博物宏覽を事とし種々の奇行あり乘技に旁通し殊更に醫事を能くし衛生の説を唱ふ江戸にて品題の書を著し神社佛刹に小札をばりて千語でなす稱すと此人より始る是天明の末頃と云ふ又繼竿に刷毛を付て敷文のたかきを用ふることも此人の工夫なり)

荻生方菴

名敬之字景明徠の父醫を業とす本姓物部氏寶永三戌年十一月九日歿す歳六十七三田長松寺に葬る

荻生北溪 物觀

名觀字叔遠號玄覽道人徳七郎と稱す徠の弟にして幕府に奉仕す寶曆四戌年正月二十日歿す歳八十二三田長松寺に葬る

荻生鳳鳴 順卿

名天祐字順卿總右衛門と稱す金谷の男先職を襲ふ此時迄徠宅牛込赤城に往せしか市谷大番町に移る文化四年十二月十六日歿す同寺に葬る

荻生道濟 金谷

號金谷老人稱平三郎右衛門と更ひ實は山侯に仕ふ後物頭に進む著書頗る多し安永五申年七月廿九日歿す歳七十四三田長松寺に葬る

荻生徠 茂卿

本姓物部氏名雙松通稱惣右衛門號讓園三田長松寺に葬る(父を方菴と云憲廟の侍醫なり徠は寛文六年二月廿六日江戸番所に生る五才にして能く字を識り延寶七年三月父方菴事に在りて南總に賣せらる徠は從ひて移る然れども僻地に在りて苦學し元祿三年御赦にて江戸に歸る途に大儒となり柳澤侯に聘せられ祿五百石を賜り編修勅裁とかり大城にも屢々召されしなり我邦慶元以來の儒風爰に於て一變し復古の學を唱へて一時を風靡す文章は李王の修辭を宗とす英才多く其門に幅濶して其學風を補翼す然れども好奇の僻有て後世誹議する者多し實に一偉人なり)

荻生惣七郎 子彦

名義後字彦卿享和元酉年五月十七日歿す三田寺町長松寺に葬る

荻生青山 義俊

字彦卿通稱是三郎後惣七郎と更ひ北溪の子評定儒官と成る享和元年酉五月十七日歿す同寺に葬る

沖冠岳 明治九年七月廿五日歿す

鷺田青峨 六盤仙

水間活徳門人東都茅場町に住す享保十五戌年十月十三日歿す

沖淵泉 一峨

字子仰號清齋後靜齋鳥取藩士安政二卯年八月十一日歿す麻布六本木光尊寺に葬る

小關三英 篤齋

名好義初名貞吉出羽庄内に生る後岸和田藩の醫員と成り三英と改む天保十亥年五月廿三日自殺歳五十三

附の部

大石千秋 梅嶺

通稱清藏字順和歌を能す明治元年十二月十九日歿す歳五十八伊豆非山本立寺に葬る

大石千引 星盧

名貞見稱傳右衛門鳥山侯の臣千藤門人今嵯歌琴歌の作多し天保五年九月十日歿す歳六十五芝西應寺町法泉寺に葬る(千引は龜井戸の湯屋の主也)

大石眞虎 尾州名古屋の人幼名小泉門吉後大石門太又衛門七と改む天保四巳年四月十四日歿す歳四十二名古屋大頂眞福寺に葬る

大場寥和 咫尺齋万里亭實曆八寅年正月廿五日歿す歳八十三

大場景明 南湖 稱大次郎尤も曆數に精し天明五巳年五月廿三日歿す歳五十余駒込浩明寺に葬る

大畑春國 野々口隆正門人明治八年十二月十七日歿す歳五十八

大橋宗桂 寛永十一戌年三月九日歿す歳八十、二本榎常教寺に葬る(將基の名人なり)

大橋宗桂 世二 万治三年九月廿五日歿す歳四十八、二本榎常教寺に葬る(初名宗古後父名をつぐ)

大橋重保 龍溪 甲斐の人式部卿天保二酉年二月四日歿す歳六十四相州鶴沼邑空乗寺に葬る

大橋重政 龍溪男幕府書吏後一家を爲す稱長左衛門寛文十二年閏六月晦日歿す歳五十五相州鶴沼村空乗寺に葬る(大橋長左衛門は松花堂の門人にて文字の形を其まゝに用ひて自然に自己の形になし得たり)

大橋重雅 通稱大橋長平始重政岩城平候に仕ふ文化十酉年八月八日歿す歳五十四淺草西福寺地中存心院に葬る

大橋長廣 柿園 通稱九右衛門宣長門人嘉永四亥年三月五日歿す歳六十四

大橋順藏 訥庵 名順字同道文久二戌年七月十二日卒歿す歳四十八石碑は谷中天王寺に建つ

大西椿年 楚南 通稱行之助字大壽號運慶堂嘉永四亥年十一月六日歿す歳六十余淺草寺地中金剛院に葬る法號楚南堂椿年居士

大伴大江丸 號舊國浪花の人豊太門人文化六巳年三月十八日歿す

大沼枕山 熙々堂 通稱檢吉名益友字直公詩人、元御書院番與力明治廿四年十月一日歿す歳七十四谷中瑞輪寺に葬る

大沼竹溪 文政十亥年十二月廿四日歿す年六十四三田藥王寺に葬る

大岡越前守 忠相 美濃守忠高初名忠右衛門後能登守又越前守實曆元未年十二月十九日卒歿七十五聖坂功雲寺に葬る

大澁二千風 呑空 號無不非軒寓言堂三十にして佛門に入り東往居士鳴立澤西行庵を再建し實永六年四月四日行脚に立出て首途の遺言に曰く此日定命期なりと遂に其行くへを知らず

太田澄元 太洲 字子通號崇廣堂書并墨竹書に巧に本草學に通す寛政七卯年十月十二日歿す歳七十五本所押上大法寺に葬る

太田持資 道灌 備中守資清男幼名鶴千代九源六郎右衛門大夫備中守後從五位號伯舟亭又靜勝軒文明十八年七月廿六日上杉定政の爲に害せらる年五十五

太田南畝 蜀山人 名覃字子相通稱直次郎後七右衛門號極老人始め狂歌の號を四方赤良といふ文政六未年四月六日歿す行年七十五小石川白山本念寺に葬る(南畝は寛延二巳年三月三日生れ牛込甘崎町後小日向金剛寺下又駿河臺太田姫稻荷の向へ移り住す初め賀邸先生に學び後觀海先生に從學す明和二年御徒組へ出勤寛政六年聖堂學舎へ出同八年支配勘定に轉じ同十一年大坂銅座へ出役同十二年竹橋御書物調文化元年長崎出役同五年房總出役同七年職を辭す)法號杏華園心逸日休辭世一時鳥鳴つるかた身初松魚春と夏の入相のかね

太田才佐 錦城 名元貞字公幹號多稼老人春草翁柳橋釣廿三日歿す歳六十一谷中一乗寺に葬る(錦城は加賀の人其父櫻田氏を以て本氏に復す若年の時京師に赴き伊藤東所皆川淇園に學び後年江都に至り山本北山の弟子と成り塾に寓す幾もなく議論の異なり此四子後自ら一家をなす才佐始は吉田侯に聘せられ五十人糧を受く晩年に本國より吉田侯に請て儒員とす秩祿三百石を賜る)

大谷永庵 京の人歌書にも能くす名業廣法印に叙せらる安永九子年七月十一日歿す歳八十二東洛の定信院に葬る

大館高門 本居宣長門人天保亥年十二月三日歿す歳七十

大高清助 芝山 名季明號一峰居士谷時中門人土佐の人正徳三巳年五月二日歿す歳五十四澁谷長谷寺に葬る

大竹麻谷 名之濰字之瀟大内閣室門人通稱榮藏寛政十年正月廿七日歿す歳七十二光明寺に葬る

大竹斧八 蔣塘 名培字達夫號心靜堂安政五年三月十六日歿す歳五十八

大植宗木 寛永七年九月十八日歿す歳六十四

大塚嘉樹 蒼梧 字子敏通稱市郎右衛門有職故實を以て稱せらる伊勢真丈の上にあり享和三亥年六月廿九日歿す歳七十三淺草本覺寺に葬る

大塚孝威 字子儀字善助子祐弟清水家と仕ふ享和二戌年六月十二日歿す年八十服部坂道榮寺に葬る

大塚子祐 名孝輝稱大助物北溪門人田安世臣寛政四子年七月十八日歿す歳七十四服部坂道榮寺に葬る子祐の碑文樂翁公の作にて學術を此人に受し由を云へり

大槻磐水 玄澤 名茂實字子煥陸奥の人一關藩醫文政十に葬る(玄澤初め同藩建部清菴に就きて阿蘭陀の外科術を學び安永七年三月江戸に來り杉田元伯の門に入る此時年廿二天明三年九月蘭學階梯成る同六年五月仙臺本藩の醫員と成り文化八年五月幕府翻譯局に出仕す十一月將軍に謁し白銀二十枚を賜る官祿三百石なり文政五年幕府より月俸五口を賜りぬ)

大槻磐里 玄幹 名茂禎字子節號不錦書屋磐水の子天保八酉年十二月十三日歿す歳五十三高輪東禪寺に葬る(玄幹は磐水長男享和元年長崎に遊學し中野柳圃に從ひ和蘭の語格句法を受く三ヶ年にして江戸に歸り文化九年蕃書和解の命を蒙り父と共に天文臺に奉仕せり是より先文化三年堀田正政に隨ひ暇夷地に巡行す同十三年多年講究の力を以て蘭學階梯の缺を補ふ是を和蘭文法書の始となす)

大槻磐溪 清崇 通稱平治字子廣號鴻漸老人磐里子明治十一年六月十三日歿す歳七十八高輪東禪寺に葬る法號尙文院愛古磐叟

大槻清準 嘉永三戌年正月十七日歿す歳七十八

大槻俊齋 文久二戌年四月九日歿す歳五十七

大内熊耳 名永裕字子綽稱忠太夫奥州三春の人唐津侯に仕ふ徂徠門人安永五申年四月廿八日歿す歳八十下谷廣徳寺に葬る(熊耳先の百濟國明帝太子餘琳聖太子より出たり故に餘を以て姓とす)

大野權之丞 忍軒 幕府小十人青標紙殿居袋を着述して罪を得天保十二年九月十一日丹波綾部邸に幽閑中歿せり

大野鏡州 天保十三寅年正月十二日歿す歳六十一

大野松齋 出羽秋田の人初京の新宮の門に入後坪井信道の門人と成り又長崎に行きモンニツキ氏に種痘術を學ひ其後種痘積善社たり明治廿一年七月十七日歿す歳七十谷中天王寺に葬る

大野秀和 炭瓢齋 一號集和又相水翁江戸の人正徳四年八月十三日歿す歳六十四

大國隆正 佐紀之屋 野々口隆正とも稱す初號天柱山人石見津和の人和歌國學をよくす明治四年八月十七日歿す歳八十麻布市兵衛町長泉寺に葬る

大久保一岳 通稱秀太郎名好述安政六未年十一月十日歿す歳五十四天徳寺地中寶陽院に葬る

大久保一翁 石泉 名忠寛徳川家臣祿五百石幼名三市郎治十七年七月子爵を賜ふ明治二十一年七月三十一日卒す歳七十二青山墓地に葬る

大久保今助 常州茨城郡龜作村農明和七年江戸に出づ天保五年二月四日歿す歳七十八本願寺地中に葬る

大久保恪堂 號花婿連々書家明治二十二年十一月十六日歿す歳五十五谷中玉林寺に葬る

大久保長之助 鷺山 名教知字學海高田藩の儒員嘉永四年八月歿す歳五十五

大久保業 一翁の息鐵道技手たり明治廿三年七月七日岩手縣下松川の架橋檢分の際乘船覆りて溺死

大窪詩佛 天民 通稱柳太郎號詩聖堂又瘦梅天保八四年二月十一日歿す歳七十一淺草光成寺に葬る(天民は常陸の人江戸に出で下谷練堀小路に住し薙髮して天民と稱す詩人にて洒落なる此人の上巻し近時墨跡を賞する人多し殊に墨竹に長して其風韻高きと世の書家の及ぶ處に非ず男大窪兼助名謙字自牧號有山と云秋田侯に仕へて教授なりき明治十八年詩佛の亡骸相州藤澤驛東坂戸町三百拾五番地大窪甲子郎方へ改葬)

大倉穀 笠山 號義邦中林洞門人笠置の人嘉永三戌年正月二日歿す歳六十六

大藏謙齋 龍河 名讓字仲謙號桐陰弘化元辰年七月朔日歿す歳八十八

大熊宇田右衛 民中 享保六丑年六月廿二日歿す歳五十本所番場妙源寺に葬る

大串平五郎 雪蘭 名元善字子平元祿九年十二月十二日歿す歳三十九谷中養泉寺に葬る

大屋裏住 萩の屋 通稱大須美孫右衛門文化七年五月十一日歿す歳七十七深川法禪寺地中右衛門と云後金吹町中井新右衛門の家守と成る故に狂名大屋裏住と號す寛政元年中納言定家卿御遠忌の節追福の爲會集の折の狂歌(鶯も)の一首堂上に聞ゆる悉くも萩の屋の號を賜る寛政二年八月六十一才の時新よし原大文字屋の樓上にて酒宴を催したる上空樓の遊女禿藝者等七十余人に一剃つゝをらせて落髮したる奇人なり

大矢白鶴 蘆隱軒 初名虎竹老後薙髮して高辻清香菴に住し號を自茅齋と稱す延享三寅年九月廿七日歿す歳七十九

大藪錢塘 名良興稱久右衛門明和四年七月廿二日歿す歳六十四淺草實相寺に葬る

大町敦素 名質字正淳京師人仁齋門人享保十四酉年十一月十日歿す歳七十一京東眞如堂に葬る

大江蘭田 東陽 名維翰字伯祺一字文學通稱久川玄蕃京の人玄圃の長子天明八申年五月八日歿す歳三十西久保天徳寺地中不斷院に葬る

大江廣海 村田春海門人國學をよくす天保五年六月廿三日歿す歳六十六東京東島部野に葬る

大江成美 稱伊豫守從四位上號君山大炊家の門天保二卯年九月廿四日歿す歳八十六

大郷浩齋 名博須信齋死後の嗣子安政二卯年七月六日歿す伊皿子長應寺塔中正壽院に葬る浩齋子名穆明治十四年六月五日歿す歳五十二歳

大郷信齋 學究 名良則字伯儀稱金藏林門儒道學を以て鳴る弘化元辰年十月十四日歿す芝伊皿子長應寺塔中正壽院に葬る法號信良院恭謙日達居士

大崎則房 雉屋 通稱傳四郎万延元年四月十日歿す歳六十

大鹽平八郎 後素 大坂町奉行組與力號子起天保八酉年三月廿七日自害の上燒死す歳四十二

大鹽鼈渚 名良字子顯通稱與右衛門春臺門人天明五巳年七月十日歿す歳六十九淺草幡隨院中智白院に葬る(下谷池の端に住し炭薪を賣買し富巨萬をなす春臺の著述半は此人の校刊に成る晩年小梅村に移る)

大島贊川 名維直字無害越中の人加州侯の儒員天保九戌年閏四月廿九日歿す歳七十七加州石川郡大乗寺に葬る

大島芙蓉 印聖 名孟彪甲州高梨の人自稱して高を氏とす四月廿四日歿す歳六十三篆刻鉄筆尤巧也小石川無量院に葬る

大州屋吉右衛門 修業堂 蕨州の産城西下町に私立の學校を建て貧民の輩を教授す寛政五年八月十六日歿す歳六十三田中興禪寺に葬る(廣嶋侯の用達町人にて號南嶺といふ)

大森甘古齋 杖信 大森漸齋男實曆六子年十一月廿九日歿す歳八十八

大森宗勳 平安の人寛永三寅年四月十日歿す歳五十六

大森漸齋 石川丈山門人名秀祐稱安右衛門平安の人實永二酉年三月三十日歿す歳八十二

奥村政信

通稱本屋源六通油町に住す號芳月堂又丹鳥齋
觀妙浮世繪師明和五子年二月十一日歿す歲
七十九(美成の名譽往來には明和元申年七十九才と有
り)

渡邊東河

名彭通稱文平北越の人東江の門人にて書法を
能くす文化十二亥年六月廿五日歿す歲五十二
淺草北寺町祝言寺に葬る

渡邊幸庵

通稱清左衛門正徳元卯年七月廿四日歿す歲百
三十

渡邊孝泰 弘堂

平安の人並河天民の門人通稱新藏寶曆
十辰年十一月九日歿す歲七十二浴蓮臺
寺に葬る

渡邊赤水

通稱忠藏字伯顯玄對男天保四巳年十月廿九日
歿す歲五十八廣尾光林寺に葬る

度會園女 知鏡

岡西惟中妻伊勢山田に生る後冠里侯の
北堂に仕ふ俳諧をよくし書に巧みなり
享保十一年四月廿日歿す歲七十四深川靈岸寺地中念佛
堂に葬る辞世「曙の空はうつゝ、か阿彌陀佛」

渡邊如山 定固

通稱五郎天保八酉年七月十二日歿す歲
二十一

渡邊 覺

通稱伊右衛門本姓戸田氏茂睡の男和欣と
み難書之歩

度會告西

鳥尾 名未茂伊勢日

奥田尙齋 李仙樓 名元繼播州の人那波魯堂の弟文化四卯年八月十三日歿す歳七十九

奥貫正助 友山 名正郷字伯雅相州久下戸村土豪なり錦江に學て郷里に教授す天明七年三月歿す歳八十

奥村宗榮 名則政字子得號牡軒寶曆三酉年九月十日歿す歳五十七河東見性寺に葬る

奥村政信 通稱本屋源六通油町に住す號芳月堂又丹鳥齋觀妙浮世繪師明和五子年二月十一日歿す歳七十九(美成の名譽往來には明和元年申年七十九才と有り)

和智九郎右衛門 東郊 名君實字士華長州の世臣山縣西南の門人關西の第一等と稱す明和二年酉年六月廿三日歿す歳六十三

若林寛齋 又號強齋淺見綱齋門人享保八卯年五月三日歿す歳四十五

和田宗淳 名長鈍號襲明文化四卯年四月廿九日歿す白銀正源寺に葬る

渡邊東河 名彭通稱文平北越の人東江の門人にて書法を能くす文化十二亥年六月廿五日歿す歳五十二淺草北寺町祝言寺に葬る

渡邊幸庵 通稱清左衛門正徳元卯年七月廿四日歿す歳百三十

渡邊孝泰 弘堂 平安の人並河天民の門人通稱新藏寶曆十辰年十一月九日歿す歳七十二洛蓮臺寺に葬る

渡邊如山 定固 通稱五郎天保八酉年七月十二日歿す歳二十一

渡邊 覺 通稱伊右衛門本姓戸田氏茂睡の男和歌をたしみ雜書に涉る天和二戌年十一月三十日歿す歳四十淺草金龍寺に葬る

渡邊湊水 鋤雲軒 名從號隨菴稱甚藏玄對の父書を能す明和四亥年八月三日歿す歳四十八廣尾光林寺に葬る

渡邊南岳 圓山應舉門人平安の人字維石文化十酉年正月

渡邊赤水 通稱忠藏字伯暉玄對男天保四巳年十月廿九日歿す歳五十八廣尾光林寺に葬る

度會園女 知鏡 岡西惟中妻伊勢山田に生る後冠里侯の北堂に仕ふ俳諧をよくし書に巧みなり享保十一年四月廿日歿す歳七十四深川靈岸寺地中念佛堂に葬る辞世「曙の空はうつゝ、か阿彌陀佛」

度會造酒 鶴溪 名未茂伊勢山田祠官仁齋門人享保十八丑年七月十九日歿す歳五十九

王寧宇 五雲 長壽院と稱す別號柴竹居もと清朝人なり寶永四亥年十一月廿八日歿す歳四十四三田小山大乘寺に葬る

和氣行藏 尙古 字古道號柳齋又尙古老人嘉永六寅年四月廿六日歿す歳七十七深川寺町増林寺に葬る

奥貫正助 友山

名正郷字伯雅相州久下戸村土豪なり錦江に學て郷里に教授す天明七年三月歿す歳八十

奥村宗榮

名則政字子得號壯軒寶曆三酉年九月十日歿す歳五十七河東見性寺に葬る

奥村政信

通稱本屋源六通油町に住す號芳月堂又丹鳥齋觀妙浮世繪師明和五子年二月十一日歿す歳七十九(美成の名譽往來には明和元申年七十九才と有り)

渡邊幸庵

通稱清左衛門正徳元卯年七月廿四日歿す歳百三十

渡邊孝泰 弘堂

平安の人並河天民の門人通稱新藏寶曆十辰年十一月九日歿す歳七十二洛蓮臺寺に葬る

渡邊如山 定固

通稱五郎天保八酉年七月十二日歿す歳二十一

渡邊 覺

通稱伊右衛門本姓戸田氏茂睡の男和歌をたしみ雜書に涉る天和二戌年十一月三十日歿す歳四十淺草金龍寺に葬る

渡邊湊水 鋤雲軒

名從號隨菴稱甚藏玄對の父書を能す明和四亥年八月三日歿す歳四十八廣尾光林寺に葬る

利智九郎右衛門

東郊 名實字士華長州の世臣山縣周南の門人關西の第一等と稱す

明和二年酉年六月廿三日歿す歳六十三

若林寛齋

又號強齋淺見綱齋門人享保八卯年五月三日歿す歳四十五

和田宗淳

名長鈍號襲明文化四卯年四月廿九日歿す白銀正源寺に葬る

渡邊東河

名彭通稱文平北越の人東江の門人にて書法を能くす文化十二亥年六月廿五日歿す歳五十二淺草北寺町祝言寺に葬る

渡邊赤水

通稱忠藏字伯頤玄對男天保四巳年十月廿九日歿す歳五十八廣尾光林寺に葬る

度會園女 知鏡

関西惟中妻伊勢山田に生る後冠里侯の北堂に仕ふ俳諧をよくし書に巧みなり享保十一年四月廿日歿す歳七十四深川靈岸寺地中念佛堂に葬る辞世「曙の空はうつゝ、か阿彌陀佛」

度會造酒 鶴溪

名未茂伊勢山田祠官仁齋門人享保十八丑年七月十九日歿す歳五十九

王寧宇 五雲

長壽院と稱す別號柴竹居もと清朝人なり寶永四亥年十一月廿八日歿す歳八十八

大菅中叟 安永七戌年正月四日歿す歳六十九

大菅蘭澤 文化十一戌年十一月十五日歿す歳六十一

乙二坊 號松窓文政六未年七月九日歿す

落合直澄 榎舍 國學に精し明治廿四年一月六日歿す雜司谷墓地に葬る

織田道八 織田有樂齋六男元和六申年九月卒す歳三十九建仁寺中正傳院に葬る

織田有樂齋 信長公弟茶人元和七酉年十二月十三日卒す歳七十五右同寺に葬る

恩田啓吾 鶴城 名延頌字大雅享和四子年二月十六日歿す歳六十六駒込龍光寺に葬る

奥田總四郎 蘭汀 名士亨字喜甫號三角老人東涯の門人伊賀侯に仕ふ天明三卯年五月四日歿す歳八十一

奥田尙齋 李仙樓 名元繼播州の人那波魯堂の弟文化四卯年八月十三日歿す歳七十九

奥貫正助 友山 名正郷字伯雅相州久下戸村土豪なり錦江に學て郷里に教授す天明七年三月歿す歳八十

奥村宗榮 名則政字子得號杜軒寶曆三酉年九月十日歿す歳五十七河東見性寺に葬る

奥村政信 通稱本屋源六通油町に住す號芳月堂又丹鳥齋觀妙浮世繪師明和五子年二月十一日歿す歳七十九(美成の名譽往來には明和元申年七十九才と有り)

奥山右膳 藤共進 字子樹華嶽と號す又嘯月樓産根の世臣東畢門人詩を能す寛政元年酉九月歿す歳六十二

隱岐米史 四時堂 初名如牛後早澄と改り又米史と更じ延享四卯年十二月廿七日歿す歳四十四

生沼喜内 蘭臺 名は頼字は子行江戸の人秋濱關門人喜連川侯の儒官寶曆十辰年十月十六日歿す歳四十八牛込松原寺に葬る

わの部

和智九郎右衛門 東郊 名君實字士華長州の世臣山縣周南の門人關西の第一等と稱す明和二年酉年六月廿三日歿す歳六十三

若林寛齋 又號強齋淺見綱齋門人享保八卯年五月三日歿す歳四十五

和田宗淳 名長鈍號斐明文化四卯年四月廿九日歿す白銀正源寺に葬る

渡邊東河 名彰通稱文平北越の人東江の門人にて書法を能くす文化十二亥年六月廿五日歿す歳五十二淺草北寺町祝言寺に葬る

渡邊赤水 通稱忠藏字伯順立對男天保四巳年十月廿九日歿す歳五十八廣尾光林寺に葬る

度會園女 知鏡 岡西惟中妻伊勢山田に生る後冠里侯の北堂に仕ふ俳諧をよくし書に巧みなり享保十一年四月廿日歿す歳七十四深川靈岸寺地中念佛堂に葬る辞世「曙の空はうつゝ、か阿彌陀佛」

度會造酒 鶴溪 名未茂伊勢山田祠官仁齋門人享保十八年七月十九日歿す歳五十九

王寧 宇 五雲 長壽院と稱す別號柴竹居もと清朝人なり寶永四亥年十一月廿八日歿す歳四十四三田小山大乘寺に葬る

和氣行藏 尙古 字古道號柳齋又尙古老人嘉永六寅年四月廿六日歿す歳七十七深川寺町増林寺に葬る

脇田赤峰 名順通稱郷右衛門書を能くす文化五辰年十二月十九日歿す麻布今井町圓林寺に葬る

脇坂丸々 沙留亭 脇坂氏名安董天保十二丑年二月七日歿す歳六十余青山青源寺に葬る

鷺津宣光 毅堂 通稱貞助字重光一號泉橋外史明治十五年十月五日歿す歳五十八谷中天王寺に葬る

渡邊幸庵 通稱清左衛門正徳元卯年七月廿四日歿す歳百三十

渡邊孝泰 弘堂 平安の人並河天民の門人通稱新藏寶曆十辰年十一月九日歿す歳七十二浴蓮臺寺に葬る

渡邊如山 定固 通稱五郎天保八酉年七月十二日歿す歳二十一

渡邊 覺 通稱伊右衛門本姓戸田氏茂睡の男和歌をたしみ雜書に涉る天和二戌年十一月三十日歿す歳四十淺草金龍寺に葬る

渡邊湊水 鋤雲軒 名從號隨菴稱甚歳立對の父書を能す明和四亥年八月三日歿す歳四十八廣尾光林寺に葬る

渡邊南岳 圓山應舉門人平安の人字維石文化十酉年正月廿四日歿す歳四十七

渡邊 登 華山 名定靜字子安號全樂堂天保十二丑年十月十一日自殺歳四十九三州田原城南城寶寺に葬る

渡邊立對 松臺 名瑛通稱又藏湊水の男後雍髮して内田立對と改む文晁門人文政五年四月四日歿す歳七十七廣尾光林寺に葬る

渡邊壽菴 千歳逕 名正淳延享四卯年十二月廿日歿す歳五十四牛込横寺町正定院に葬る

渡邊始興 通稱求馬平安の人尾形光琳門人寶曆五亥年七月廿九日歿す歳七十三

渡邊小華 渡邊華山二男俗稱舜治名諧字韶卿明治廿年二月廿九日歿す歳五十三谷中天王寺墓地に

渡邊 登 華山 名定靜字子安號全樂堂天保十二丑年十月十一日自殺歳四十九三州田原城南城寶寺に葬る

小普請奉行に進み左衛門尉と稱す奈良奉行に轉し大坂町となり隱居す

川勝雲堂 號吹松菴享保十五年五月七日歿す歳七十

川上渭白 安政四巳年九月晦日上州植田にて歿す歳六十 九江戸谷中安立寺に葬る

和に従へり長して狩野洞白の門弟と成る明治廿二年四月廿六日歿す歳五十九谷中瑞林寺地中正行院に葬る

河原遜齋 通稱熊五郎紀州の人文政八酉年十二月廿七日歿す歳四十五

河原子昌 中臺 名保壽東都麴町に住す天明三卯年九月十一日歿す歳七十麻布善福寺に葬る

河原井保壽 鵲巢 通稱大坂茂兵衛牛込に住す藥店なり字子昌號中臺書を烏石に學ひ後一家をなす亦漢書を善くす天明三卯年九月十一日歿す歳七十牛込神樂坂善國寺に葬る

河村通顯 酣墨齋 通稱新五兵衛享保五子年八月廿二日歿す歳五十七相州巨福山に葬る

川村孫八郎 華陽 名築壽字萬年江戸町年老井上金峩の門人天明四辰年八月十九日歿す歳四十九

河村塔二郎 益根 尾州の人秀根の男號乾屋又乾堂國學を名古屋に唱ふ文政三辰年十一月二日歿す歳六十四

河村元東 滄州 本姓太田氏伊勢山田の人仁齋門人醫を以て綱吉公に仕ふ字子果寛保四年五月十三日歿す歳七十七谷中感應寺に葬る

大に繁昌したり去月三年六月領店へ来る頃より今年七月に至りて十倍の勢ひなりし八月下旬より傷寒にて十月十七日文化終焉をとる淺草池の妙音寺に葬る 雲一七日間に帰る碑銘京傳に作らしむ父は畧又河津彦七文化二年十著作の睡語小録出版後に語を餘と改む價十匁宛の由此書なれば我らも著作せしものなり

河鍋洞郁 曉齋 俗稱周三郎土井侯藩士號在齋後曉齋と改む初め井草園芳の門に入り後前村洞

河 怒齋 安永八亥年二月九日歿す歳三十七

河野春明 法眼安政六未年十二月十七日歿す歳七十三本所龜戸龍眼寺に葬る

川窪要人 蘭涯 名信古字好古文久元酉年四月十四日歿す歳四十九牛込天徳院に葬る

河口三八 靜齋 名子深字穆仲室鳩巢門人號芋山實曆四成年十二月十六日歿す歳五十二麻布六本木善學寺に葬る

河曲一峰 葛仙翁 號田泉舍江戸神田に住し俳諧をよくす勢州山田に歸りて享保十巳年九月十五日歿す歳八十

川崎重恭 通稱源三幼名勇次郎平田篤胤門人天保三卯年七月三日歿す歳三十五

川北温山 稱喜右衛門號春風樓嘉永六丑年正月八日歿す歳六十一

蒲坂松臯 天保五年七月七日歿す歳六十青山慈光寺に葬る

河合宗悟 曾良 信州の人始宗吾、芭蕉門人寶永六丑年十月廿三日豊前勝本にて歿す

河合來々 五湖菴 初名湖貫 浪花の人安永九子年九月十七日歿す歳五十四

となり隠居す

川勝雲堂

號吹松菴享保十五成年五月七日歿す歳七十

川上渭白

安政四巳年九月晦日上州植田にて歿す歳六十
九江戸谷中安立寺に葬る

著作の睡語小録出版後に語を餘と改む價十匁宛の由此書
なれば我らも著作せしものなり

河鍋洞郁 曉齋 俗稱周三郎土井侯藩士號在齋後曉齋と
改む初め井草園芳の門に入り後前村洞

和に従へり長して狩野洞白の門弟と成る明治廿二年四月
廿六日歿す歳五十九谷中瑞林寺地中正行院に葬る

河原遜齋

通稱熊五郎紀州の人文政八酉年十二月廿七日
歿す歳四十五

河原子昌 中臺

名保壽東都麴町に住す天明三卯年九月
十一日歿す歳七十麻布善福寺に葬る

河原井保壽 鵲巢

通稱大坂茂兵衛牛込に住す藥店なり
字子昌號中臺書を烏石に學ひ後一家
をなす亦漢書を善くす天明三卯年九月十一日歿す年七十
牛込神樂坂善國寺に葬る

河村通顯 酣墨齋

通稱新五兵衛享保五子年八月廿二日
歿す歳五十七相州巨福山に葬る

川村孫八郎 華陽

名榮壽字萬年江戸町年老井上金峩の
門人天明四辰年八月十九日歿す歳四
十九

河村塔二郎 益根

尾州の人秀根の男號乾屋又乾堂國學
を名古屋に唱ふ文政三辰年十一月二
日歿す歳六十四

河村元東 滄州

本姓太田氏伊勢山田の人仁齋門人醫を
以て綱吉公に仕ふ字子果寛保四年五月
十三日歿す歳七十七谷中感應寺に葬る

河 怒齋

安永八亥年二月九日歿す歳三十七

河野春明

法眼安政六未年十二月十七日歿す歳七十三本
所龜戸龍眼寺に葬る

川窪要人 蘭涯

名信古字好古文久元酉年四月十四日歿
す歳四十九牛込天徳院に葬る

河口二八 靜齋

名子深字穆仲室鳩巢門人號芋山寶曆四
成年十二月十六日歿す歳五十二麻布六
本木善學寺に葬る

河曲一峰 葛仙翁

號田泉舍江戸神田に住し俳諧をよく
す勢州山田に歸りて享保十巳年九月
十五日歿す歳八十

川崎重恭

通稱源三幼名勇次郎平田篤胤門人天保三卯年
七月三日歿す歳三十五

川北温山

稱喜右衛門號春風樓嘉永六丑年正月八日歿す
歳六十一

蒲坂松臯

天保五午年七月七日歿す歳六十青山慈光寺に
葬る

河合宗悟 曾良

信州の人始宗吾、芭蕉門人寶永六丑年
十月廿三日豊前勝本にて歿す

河合來々 五湖菴

初名湖貫 浪花の人安永九子年九月
十七日歿す歳五十四

初年九月四日歿す歳六

となり隠居す

川勝雲堂 號吹松菴享保十五戌年五月七日歿す歳七十

川上渭白 安政四巳年九月晦日上州植田にて歿す歳六十
九江戸谷中安立寺に葬る

和に従へり長して狩野洞白の門弟と成る明治廿二年四月
廿六日歿す歳五十九谷中瑞林寺地中正行院に葬る

河原遜齋 通稱熊五郎紀州の人文政八酉年十二月廿七日
歿す歳四十五

河原中臺 名保壽東都麴町に住す天明三卯年九月
十一日歿す歳七十麻布善福寺に葬る

河原井保壽 鵲巢 通稱大坂茂兵衛牛込に住す藥店なり
字子昌號中臺書を烏石に學ひ後一家
をなす亦漢書を善くす天明三卯年九月十一日歿す年七十
牛込神樂坂善國寺に葬る

河村通顯 酣墨齋 通稱新五兵衛享保五子年八月廿二日
歿す歳五十七相州巨福山に葬る

川村孫八郎 華陽 名榮壽字萬年江戸町年老井上金峩の
門人天明四辰年八月十九日歿す歳四
十九

河村塔二郎 益根 尾州の人秀根の男號乾屋又乾堂國學
を名古屋に唱ふ文政三辰年十一月二
日歿す歳六十四

河村元東 倉州 本姓太田氏伊勢山田の人仁齋門人醫を
以て岡吉公に仕ふ字子果寛保四年五月

へ歸る和銅京師に作ししものなり
著作の睡語小録出版後に語を餘と改む價十匁宛の由此書
なかば我らも著作せしものなり

河鍋洞郁 曉齋 俗稱周三郎土井侯藩士號在齋後曉齋と
改む初め井草園芳の門に入り後前村洞

河 怒齋 安永八亥年二月九日歿す歳三十七

河野春明 法眼安政六未年十二月十七日歿す歳七十三本
所龜戸龍眼寺に葬る

川窪要人 蘭涯 名信古字好古文久元酉年四月十四日歿
す歳四十九牛込天徳院に葬る

河口三八 靜齋 名子深字穆仲室鳩巢門人號亭山實曆四
戌年十二月十六日歿す歳五十二麻布六
本木善學寺に葬る

河曲一峰 葛仙翁 號田泉舍江戸神田に住し俳諧をよく
す勢州山田に歸りて享保十巳年九月
十五日歿す歳八十

川崎重恭 通稱源三幼名勇次郎平田篤胤門人天保三卯年
七月三日歿す歳三十五

川北温山 稱喜右衛門號春風樓嘉永六丑年正月八日歿す
歳六十一

蒲坂松皐 天保五午年七月七日歿す歳六十青山慈光寺に
葬る

河合宗悟 曾良 信州の人始宗吾、芭蕉門人寶永六丑年
十月廿三日豊前勝本にて歿す

何 文國

佐々木文山門人書を業とす明和五年四月九日歿す歳六十七三田臺町藥王寺に葬る

街 萬里

名風號大塊山人稱真藏武州の人本姓辻氏寛政六寅年六月十日歿す歳四十八淺草黒舟町正覺寺に葬る

川西成藏

文淵 棚倉の文學明和九辰年六月十五日歿す白山妙清寺に葬る

川邊白鶴

川邊御橋の男若年よして繪事に巧なりしか明治廿五年二月三日廿四歳にて夭死す

河邊清意

明治二巳年五月廿八日歿す歳六十八淺草本然寺に葬る

川路左衛門尉 聖謨

明治元辰年三月十五日將軍の大政奉還に憤る所有て拳銃を以て自殺す年七十二辭世「雪に折る、松となる」とも武士のこのてかしはのふたおもてすな一池の端七軒町大正寺に葬る(川路聖謨の富士見御寶藏番内藤吉兵衛長子故有て御徒組川路氏を嗣く初め彌吉と稱し後三右衛門と改む文化九年十六歳の時始めて支配勘定留役助ケに出勤夫より寺社奉行調役後御勘定組頭の時二百俵と成又同吟味役となり小普請奉行に進み左衛門尉と稱す奈良奉行に轉し大坂町奉行となり五百石を給ふ其後御勘定奉行後西丸御留守居となり隱居す)

川勝雲堂

號吹松菴享保十五年五月七日歿す歳七十

川上渭白

安政四巳年九月晦日上州植田にて歿す歳六十九江戶谷中安立寺に葬る

川上宗壽

號眉山弘化元辰年八月十五日歿す歳六十八

川上不白

如心齋門人號孤峯又圓頓齋蓮花菴とも云ふ尤茶技に秀づ文化四卯年十月四日歿す歳九十三谷中安立寺に葬る辭世「借用中地水火風返上申今月今日妙々が妙なる法に生れ來て又妙々が妙に死にゆく」

河田八之助 屏激

名與字猶與號藻海後地齋安政六未年正月十五日歿す歳五十七表向三月廿六日麻布深廣寺に葬る

河 新七 能進

狂言作者堀江勘次門人始竹三郎寛政七卯年三月十四日歿す歳四十九淺草雄念寺地中南松寺に葬る

河竹默阿彌

吉村默阿彌を見よ

河津祐之 湯谷

名吉市寛保二戌年十二月十四日歿す本郷正町救安寺に葬る

河津周平 山白

名定地字子彦平安の人文化四卯年十月十七日歿す淺草妙音寺に葬る(曳尾菴の我衣に我領店に居る河津周平後髮改定地好古の癖有り書畫鑒定を能くし後には骨董家共江戸の雅君子入集ひ大に繁昌したり去月文化六月領店へ來る頃より今年七月に至りて十倍の勢ひなりし八月下旬より傷寒にて十月十七日文化終焉をとる淺草池の妙音寺に葬る(一七日間にさ云京碑銘京傳に作らしむ父は畧一月廿七日没年廿八才地かへ歸る睡語小録出版後に語を餘と改む價十匁宛の由此書なれば我らも著作せしものなり)

河鍋洞郁 曉齋

俗稱周三郎土井侯藩士號在齋後曉齋と改む初め井草園芳の門に入り後前村洞

河 怒齋

安永八亥年二月九日歿す歳三十七

河野春明

法眼安政六未年十二月十七日歿す歳七十三本所龜戸龍眼寺に葬る

川窪要人 蘭涯

名信古字好古文久元酉年四月十四日歿す歳四十九牛込天徳院に葬る

河口三八 靜齋

名子深字穆仲室鳩巢門人號芋山寶曆四戌年十二月十六日歿す歳五十二麻布六本木善學寺に葬る

河曲一峰 葛仙翁

號田泉舍江戸神田に住し俳諧をよくす勢州山田に歸りて享保十巳年九月十五日歿す歳八十

川崎重恭

通稱源三幼名勇次郎平田篤胤門人天保三卯年七月三日歿す歳三十五

川北温山

稱喜右衛門號春風樓嘉永六丑年正月八日歿す歳六十一

蒲坂松皐

天保五年七月七日歿す歳六十青山慈光寺に葬る

河合宗悟 曾良

信州の人始宗吾、芭蕉門人寶永六丑年十月廿三日豊前勝本にて歿す

河合來々 五湖菴

初名湖貫、浪花の人安永九子年九月十七日歿す歳五十四

河合安右衛門 元仲

享保十四酉年九月四日歿す歳六十四

河合寸翁 隼之助

名道臣又號白水姫路後世臣祿三千石を賜ふ天保十二丑年六月歿す歳七十

川井與左衛門 東村

名與字正直浪華の山人崎關齋門人延寶五巳年十一月三日歿す歳七十七

河村平太夫 瑞賢

元和四年二月十五日伊勢度會郡未宮庄に生る初名七兵衛後十右衛門號瑞軒寛永七年江戸に出づ元祿十二年六月十六日歿す歳八十三四谷新宿天龍寺に葬る鎌倉建長寺にも墓碑あり

河村元東 滄州

本姓太田氏伊勢山田の人仁齋門人醫を以て綱吉公に仕ふ字子果寛保四年五月十三日歿す歳七十七谷中感應寺に葬る

河村塔二郎 益根

尾州の人秀根の男號乾屋又乾堂國學を名古屋に唱ふ文政三辰年十一月二日歿す歳六十四

川村孫八郎 華陽

名榮壽字萬年江戸町年老井上金義の門人天明四辰年八月十九日歿す歳四十九

河村通顯 酣墨齋

通稱新五兵衛享保五子年八月廿二日歿す歳五十七相州巨福山に葬る

河原井保壽 鵲巢

通稱大坂茂兵衛牛込に住す藥店なり字子昌號中臺書を鳥石に學ひ後一家をなす亦漢書を善くす天明三卯年九月十一日歿す年七十牛込神樂坂善國寺に葬る

河原原子昌 中臺

名保壽東都麴町に住す天明三卯年九月十一日歿す歳七十麻布善福寺に葬る

河原遜齋

通稱熊五郎紀州の人文政八酉年十二月廿七日歿す歳四十五

和に從へり長して狩野洞白の門弟と成る明治廿二年四月廿六日歿す歳五十九谷中瑞林寺地中正行院に葬る

樺嶋萬年 名公禮字世儀通稱勇八一號石梁と云筑後の人
文政十亥年十二月歿す歳七十四

河本公輔 本姓三宅氏備前岡山の人季鷹門人天保三辰年
六月十八日歿す歳五十八

加保茶元成 宗園 新吉原京町娼家大文字屋市兵衛本
姓村田氏安永元子年十一月六日歿
す歳六十余淺草本行寺に葬る(初代は勢州川曲郡上箕田
村農松本某男也)

鷄冠井令徳 通稱九郎右衛門初良徳後令に改む院隣軒と
號す松永貞徳門人延享二寅年三月三日歿す
歳六十八

楫取魚彦 茅生庵 本姓稻生氏茂右衛門下總香取の人加
茂眞淵翁門人天明二寅年三月廿三日
歿す歳六十

加藤盤齋 稱濱五郎松永貞徳門人延寶二寅年八月十一日
歿す歳五十四

加藤千蔭 枝直の男通稱又左衛門號芳宜園又耳梨山人逸
樂窩江翁等の號有り眞淵門人近世和歌の名人
と稱せらる文化五辰年九月二日歿す歳七十二本所回向院
に葬る

加藤千浪 通稱彌三郎號萩園岸本由豆流に學ぶ明治十丑
年十一月十日歿す歳五十九

加藤良白 文久二戌年八月五日歿す歳七十二谷中玉林寺
に葬る

加藤貫阿 方圓居 名既明字士文誹諧は朝隱柳居門人書
は綾足門人元伊勢の人享保五年始て
大岡忠相組與力と成り天明七未年正月十五日歿す歳七十
一市ヶ谷上寺町宗泰寺に葬る

香川冬嶺 明和五子年六月廿五日歿す

香川景柄 黃中 景平の男徳大寺家に仕ふ號梅月堂文政
四巳年十一月九日歿す歳七十七洛聞名寺
に葬る

香川景樹 黃中義子因州鳥取人本姓荒井氏從五位下肥後
守號桂園又東塙亭天保十四卯年三月晦日歿す
歳七十四同寺に葬る辭世「ひとすちに命まつまの春の日
ひよく〜なかきものになりける」

香川景新 宣阿男號梅泉堂元文辰年十一月廿三日歿す
同寺に葬る

香川景平 景新男寛政酉年四月八日歿す歳六十八同寺に
葬る

香川容所 安永七戌年五月四日歿す歳二十六洛二尊院に
葬る

香川太仲 修徳 伊藤東涯門人秀菴と號す又一本堂播州
の人醫を以て鳴る寶曆五亥年二月十三
日歿す歳七十三

賀川子玄 玄悅 江州の人京に住して醫を業とし古方を
唱ふ後産科を發明し一時に行はる是賀
川流の祖安永六酉年九月十四日歿す歳七十八私に景定先
生と諡す

賀川子啓 玄迪 出羽人本姓岡本氏子玄が嗣となり京に
住す後阿波候に抱へらる安永八亥年十
月廿一日歿す歳四十一

香川宣阿彌 名堯眞號梅月堂周防岩國の人清水谷實業卿
の門人歌道に深し享保廿卯年九月廿三日歿
す歳九十洛聞名寺に葬る

加藤美樹 又 宇方伎 眞淵の門號靜舍江戸の人稱大助
安永六酉年六月十日京の二條にて歿す歳五十七三條三寶
寺に葬る

加藤眞菅 尾州の人明治二十二年二月廿八日歿す

加藤謙齋 享保九辰年正月歿す歳五十七

加藤原松 猩々庵寛保三年正月五日歿す歳五十八

加藤文麗 伊豫守名泰都從五位下號藤豫齋天明二寅年二
月五日卒す歳七十七廣尾光林寺に葬る

加藤枝直 名一に爲直江戸町奉行南方與力通稱又兵衛號
芳宜園天明五巳年八月十日歿す歳九十四本所
回向院に葬る

加藤遠塵齋 狩野玉燕門人佛書を能くす文化七午年九月
十九日歿す歳七十七

加藤守行 遠澤 會津候に任へ始茶坊主棚木良悦に學び
後狩野探幽の門に入り百石賜はり繪師
と成る享保十五年十月歿す歳八十八池上本門寺に葬る
(探幽の門四天王の内所謂四天王は久隅守景鶴澤深山桃
田柳榮加藤守行なり)

狩谷宗瑚 超花亭 通稱三右衛門字九屏號武陵茶を不白
嗣法たり寛政元酉年六月十九日歿す歳四十五下谷天龍寺
に葬る

狩谷掖齋 望之 稱通津輕屋三右衛門字卿雲天保六未年
閏青四日歿す歳六十下谷天龍寺に葬る
(掖齋實は書林青藤堂高橋與徳兵衛男なり)

加々美櫻塙 甲斐山科山王神職信濃守源光章と稱す三宅
尙齋門人天明二寅年五月廿九日歿す歳七十
二

片岡左内 可匡 通稱文之進初名云仙茶禮に精し元文元
辰年正月九日歿す歳五十八歲品川如來
寺に葬る

片岡秀民 新吉原見番主俗稱大黒屋庄六寛政二戌年七月
四日歿す歳六十四淺草山谷廣徳寺に葬る

片岡寛光 稱周輔號都子園佐久間町里正にて和學は春梅
門人天保九戌年正月十五日歿す傾城が窟蓮久
寺に葬る法號高演院顯隆日達

荷田民子 蒼生 於民と稱す在滿女天明六年二月二日
歿す歳六十五淺草金龍寺に葬る

荷田惟徳 字子馨稱東之進御風の義子本姓藤井氏文政十
亥年二月七日歿す歳六十三同寺に

荷田信美 羽倉氏正五位下豊前守洛南稻荷祠官小澤廣庵
門人文政十亥年十一月廿九日歿す歳七十八

香田正宣 堪忍軒 初名明水後人子一號自衰翁俳諧をた
しめり享保二戌年五月十二日歿す歳
五十八

荷田在滿 通稱東之進春滿姪後義子となる號仁良齋平安
の人江戸に來て國學を以て鳴る寶曆元未年八
月四日歿す歳四十六淺草金龍寺に葬る

荷田春滿 羽倉齊宮と稱す又岐田に作る洛南一の宮祠宮
國學中興の祖元文辰年七月二日歿す歳六十
九洛南阿里山に葬る

荷田御風 字子玄稱東藏在滿義子初多滿天明四辰年八月十六日歿す歳五十七淺草金寺龍寺に

片山北海 通稱片山忠藏越後の人名献字孝秩大坂に住居す寛政二成年九月廿二日歿す歳六十八

片山兼山 名世瑠字叔瑟稱冬藏上毛片山の人秋玉山の門人天明二寅年三月廿九日歿す歳五十三芝三田中寺町妙福寺に葬る

片山小左衛門 享保十三申年六月廿日歿す歳三十九谷中瑞林寺中是立坊に葬る

片山寸長 名邦教號百草庵俳諧を嗜む寶曆十一己年六月廿七日歿す本郷丸山本妙寺に葬る

片桐石見守 宗關 從五位下源貞昌石州流茶道の祖也延寶元丑年十一月二十日歿す歳六十九

片桐蘭石 名隱號泊然又處翁玄對の門人文政二卯年七月廿六日歿す歳六十一麻布廣尾天現寺に葬る

勝兵助 初龜山爲助四代目南北長女の婿と成り勝兵助と改む狂言作者たり文政十一年八月廿一日歿す歳四十二深川寺町信行寺に葬る

勝俵藏 四代目南北男始三代目薪水門弟坂東鯛藏後鶴十郎と改む文化十二年役者を止め深川仲町へ直江屋十兵衛とて子供屋を出す文政十年作者と成る天保元年十二月十七日歿す歳五十五本所押上春慶寺に葬る

勝川春好 春章門人俗稱傳次郎長谷川町に住し後遁世して麻布善福寺に寓す文政十亥年六月歿す善福寺地中に葬る

桂 直行 歸一堂 書法一家を成す天保五年十月廿五日歿す歳六十四

桂 秋齋 南嶺 初名義俊通稱多田兵部始進藏寛延三年九月十二日歿す歳五十三洛東本妙寺に葬る

葛飾北齋 戴斗 本姓中島氏幼名時太郎後鐵三郎又八右衛門始春朗又宗理此他數號有り嘉永二酉年四月十三日歿す歳九十淺草八軒寺町誓教寺に葬る

香月牛山 名則眞號髮翁筑前の人具原益軒門人中津侯に仕ふ元文元辰年三月十六日歿す歳八十五小倉城東菴教寺に葬る

金子金陵 名允圭字璋谷文晁門人文化十四丑年二月九日歿す芝伊皿子長應寺に葬る

金井鳥州 萬古翁二男上州佐位郡島村に生る安政四巳年正月十四日歿す歳六十二

金谷英藏 玉川 名英字世雄松崎觀海門人紀州侯世臣寛政十一未年十一月七日歿す歳四十一高田亮潮院に葬る

金森宗和 重近 稱飛騨守長重男茶人千道安門人明曆二年十二月十六日卒す歳七十三

唐衣橘洲 通稱小嶋源之助字温之後謙之號醉竹菴田安家の臣狂歌中興の巨擘享和二戌年七月十八日歿す歳六十赤坂一ツ木淨土寺に葬る法名心眼院曉開譽聞

辛島鹽井 天保十亥年二月廿三日歿す歳八十六

鳥丸大納言 光廣公 姓藤原光宣卿の男寛永十五寅年七月十三日薨す歳六十四

勝川春亭 勝川春英門人號松高齊又勝汲畫居和泉町後馬喰町二丁目に移る文政三辰年八月三日歿す歳五十一

勝川春英 本姓儀田氏號九德齋春章の門弟狂言に長し九德風と云文政二卯年七月廿六日歿す歳五十八東本願寺地中善性寺に葬る

勝川春章 勝川春水門人俗稱祐助號李林旭朗又井西爾と云浮世繪の妙手たり始嵩谷に學ぶ寛政四子年十二月八日歿す歳六十七淺草西福寺に葬る

勝井源八郎 勝浦周藏とも云中仙道浦和の産狂言作者鶴屋南北門人後立作者と成る文政十一年八月廿一日歿す歳五十一淺草日輪寺地中安稱寺に葬る

桂川甫筑 大和の人平戸侯の醫寶永元年十一月召されて幕府の醫官と成り延享四卯年十月九日歿す歳八十七白銀上行寺に葬る

桂川甫賢 名國寧字清適號翠藍弘化元辰年十二月六日歿す歳四十八

桂川甫周 名國瑞字公鑑號月池老人文化六巳年六月廿一日歿す歳五十六白銀上行寺に葬る

桂川柳窓 文政十亥年五月廿五日歿す歳五十八白銀上行寺に葬る

桂山義樹 彩巖 林風岡門人通稱三郎兵衛寛政二巳年三月廿一日歿す歳七十二淺草新堀威光院に葬る

桂 金溪 信州上田儒官文化八未年十一月廿九日歿す歳七十二

柄井川柳 綠亭川柳を見よ(りの部)

神戸定之 元祿十三辰年九月六日歿す歳五十

菅茶山 菅茶山を見よ(すの部)

神田道智 宗庵と稱す典故有職に精し寛文二寅年九月朔日歿す歳四十九

神田道徳 定武 神田定盤の男安永二巳年正月四日歿す歳六十四

神田菴厚丸 御普請方請負方神田鍋町に住す文政十二丑年十月廿一日歿す

神波即山 詩書共によくせり明治廿四年一月二日歿す谷中三崎町天龍院に葬る

感和亭鬼武 通稱前野曼助小笠原某の臣後浪人して淺草聖天町に寓居し戯作を業とす文化十五年二月廿一日歿す歳五十九

神野忠知 通稱長左衛門東武の士俳諧井上春清門人白旗の忠知と云ふ延寶四辰年十一月廿七日自殺歳五十二辭世霜月やあるはなち身の影法師

岸駒 佐伯岸駒を見よ

勘亭 岡崎勘六を見よ

神澤杜口 其甥 大坂の人京町奉行附與力通稱神澤與兵衛號其甥鹿翁草二百卷の著あり寛政七卯年三月廿七日歿す歳八十六

高嵩谷 高見よ(たの部)

高齋精一 單山 名有常字子恒明治廿三年六月十三日歿す

交 五町 娛遊 質渡世伊勢屋の某の子俗稱磯八吉原の幫間即ち男藝者の始なり役者の身振をなし亦落語も上手なり寛政七卯年四月二日歿す歳五十五下谷坂本村英信寺に葬る法名高顯院名譽壽樂五町居士辭世「卯の花も道は迷はし西の宿」

狩野祐勢 正信 稱大炊助相州小田原の人東山殿近習始四郎二郎法眼伯信天文十八酉年四月二十一日卒す歳九十七

狩野永仙 元信 義政公近習大炊助幼名四郎二郎越前守に任す剃髮して永仙と號す古法眼是なり永祿二未年十月六日卒す歳八十五京都妙覺寺に葬る善巧院通性日剛大居士江戸深川淨心寺にも墓あり

狩野松榮 直信 元信三男俗稱源七民部少輔剃髮して松榮又正榮と號し法眼に叙す文祿元辰年十月廿一日卒す年七十四京妙覺寺に葬る

狩野永徳 重信 松榮長男信長公に仕ふ幼名源四郎後秀吉公に仕へ法印に叙す天正十八寅年九月十四日卒す歳四十八

狩野右京進 光信 永徳男法橋に叙す桑名より慶長七年江戸に召さる慶長十三年六月四日勢州旅中に卒す歳四十四

狩野山樂 光賴 木村長光の男稱修理亮豐公の命にて畫を狩野永徳に學ひ遂に父子の約をなす法橋たり寛永十二亥年八月四日卒す年七十七

狩野右近 孝信 永徳二男初め高信元和四戌年八月三十日歿す歳四十八

狩野如川 周信 常信長子稱右近法眼刑部卿享保十三申年正月六日卒す歳六十五

狩野隨川 岑信 常信二男友清稱織部實永五子年十二月三日卒す歳四十七

狩野榮川 古信 周信男法眼に叙す享保十六亥年正月九日卒す歳三十六

狩野永眞 憲信 永叔男初永信後季信祐清英信父享保十六亥年九月十七日卒す歳四十

狩野隨川 甫信 岑信男號青柳齋稱郡次延享二丑年七月七日卒す歳五十四

狩野祐清 英信 憲信男號如滴齋法印に叙す寶曆十三未年六月廿一日卒す歳七十三深川淨真寺に葬る

狩野常川 幸信 隨川甫信男明和七寅年八月十九日卒す歳五十四

狩野洞庭 興信 安永三年正月廿日卒す

狩野榮川院 典信 榮川古信男寛政二戌年八月廿六日卒す歳六十二

狩野閑川 昆信 常川男寛政四子年九月二日卒す歳四十二

狩野永徳 高信 祐清英信男寛政六寅年十二月廿五日卒す歳五十六

狩野洞春 美信 元仙男寛政九巳年二月廿八日卒す上野護國院に葬る

狩野探幽 守信 孝信長子宮内卿法印に叙す元和元年駿府にて神君の御影を奉畫す時十延寶二寅年十月七日卒す行年七十三池上本門寺に葬る

狩野之女 雪信 清原氏孝信女初之信天和二酉年四月二十九日歿す歳四十

狩野主馬 尙信 孝信二男初名一信號日適齋慶安三寅年四月七日歿す歳四十四

狩野永眞 安信 孝信三男休伯の號稱右京院收心齋寛文二年法眼に叙す貞享二丑年九月四日卒す歳七十三

狩野縫殿助 山雪 山樂の義子號蛇足軒通稱縫殿助慶安四卯年二月十二日卒す歳六十三

狩野休伯 長信 松榮四男左衛門法橋號休伯承應三年十一月十八日卒す歳七十八

狩野洞雲 益信 探幽義子後藤松蔭子采女法眼に叙す號傳友軒後別家す元祿七戌年正月八日卒す歳七十七上野護國院に葬る

狩野養扑 常信 尙信男右近後主馬號古川叟耕寛齋法眼後法印に叙す正徳三巳年正月二十七日卒す歳七十八

狩野守信 探信 稱圖書探幽長子享保三戌年十月四日卒す歳六十六

狩野洞春 福信 洞雲男初義信又政信享保八卯年十二月十二日卒す上野護國院に葬る

狩野永叔 主信 安信義子實の壽信男號澹然居士享保九辰年六月七日卒す歳六十

狩野養川院 惟信 榮川典信男號玄元齋法印に叙す文化五辰年正月十三日卒す歳五十六

狩野融川 寛信 關川の男、腹切融川と云文化十二亥年三月十九日子細有て自殺す歳三十八

狩野伊川院 榮信 養川院の男法印に叙す文政十一子年十月八日卒す歳五十四

狩野素川 彰信 壽石賢信男號太玄齋幼名仙二郎文政九戌年十月二日卒す歳六十四本所報恩寺塔中法泉院に葬る中國院法印日限居士一素川始彰信後章信其畫に狩野素川筆と歎したまへ、太玄齋素川とも書く五十歳以後狩野章信と署す安永九年三月一日將軍御目見同年十二月廿七日家督寛政十二年二月晦日隱居時に三十五歳

狩野守道 探信 探收の父天保六未年九月五日卒す歳五十一

狩野晴川院 養信 伊川院男弘化三年五月十九日卒す歳五十一

狩野守眞 探淵 探信守道男嘉永六丑年九月十四日歿す歳四十九

狩野守經 探原 探淵守眞男慶應二寅年十二月廿日卒す歳三十八

狩野勝川院 雅信 晴川院男明治十二卯年八月八日卒す歳五十七

狩野内膳 重郷 狩野松榮門人號一翁元和二辰年四月三日歿す歳四十七

狩野勝玉 照信

真信男勝川院雅信門人明治二十四年一月十六日歿す歳五十二本所小梅村本法寺に葬る

狩野永應 立信

伊川院法印男狩野祐清養子幼名熊五郎號晴雪齋安政四年十二月法眼たり明治二十四年一月二十九日歿す歳七十八池上本門寺に葬る

狩野祖會 秀信

通稱新右衛門始秀家と云松榮又永徳に學ぶ元和三年十二月十日歿す歳六十

狩野素川 信政

祖酉子明曆四戌年四月十五日歿す歳五十二

狩野芳厓

明治二十一年十一月五日歿す年六十一谷中長安寺に葬る

狩野晏川 皆春齋

良信子伊川院榮信に學ぶ幕府十八家の内なり明治二十五年十一月二十日歿す年八十四谷中丁院寺に葬る

岳太仰 東海

名融號白雲樓參州の人餘熊耳に學び芝新錢座に住す享和三亥年二月二十三日歿す歳六十九

岳英藏 清暉

名之浩字子蕩唐津臣餘關室門人寛政十年正月十七日歿す歳七十二西久保光明寺に葬る

覺禪房胤榮

南都寶藏院主寶藏院流槍術の開祖慶長十二年正月二日歿す歳八十七

蒲生飛彈守 氏卿

正四位下蒲生賢秀男會津城主慶長元年申年二月七日卒す歳四十四紫野昌林院に葬る

蒲生君平 秀實

稱伊三郎山本北山門人號修靜菴字都宮人本石町三丁目新道に住す文化十一年七月五日歿す歳四十七谷中臨江寺に葬る

鏑木梅溪

通稱彌十郎名世胤字君貴長崎の人書家なり享和三亥年正月二日歿す歳五十四三田長運寺に葬る

鏑木溪菴

通稱卯三郎川勝侯の臣名胤胤明治三年歲九月廿五日歿す歳五十二

加古川周藏 願言

名周之字周藏播州加古川の人文化十四年九月十一日歿す白山心光寺に葬る

葛西健藏 因是

名質字休文大坂の人平澤鳩山の門人文政六年四月六日歿す歳六十二

笠家逸志

號素竹軒又半局菴曲菴延享四年五月廿七日歿す歳五十八報恩寺地中高徳寺に葬る

笠家左藤

江戸の人半局菴志門人安永八年十一月廿三日歿す歳六十六下谷山下啓運寺に葬る

笠間巨山

破笠門人享和二戌年三月廿日歿す歳六十七

柿沼山舟 山岳

字君起上毛の人安政六年三月十五日歿す歳八十五

垣内東臯 全庵

名仲凱字希八紀伊の人仁齋門人與中侯に任ぶ享保十七子年十一月二日歿す歳五十三

垣本雪臣

菅原氏通稱實伴菴門人天保十亥年十一月三日歿す歳六十三洛南八幡郷に葬る

龜 交山

名大機字真宰本姓松平氏書を能くし七草菴と號す慶應二戌年十月九日歿す歳八十三深川寺町心行寺に葬る

龜田文左衛門 鵬齋

名長興字程龍號善身堂井上金峯に從て學ぶ後酒間に放浪す故有て官途に絶し誓て權貴の門に至らず文政九戌年三月九日歿す歳七十三淺草今戸稱福寺に葬る

龜田三藏 綾瀨

鵬齋義子名長樟字木王嘉永六年四月十四日歿す歳七十六同寺に葬る

龜田窮樂

號曳尾俗稱六藏後久兵衛洛西の人孝子の聞えありて俳諧を好み實曆八寅年二月九日歿す歳八十三洛東双林寺に葬る

龜井南冥 道載

名魯筑前の人物門の儒文化十二戌年三月二日歿す歳七十二

神谷東溪

通稱彌六名謙字仲卿文化二丑年八月廿七日歿す歳六十二淺草幸龍寺に葬る

神谷幸吉 藍水

名定合算數の學に精し文化八未年正月十二日歿す小石川西岸寺に葬る

神谷玄武 白山老人

寛政十年正月十九日歿す半込濟松寺中芳心院に葬る

神谷英藏 玉水

名英字世雄松崎觀海門人紀州侯世臣寛政十一年十一月七日歿す歳四十一高田亮潮院に葬る

柏木如亭

名味字永日通稱門作又號晚晴小普請方御大工棟梁也市川寛齋門人文政二年七月八日歿す歳五十七

鹿嶋探春 守房

日向の人號東郊齋安永七戌年七月二十日歿す西久保天徳寺に葬る

貝原存齊

篤信元祿八年十二月十日歿す歳七十四

貝原好古

通稱市之進號損軒篤信の姪存齋の子篤信の嗣となる元祿十三年五月廿三日歿す

貝原益軒 篤信

筑前の入通稱久兵衛福嗣侯世臣正徳四年八月廿七日歿す歳八十五

加茂貞淵 縣居

岡部氏通稱衛士盛州の人享保十八年京の春滿に學び寛延三年江戸に來り田安家の臣と成る明和六年丑十月晦日歿す歳七十三品川東海寺中少林院に葬る

鳴 祐之

本姓梨本永祐卿男正三位下鳴神主神道を通加ふ學ぶ日本逸史四十卷の編あり享保八卯年正月廿日卒す洛西遠寺に葬る

加茂季鷹 雲錦

本姓山本氏正四位下安房守天保十三寅年九月十八日卒す歳九十一

春日局

初名阿福齋藤利三女稻葉正成に嫁す後將軍家光の乳母となり三千石を賜ふ後從二位に叙す寛永廿年九月十四日歿す歳六十五湯島講院に葬る仁術工備尾大姉と諡す

春日龜敬齋 龍洲

名政紹字子卿對馬の人中山浮山に學ぶ平安に講説す安永五年二月九日歿す歳七十一

淀屋个庵 號當通稱傳内狂歌を嗜みて名を知られぬ寛永二十年未十二月五日歿す歳六十七

淀屋辰五郎 名重當元祿十丑年四月三十日歿す

依田竹谷 名瑾號凌寒道人又三谷菴書人天保十四卯年四月七日歿す歳五十四

依田貞鎮 通稱五十嵐定右衛門依田氏を冒す號編無爲居士伊織と稱す明和元年申三月十七日歿す歳六十六武藏國府中善明寺に葬る(以上墓所一覽よによる一説に万治元年とす)

依田豊前守 政次 幕府の旗本下稱平次郎延享三年御小納戸たり寶曆二年三月和泉守に任す御作事奉行同三年四月町奉行に轉じ同六月豊前守となる明和三年正月三百石加増同六年八月又三百石加増都合千石大目附に轉じ天明三卯年七月十四日歿す歳八十一牛込保善寺に葬る

米川義兵衛 操軒 山崎開齋門人京の人名貞字幹叔延寶六年八月十九日歿す歳五十四

米川貞藏 文濤 嘉永四年正月廿三日歿す歳八十二家刻家なり

羊遊齋 更山 原氏俗稱久米次郎蒔繪を善くす弘化二巳年十二月廿四日歿す歳七十四本郷無縁坂講安寺に葬る

横井千秋 名宏時通稱十郎左衛門尾州藩士本居宣長翁の門下和元酉年七月廿七日歿す歳六十四尾州祖父江村永張寺に葬る

横山丸三 陶宮 通稱三之助號春龜齋陶宮術を主唱す嘉永六年八月十三日歿す歳七十五音羽蓮光寺に葬る

横山清暉 慶應元丑年九月二日歿す丸山安養寺に葬る

横谷宗珉 友常號遜庵通稱長次郎宗與養子家世々彫刻を業とす享保十八丑年八月六日歿す歳八十三東本願寺中等覺院に葬る

横谷玄圃 藍水 名友信六才にして痘を病み明を喪ふ十に入る安永七戌年十一月廿九日歿す歳五十九

横谷盛次 宗與 名友周通稱治兵衛京の人にて後藤門人彫刻に名高し寛文中江戸に下り元祿三年十二月十七日歿す東本願寺中等覺院に葬る

餘吾古庵 儒にして醫を兼ぬ元祿八亥年五月十九日歿す歳八十駒込吉祥寺中龍光寺に葬る

與謝蕪村 初名長庚字春暉谷口氏攝津西成郡の人俳諧をよくす又始め彭百川に從ひ後一家をなし書名を謝寅といふ天明三卯年十二月廿九日歿す歳六十八一説丹後與謝の人因て與謝を氏とす又の號三果大坂天王寺村に住す墓は一乘寺村金福寺に在り

吉益東洞 名爲則字公言安藝の人稱要助儒醫なり安永二年九月廿二日歿す歳七十二

吉岡重繼 彫刻師なり正保元申正月廿四日歿す歳七十三

吉川惟足 號湖山隱士又視吾堂古典を研究し神道に一派を専す元祿七戌年十一月十六日歿す歳七十九

横井也有 暮水 通稱孫兵衛號又野有とも書く尾州藩士にて食祿千石を領す俳句俳文に名高し天明三卯年六月十六日歿す歳八十二尾州海西郡藤原村西音寺に葬る

横田如圭 復庵 號龍橋居士字大復如圭又汝圭に作る書家なり天保十三寅年六月十八日歿す歳七十八

横田俊益 字三友號何來元祿十五年正月六日歿す歳八十三會津大光山に葬る

横山一郎 僧人 名樵古賀精里門人文化七辰年九月十六日歿す歳六十七音羽稱名寺に葬る

横山桂子 月の屋 横山平馬女通稱みづ月屋本間游清に學びて歌を能くす安政二乙卯年八月廿日歿す歳五十六此の人のよめる「月前紅葉」あかぬ哉月すむ夜半に散紅葉かつらの花のこゝちのみして一石の歌長こき邊の御聴に達し自今月の桂子と稱すべし山仰せ下されたりといふ

横山由清 桂子義子國學典故に精し明治十二年十二月二日歿す谷中天王寺墓地に葬る

横山南郊 名淵字仲徳博覽雜書に涉る寛政十一未年十一月五日歿す歳五十三牛込二軒寺町法正寺に葬る

横山雲南 名仲祥一號道通稱祥介書家なり明治十三年四月廿八日歿す歳六十七

横山華山 松村吳春の門人名一章後岸駒の畫風を學ぶ天保八酉年三月十七日歿す歳五十四

吉川五明 小夜庵 文化六丑年十月廿六日歿す

吉田意安 名宗桂慶長十五戌年四月十七日歿す歳五十三(或説宗桂天文年中天龍寺策彦と與に明に行き明主の病を療し名を得たり元龜三年に歿すと)

吉田一枕齋 一刀流擊劍の名人文化八未年閏二月十八日歿す歳七十年込神樂坂上善國寺に葬る

吉田長叔 名成徳號駒谷幕府先手同心馬場兵右衛門三男叔父醫吉田長肅の家を嗣ぐ文政七申年八月十日歿す歳四十六加州金澤東岳寺に葬る(長叔は始土岐長元門後桂川甫周に學ぶ文政七年夏金澤老侯在國病に罹り急に召す即日日出立越後高田にて疾にかゝり強て金澤にいたる三日目に死す)

吉田林庵 水府侍醫名宗山享保六丑年三月四日歿す歳八十七谷中大雄寺に葬る

吉田了以 角倉了以を見よ(すの部)

吉田坦藏 篁墩 名漢官字は學生常陸の人考據學の祖寛政十年九月朔日歿す歳六十八谷中大雄寺に葬る(東條琴臺云余か近世の人にて畏服せしは吉田坦藏なり故ありて久しく佐々木氏を稱し佐々木坦藏と呼べり其父常陸の人にて水府の醫官なり坦藏始めは醫に志有て江戸より來り處々飄泊し遂に井上金峯に從て學べり學成て水府を去り江戸淺草馬道に僑居し教授して業とせり其生涯他の儒者のやうに閑達を不求め又官に就くを不欲其故に世人の知る者少なし今の高名の士家太田錦城龜田鵬齋中村佛庵屋代臨池市野觀更など皆其誨習を受し程清人の考據を尊崇して學問が至て手強し從來譽識の有る人にて古書畫より百の器物などに至る迄能く目利を爲し

古道具を賣買する商估は近世の目利者として疑似の物は是
論を請しとなり故に書肆古書など商ふ者ハ仔細など
呼て誰も知ぬ者なし近世の人々の木板のもの元板のも
のど古代影鈔本杯を珍重せる事は驚嘆より開けたり

吉田素庵 角倉素庵を見よ(すの部)

吉田和三 南陽 名寛字栗郷阿波の人文久二戌年八月廿
七日歿す歳七十八麻布宮村町長玄寺に
葬る

吉田蘭香 東牛齋 書を以て業とせり寛政十一未年六月
九日歿す四ッ谷全長寺に葬る

吉田陸奥大掾 冠壽 始吉田東九郎後三代目吉田冠二
木偶師なり明治子年正月五日歿
す歳六十二

吉田甲夫 雨岡 江戸町興力通稱源藏名桃樹號鬢落髮
して時雨が岡に居す依て時雨園とも云
享和二戌年十一月九日歿す歳六十六日暮里南泉寺に葬る

吉田冠二 二元 人形遣ひの名人天明巳年十一月十二日大坂
に歿す歳六十二

吉田冠二 二元 始め桐竹紋三郎享和二戌年五月十五日歿す
歳五十七

吉田彌一 實曆三酉年四月廿六日歿す歳三十二河東常念
寺に葬る

吉田文魚 淺草藏宿大和屋與兵衛謂はゆる十八大通の首
長一號大通散人寛政十二申年四月十九日歿す
歳六十八淺草田圃長國寺に葬る

芳邨義助 銀臺 名術字子雀相州厚木の人始徂徠門後南
郭に學ぶ延享元子年七月朔日歿す歳四
十二

吉村島女 島水 河竹默阿彌二女柴田是真翁門人明治二
十三年十一月廿四日歿す歳廿八淺草門
跡添地源通寺に葬る

吉村默阿彌 二世河竹新七俳名其水通稱吉村新七五代目
鶴屋南北門人始勝藏後には斯波普輔と改め
晩年古河默阿彌と稱す明治廿六年一月廿二日歿す歳七十
八淺草門跡添地源通寺に葬る

吉井雲鈴 摩誥菴 一號吹簫軒俳人寛保四年二月五日
歿す歳七十八

吉野遊 實名登代佐野紹益の妾となる寛永廿未年八月廿五
日歿す法名唱を院妙蓮日性、内野新地立本寺に葬
る歳三十一諸書に寛永八年六月廿二日法號本融院妙供と
有るは紹益の本妻なり吉野の歿年紹益三十三才の秋也

芳野金陵 名世育字叔果號匏宇通稱愿三郎後立藏下總葛
飾郡松崎村の人父は醫なり綾瀬に學び後儒官
となる明治十一年八月五日歿す歳七十七

吉見定丸 紀定丸 通稱吉見儀助名義方幕臣狂歌仲間
に入て始め野原雲介と云ふ天保十
二丑年正月十六日歿す歳八十三本郷元町三念寺に葬る昇
進院平生日勤敏翁辭世一狂歌師もけふかあすかとになり
けり紀の定丸もさだめなき世に

吉住小二郎 喜鳳 攝州住吉の産初名仙次郎六代目梓屋
喜三郎門人實曆三酉年七月十六日歿
す歳五十五(秀鶴日記天明七年の條に云吉住小三郎として
中村座立唄なり六代名人梓屋喜三郎は中山の唄を彈申候

吉田文吾 文操齋 始め吉田國五郎人形遣ひの名人
文政十亥年八月廿五日歿す歳五十五
淺草妙經寺に葬る

吉田希賢 東都儒員享保十六亥年十二月十九日歿す二本
橋承教寺に葬る

吉田子方 圓齋 名平寛政六寅年二月廿八日歿す根岸善
性寺に葬る

吉田愼齋 名納言字敏水戸の儒醫享保十巳年九月十三
日歿す歳四十九谷中大雄寺に葬る

吉田寅次郎 松蔭 長州の人名矩方字義卿號二十一回猛
士安政六未年十月廿七日刑死小塚原
回向院に骸を葬る

吉田熹六 明治廿四年十月三十日歿す歳三十二谷中墓地
に葬る

吉田清成 始め太郎と稱す明治廿四年十月十三日歿す歳
四十七青山墓地に葬る

吉永升菴 寂紫 長崎の人蘭醫の祖明曆二年十月七日生
る本性前池氏寛文十一年五月相樂正則
の召に依て江戸に出で本所猿江に住す享和二十年卯三月
十七日歿す歳八十 三田寺町勤喜院佛樂寺に葬る

吉村孝敬 吉村孝文の父圓山應舉門人天保七年七月十
六日歿す歳六十八

吉村觀阿 物外 芝丸屋町に住す通稱丸屋善右衛門鬢髮
して白醉庵觀阿號苦樂菴嘉永元年六
月十九日歿す西本願寺地中福原寺に葬る

立唄なく右吉住小三郎と名付て立唄に仕申候小十郎の小
の一字なる由中山と付申度候へ共代々の者故に吉住と申
候小三郎は住吉の誕生に候故文字を返して吉住と改め申
候云々

たの部

大梅居大梅 通稱小島西之助號梅外下野人天保十二丑年
五月廿九日歿す歳七十淺草寺地中修善院に
葬る辭世「七十やあやめの中の枯尾花」

大白堂桃隣 桃翁 伊賀上野の人享保四年亥十二月廿三
日歿す

大綱和尙 大德寺四百三十五世名宗彦万延元申年二月十
五日歿す歳八十九

大道槐洲 士燮 仙臺人蘭學に精し號自然堂嘉永元年申年
九月五日歿す歳四十四

大道寺孫九郎 友山 幼名勇太郎號知足軒靈岸嶋に住
す享保十五戌年十一月二日歿す
歳九十二愛宕下青龍寺に葬る(友山は寛永十六年二月七
日越後村上に生る貞雄云友山は寛永十六年二月七
頃北條安房守氏長門人と成り軍術を修練し岩淵と云へる
處に寓居す此時會津太守松平肥後守源正容朝臣に奉仕し

其後退隠して實水の頃麻布に寓居す殊の外不自由の林
なりしが其後松平越前家に招かれ臣と成り靈巖の屋敷
に居り爰にて終る此子孫彼家に在りとぞ

大黒龜二郎 梅陰 白子幸太夫實子嘉永四年五月十三
日歿す歳五十五本郷興安寺に葬る

大黒屋庄六 片岡秀民を見よ

大文字屋市兵衛 加保茶の元成を見よ

田端松軒 俗稱計右衛門號樓霞安政四己年二月歿す

倭の船積 大湊舎 本姓大竹氏通稱高濱屋三左衛門と云
て狂名とせり亦俳諧を善す俳名を法六巻寛政と號す文依
三辰年十月某日歿す淺草鳥越西方寺に葬る辭世一まめで
居た恩を報するはうろくのわれも終には元の土くれ

谷 一齋 名松字貞宣號己千土州の人元禄八年三月十
九日歿す歳七十一濫谷長谷寺に葬る

谷 麓谷 名本備稱十二郎本教の男にて文晁の父文化六
己年九月五日歿す歳八十一淺草寺町源空寺に
葬る

谷 立笨 斗南 名立真字太公又梅花長者井上金蔵門人
醫にして詩を能くす天保六年三月廿
八日歿す歳六十四

谷川士清 淡齋 名昇士清は字なり伊勢の人世々醫を業
とす山崎派の神道を學び又和歌は有栖

谷文五郎 文晁 麓谷の男號寫山樓又書學齋雅髮して文
阿彌天保十二年十二月十四日 二十
歿す歳七十八淺草源空寺に葬る

谷 文中 明治九年十一月廿八日歿す歳五十四又六十と
も聞く淺草源空寺に葬る

谷 文二 文晁男幼にして奇才あり號所嘉永三年五月
十一日歿す歳三十九淺草源空寺に葬る

谷 榮子 紅藍 洞齋妻號骨伴天保三辰年十二月四日歿
す歳五十三

谷傳右衛門 本教 一曰文治父を親徳と云との先江州世
年六十四淺草源空寺に葬る(谷氏は郡代官の小吏なり此
人地方の事に精通し諸國郡代及び縣令等の吏務に裨益す
ると極て多し褒美を給ると數度著述は田園類説二卷同附
録四卷縣令須知六卷聽訟須知一卷地方一様記辨解二卷皆
寫本を以て行官より命して田安府に附れ司計となる
麓谷其職を襲ふと雖も錢穀の事を厭ひ入谷北海に學て詩
を以て閑ゆ井王金峯山本北山等の説を喜び常に交たり)

谷 時中 谷宗慶の男名素有儒にして書を能くす慶安二
丑年十二月三十日歿す歳五十二

谷 重遠 秦山 通稱丹三郎土州の人山崎齋門人旁ら
神學に通す享保三辰年六月三十日歿す
歳五十六

谷志夫子 秋香 中田榮堂の妻名舜英字小香文晁の妹天
保三辰年五月十六日歿す歳六十一山下
慶雲寺に葬る

川家の門人となる國史漢籍に通す安永五申年十月十日歿
す歳七十伊勢刑部村福藏寺に葬る

谷 垣守 泰山の長子幼名荒歳後丹四郎土州の人寶曆二
申年三月三十日歿す歳五十五高知城北泰泉寺
に葬る

谷風棍之助 守胤 本性増田氏幼名與四郎寛政七年正
月九日歿す歳四十八高輪東漸寺に葬
る(谷風は奥州宮城郡蓋田村の産寛延二己年八月八日生
る明和四年十九才にして相撲となり秀の山と名乗る後伊
達ヶ關と改め安永五年二月谷風棍之助守胤と號す寛政元
年四月十一日廿九日之開山となりて横綱免許角力年中
行事に八年の間三郡中にて組合貳百貳拾番此中にて十一
番負に頭取預り無勝負七番勝百八十三番と云身の丈六
尺三寸重さ四十八貫目腰めぐり七尺余)

谷口樓川 號無事巷天明二寅年十一月廿九日歿す淺草本
願寺に葬る

谷口多膳 千秋 字子春寶曆四辰年四月廿五日歿す駒込
瑞泰寺に葬る

谷口胤祿 從六位上式部大丞文政九辰年十二月二日歿す
歳五十七

谷口月窟 號痴絶老勢州山田寂照寺月窟の門人名世遠字
孟泉江戸に出て芝高輪に住す慶應元年丑年四月
十三日歿す歳九十二

谷口蕪村 與謝蕪村を見よ

谷文一郎 文一 文晁善子號痴齋文政元寅年三月八日歿
す歳三十六淺草寺町源空寺に葬る

立原甚太郎 杏所 名任字遠郷水戸に生る歳二百五十石
を賜ふ風流好事書を能くす天保十
一子年五月廿日歿す歳五十三江戸小石川に住す駒込海藏
寺に葬る

立原甚藏 蘭溪 本姓佐久間氏水戸の人彰考館員翠軒父
明和七寅年十二月廿四日歿す歳四十八

立原甚五郎 翠軒 名万字伯時號此君堂又東里水戸の人
文政六未年三月十八日歿す歳八十駒
込海藏寺に葬る

橘 常樹 遠江國城岡郡平尾村廣幡八幡の祠官號岡の舎
壹岐守と稱す貞淵門人寶曆十二年十一月十
九日歿す歳七十五

橘 南蹊 宮川氏名春暉稱石見介伏見の人博識能文北窓
瑣談東西遊記等の著者なり男を春徳と云ふ文
化二丑年四月十日歿す

立花貞庵 孤岳 名省字伯動與州二本松の人天保五年午
十月二日歿す歳七十二淺草新寺町東岳
寺に葬る

橘 守部 幼名庭鷹通稱北島元輔號池庵伊勢の人國學を
能し江戸に出て鳴る嘉永二酉年五月廿四日歿
す歳七十牛島長命寺に葬る

橘 守國 素軒 本姓檜林氏名有税大坂の人始り狩野探
山守見門人師と絶交して後一家を爲す
寛延元辰年七月十九日歿す歳七十

立羽不角 千翁 岡村不卜門人通稱山崎定之助號虛雲齋
又南々舎松月堂雅髮して法眼に任し自
願寺地中淨勝寺に葬る

立羽壽角

不角二男號松千堂明和六丑年二月十五日歿す
西本願寺地中淨勝寺に葬る

館 柳灣

本姓小山氏名機字權郷又號古維子通稱維二郎
越後の人後幕府の徒士と成る詩を以て鳴る弘
化元年四月十三日歿す歳八十三牛込横寺町長源寺に

館 俊藏 霞舫

柳灣の男字昆陽號小籟書人嘉永六丑年
正月廿八日歿す寺同上

田 龍溪

寶曆五巳年七月廿一日歿す歳六十四

達摩屋語一 蛙鷹

本姓岩本氏號花の屋亦無物關人前名
伊三郎明治元辰年七月十八日歿す歳
五十二赤坂一ツ木淨土寺に葬る

高 願齋

名玄融支倍男別號高頭齋明治六丑年正月五日
歿す歳八十牛込原町經王寺に葬る

高林方朗

本居宣長門人弘化三年年十二月十四日歿す歳
七十八

田川鳳朗

號自然堂弘化二巳年十一月廿八日歿す歳八十
四谷中天王寺に葬る

高橋一庵

名群稱仁輔仙臺の人天保戊辰年七月十七日歿す
歳四十五

高橋與市 女護嶋

名閔慎字正卿稱八丈島屋、歳十一才
にて島を出て廿八にて學に志し東江
源齋の門に入る文政五年十二月十三日歿す歳七十西本願
寺塔中に葬る

高橋作左衛門 東岡

名至時字子春號梅軒文化元子年
正月五日歿す歳四十一淺草寺町
源空寺に葬る(東岡は明和元年十一月大坂上本町に生る

高尾

京町一丁目三浦屋四郎左衛門抱生國下野園下鹽原
る万治三年高尾と成り享保元年三月三浦屋へ抱へら
十七仙臺荒町佛眼寺に葬る

高 葛坡

石島筑波門人名峻號伊齋稱嘉右衛門安永五申
年八月八日歿す歳五十三洛東佛光寺に葬る

高田與清

小山田與清を見よ

高田吉次

伊賀國伊賀郡白檀村に生る通稱又兵衛寛文十
一亥年正月廿三日歿す歳八十三

高田敬輔 隆久

初稱德右衛門近江の人狩野永敬に學ひ
後法眼に叙實曆五巳年某月日歿す歳八十
二(近世逸人書史に高田敬輔の江州日野杉の上の人也製
業を以て活業とす幼にして書事を好むり因て水口侯に仕
ふ侯狩野永真をして是か師たらしむ後故里に歸省して此
業愈つとす善書の間えあり其寫す處富士峰及鮎魚鯉魚等
を珍玩とす後隆福寺古碕和尚に書法を學へり竹隱齋眉
間毫翁の號あり男を三經と云)

高津野坡

本姓志田通稱半次郎後彌助越前の人始め江戸
三井兩替店に勤む也蕉の門號無名巷元文五申
年正月日向國遊歴中歿す歳七十八

寶田壽葉 劇神仙

本姓鈴木氏俗稱和八郎神田に住す非
名を閑雅と云ふ寛政八辰年八月十七
日歿す歳五十七

寶田壽助 壽仙

始松川實作と云ふ松井幸三弟子分天保
三年實作を改めて寶田壽助と成る天保
九辰年二月十九日歿す歳四十二戲作の名向榮樓傾堂又東
蝶山人

安永七年十二月父元亮の後と繼て大坂御定番同心と成る
改曆の擧れ有り同年三月江戸に召され其奥を極む寛政七年
同月十一月四日更に天文方に命せられ改曆の主任と成る
又傍地理測量御用と兼取調中歿す東岡の子作助文化元年
四月三日家督仰せ付けられ先業を継ぎ天文方となり作左
衛門と名のり文化十一年二月御書物奉行兼御印付らる然
る所蘭人シールホルトより蘭書を讀み得たる也報に本邦の
地圖遺したる事發覺し文政十一年十月十日召捕らる揚屋敷
入り文政十二年二月十三日大病に付十月十日召捕らる揚屋敷
三年三月廿六日一件落着中流に云云不審易品蘭人へ相渡
し御國禁に背き候不届之至り存命候はば死罪可被仰
付者也云々

高橋宗恒

京師大内の有職家正四位下雅樂頭御厨子所預
たり寶永三辰年十二月廿四日卒す歳六十七

高橋宗直

御厨子所正四位上若狭守有職の記録を著し號
て寶石類書と云ふ二百余卷あり天明五巳年正
月廿四日卒す歳八十五

高橋杏村

明治三年年五月四日歿す

高橋庄左衛門 牛嶼

名延國寛政十年年七月廿三日歿
す淺草玉宗寺に葬る

高橋慎省

平安の人明和五年正月十五日歿す歳五十二
洛東極樂寺に葬る

高 良齋 輝淵

名淡字子清德島藩の醫文政十年獨逸醫
學を修め眼科を以て開業ま文政十二年
正月獄に下る後赦されて福島に歸る後大坂より出で弘化三
年九月十三日歿す歳四十八大坂南谷妙光寺に葬る

寶井其角

竹下東順(本多上野介抱齋師)男榎本氏は母方
の姓と云寛文元年七月十七日東都堀江町に生
る俗稱源助號寶齋又狂雷堂寶永四亥年二月三十日歿す
歳四十七一本板上行寺に葬る

高村和及

長門の人號直唱法師又露吹庵といふ元祿五年
申正月十八日歿す歳四十四

高井立志

號松樂軒本町四丁目に住す維屋立圃に隨ひて
俳諧を能す天和元酉年十月廿一日歿す

高井立志二

立志次男幼名犬松初松雨軒雅髮して和諧堂
寶永元申年八月十日歿す歳四十八淺草常福
寺に葬る

高井立志三

二世立志男初春水又立詠父歿後三世立志と
改む享保元辰年十一月廿一日歿す歳四十二
淺草常福寺に葬る

高井蘭山

名伴寛字思明稱文左衛門芝伊血子に住す幕府
與力小説演義類の著頗多し天保九辰年十二月
廿三日歿す歳七十七白銀成法寺に葬る

高野長英 瑞臯

本姓後藤氏幼名悅三郎後郷齋高野家を
繼く蘭醫吉田長叔の門に入り長英と改
む嘉永三年年十月晦日自及す歳四十七

高野惟馨 蘭亭

名勝明字子式通稱文之助後香之進祖徠
門人百里の男十七才にて朋を喪ひ詩を
以て知らる寶曆七丑年七月六日歿す歳五十五鎌倉圓覺寺
中松濤館に終れり

高野春華

名繼字君素通稱忠右衛門天保十亥年二月廿三
日歿す歳六十九

高野百里 電堂 名勝春字文館號俳諧合堂江戸の人享保十二年五月十二日歿す歳六十二大川端東江寺に葬る

高山北溟 名尚實稱平助安永六酉年八月廿五日歿す淺草菅願寺に葬る

高山彦九郎 正之 上野國新田郡細谷村の産寛政五年六月廿七日屠服歳四十四

高逸記 芙蓉 名孟彪字儒皮初字本姓大島家刻の名人なり天明四年四月廿四日歿す歳六十三小石川無量院に葬る

高木壽穎 參石 通稱五郎兵衛號梅嶺又加茂地屋明治十六年正月十六日歿す歳七十

鷹見三郎兵衛 爽鳩 名正長字四方三州の人田原侯に仕ふ祖徠門人本石川氏草新堀松源寺に葬る

鷹見三郎右衛門 星泉 名允字子允三州田原世臣爽鳩孫文化八年十月三日歿す歳六十二草松源寺に

高嶋千春 書有職に精し號融齋又鼎湖稱壽一郎安政六年十一月十一日歿す歳八十下谷雄念寺地中願壽寺に葬る

高嶋玄札 高島玄道とも云醫師なり本所四丁目に住す元祿二己年十二月十四日歿す歳八十三

高嶋四郎大夫 秋帆 長崎の人名數字舜臣後稱喜平慶應二年正月十四日歿す歳六十九駒込東片町大圓寺に葬る

立野老樗軒 名運樗岡田と改姓岡田樗軒を見よ

辰松八郎兵衛 元藤井伊十郎人形遣にて名高し寛延三年十一月廿四日歿す歳六十六

辰松八郎兵衛 偏振 文化九年五月九日歿す歳六十

龍公美 草蘆 字君玉山城國伏見の人寛政四年二月二日歿す歳七十八

辰巳屋惣兵衛 踊狂 小石川傳通院前の茶店文政四己久保町慈照院に葬る法名快樂遊仙翁の葬送の時のみ先は此頃流行せるかんく(の)唐人踊り也夫より唐人の真先は此頃流行せるかんく(の)唐人踊り也夫より唐人の立棺の上にはうるはしき振袖を掛けたる轎四本棺の前後に押猪の如し斯て至ればさきや歌をねり行く觀る者翁昔より年毎の祭りにおかしきまじりて踊り出其名高き世に知られたり諸侯方へも招かれて踊り興じたり此頃の一奇人も踊狂の名は獨山より送りしなり此頃の人には老女の異様に化粧せしを見ては辰巳屋のやうなりなどいひたる程にもはやされし江戸の名物也

種村箕山 澤村琴所門人字元民通稱元治江州の人寛政十二年六月十二日歿す歳七十九

田邊次郎太夫 貞齋 名經忠字世篤博く雜書に渉る安永二己年閏三月十一日歿す淺草本願寺に葬る

田邊晋齋 淺井重遠門人名希文字子都號翠溪仙臺世臣稱喜右衛門安永元辰年十二月十二日歿す歳八十

高久隆古 高康義子稱芳四郎本姓川井氏安政五年八月廿六日歿す歳五十九谷中龍院に葬る

高久露屋 號疎林外史名微一稱秋輔下野佐野の人號華梅齋文風門人後一家を成す天保十四卯年四月八日歿す歳四十八谷中龍院に葬る

高森正因 享保三戌年四月十九日歿す歳四十九

高瀬梅盛 高名の俳人俗稱太郎兵衛號慶して宗入居士號佗心子元祿十二年四月八日歿す歳八十九

高瀬學山 林風門人名忠數字希樸號松花紀藩の醫なり江戸に勤番とし時徳廟僧郎の頭備官に命ぜられ著書して忠兵衛と改む後作右衛門と云入寛延二己年六月十五日歿す歳八十二

高瀬道鑑 號道甘齋梅盛の兄俗稱清太郎元祿四年二月十五日歿す歳八十三

高 嵩月 常雄 號景納嵩谷門人天保元寅年十一月廿日歿す歳七十六

高 嵩谷 一雄 佐藤嵩之門人樂只齋雲堂又屠龍翁の號號有り文化元年八月廿三日歿す歳七十五淺草西福寺地中智光院に葬る

多田東溪 號蒙齋明和元年八月廿六日歿す歳六十三

多田義俊 南嶺 桂秋齋を見よ

多々良南川 通稱丹下名義方京の人寛保元酉年七月廿七日歿す歳七十四京極大雲院に葬る

展岡万作 浪花島の内に住す狂言作者展岡家の祖なり文化六己年九月三日歿す歳六十八

田邊是來 嘉永四年三月十六日歿す芋坂長善寺に葬る法號仁讓院義正日巧

田中抱二 青々 通稱金兵衛書風抱一の流也明治十八年正月廿三日歿す歳七十一寺嶋村法善寺に葬る

田中訥言 大孝齋 名痴字虎頭法橋に叙せらる尾張の人平安に住す古畫の風致を得しは此人を魁とす文政六年三月廿一日歿す

田中良齋 存生齋 名榮治通稱多兵衛尾州名古屋の人狩し寶曆十三年十二月六日歿す歳八十二

田中道榮 通稱太兵衛神田辨慶橋に住し狂歌を嗜めり文政八年二月六日歿す歳八十八下谷金杉世尊寺に葬る辭世「今迄の業も勤もつさはて嬉しく踊るもとの古郷」

田中宗逸 明治五年十月廿日歿す

田中武助 蘭陵 名良暢武州の人徠門人少年四傑の一入享保十九年十二月廿五日歿す歳三十三六山谷瑞泉院に葬る(田中桐江の姪也)

田中大秀 香木園 號湯津稱彌兵衛飛驒の人蓬髮して在野翁鈴屋翁門弘化四年九月十六日歿す歳七十二飛驒大野郡松室園に葬る

田中源内 東京 名親長京師の人仁齋門人享保十七子年八月廿三日歿す歳六十八文逸先生と私諡す

田中歸春 五英 通稱喜右衛門字清友書家なり文化九年十一月十七日歿す歳五十九深川靈岸寺に葬る

田中道磨 本居門人號橋本翁稱庄兵衛美濃の人後名古屋に住す天明四年十月四日歿す歳五十五

田中収藏 玉峯 名爲則字子翼書を能す文政十一年十月十八日歿す歳七十

田中兵庫 丘隅 通稱隅石衛門後兵庫名古號冠帯老人遂に旗下の列に加り縣令に至る享保十四年十二月十日歿す歳六十八川崎在小向村妙光寺に葬る

田中省吾 桐江 山縣周南門人號富春山人出羽の人寛保十三年(省吾一號雪華道人始兵學を以て甲斐侯に仕る後故有て藩を去りて後姓を富名逸字春更桐江と號す晩年奥州三春に隱る)

田村臨川 延享元年十一月廿四日歿す歳六十

田村雄藏 華山 名孝依赤澤節嚴門人寛政五年四月十二日歿す歳三十一

田村元雄 藍水 本姓坂上名元臺一名登物産學家なり安永五年三月廿三日歿す歳六十五中野真龍寺に葬る

田村西湖 僂香港 寛政五年正月十九日歿す歳六十五

陶梅里 梅里山人 名酉字冲己本所中の郷に住める瓦方くを得意とせり寛政十年六月廿八日歿す歳六十五中の郷成就寺に葬る

道本和尙 淺草藏前大護院隱居安政四年八月廿八日歿す歳九十神奈川金藏院に葬る

玉置茂八 筆華堂 淡路の人玉置半助門後師の姓を嗣す歳七十五本所砂村持寶院に葬る(玉置半助寺澤友太夫馬場大助杯の類皆御家流なり)

竹尾喜筑 山縣大貳孫初増上寺の僧後還俗して幕府の表坊主と成り竹尾姓に改む天保十三年八月六日歿す歳五十九麴町十丁目心法寺に葬る

竹田出雲 千前軒 竹田近江の子名清定實曆六年十月廿一日歿す歳六十六

武田梅龍 蘭籬 名欽蘇美濃人宇野土新の門人初名惟岳復し後年東津に就く平安に住す明和三戌年十月十六日歿す歳五十一洛妙心寺に葬る

武田長壽院 杏仙 名靜字信成號兼山官醫なり實永二年七月廿六日歿す品川東海寺中少林院に葬る

武田耕雲齋 正生 通稱伊賀慶應元丑年三月若州に於て斬せらるる歳六十三

竹田近江 清直 阿波の人万治元年十二月朔日出雲と受領す寛文二年春大坂にてからくり芝居興行し享保十二年閏九月十九日歿す歳八十一(竊盜漫筆卷の二〇初代竹田近江阿波の人通稱次郎兵衛享保十一年五月五日近江と改同十四年閏九月十九日死八十一歳〇年近江三四郎享保十九年十一月近江と受領す寛保三年四月九日二日代近江清英死〇弟近江平助と云寛保三年四月京都にて受領す云々)

唐來三和 伊豆亭 本姓加藤通稱和泉屋源藏草履紙賣二亥年八月五日歿す歳六十七深川淨心寺に葬る

田野村竹田 古谷普陽の門人豊後の人本藩世官行藏入保六年八月廿九日歿す歳六十六大坂南寺町淨春寺に葬る

田口如松軒 如松 京師畫所通稱數馬字正堅實永五年八月廿八日日本歿す歳七十五京極西園寺に葬る

澤港和尙 宗影 冥之 柴野大徳寺百五十三世藏僧を又東海善翁正保二四年十二月十一日歿す歳七十三神東海寺にあり

田山敬儀 通稱順治小澤善龍門人伊賀人文化十一年四月十九日歿す歳四十九北白川心性寺に葬る

玉川庄右衛門 了覺 玉川上水の起工人元祿八年六月八日歿す歳七十四淺草寺町聖徳寺に葬る

玉垣額之助 角力年寄もど十緒より出でたりといふ其故か人品よかりき明治十四年八月廿五日歿す歳六十九

玉木葦齋 山崎間齋門人神道に深し元文元年八月七日歿す

玉菊遊 新吉原角町中萬字屋勘兵衛抱本名たね享保十一年三月廿九日歿す歳二十五淺草光成寺に葬る(光成寺の墓碑には光岸明秀信女實永元年甲申五月十九日とあり)

竹内雲濤 醉死道人 名鶴字九萬號不可、無竹居詩人なり文久二年十二月十四日歿す歳四十九東本願寺地中清光院に葬る

竹内玄々一 竹窓 號有無軒後勾當俳家奇人談の編者歿す歳八十三谷中長久院に葬る辭世一朝かぼやしほめは又の朝ぼらけ

竹内式部 天龍道人 名玉瑾越後の人京に出て徳大寺八月追放竹田正菴と改め勢州に寓す明和四年八月廿五日歿す歳八十三後赦免有て信州諏訪に越き文化七年八月廿一日歿す歳九十三

武野一閑居士 紹鷗 甲斐源氏武田信光の裔堺の人三條右府公に仕へ雅髪の後古岳禪師に隨て茶道の奥を極め大黒菴と號す室町四條に住す弘治元年閏十月二十九日歿す歳五十四堺南宗寺に葬る

武野宗瓦 因幡守仲村と稱す紹鷗の男號方寸齋長十九寅年八月廿六日歿す歳七十一同寺に葬る

竹下東順 榎本を見よ(えの部)

竹本播磨少椽 喜教 稱中紅屋長四郎初め若竹政太夫椽と改む延享元年七月廿五日歿す歳五十四大坂天王寺領國恩寺に葬る

竹本於傳初 芝栴 江戸人形町に生る婦人に稀成る上手年五月廿七日歿す歳五十九淺草千念寺に葬る

竹本おでん 芝梅 木挽町船宿屋万五郎娘、母は後五代目瀬川菊之丞妻と成る文政十一年二月六日歿す歳三十九西本願寺地中に葬る

竹本政太夫 大坂さこばに生る稱十兵衛さこば政太夫是なり明和二年七月十日歿す歳五十六

竹本政太夫 二代目魚屋十兵衛政太夫門人通稱藤本利兵衛文化八年七月十四日歿す歳五十九

竹本越太夫 爲聲 大坂の人元祖越太夫門人初名要太れ富徳の身と成り居付地主となり文政元年八月三日歿す歳五十七本所柳島法性寺に葬る法號本立院善開日壽辭世難波より大江戸に下りて早三十五年の今門葉の繁る事ありがたく何か思ひ残さん一御當地の恵みにふしもかれにけり扇拍子のうち納めかな

竹本義太夫 博教 俗稱五郎兵衛元祿十四年五月竹本十日歿す歳六十四大坂天王寺地中願寺に葬る

竹本宮戸太夫 天保八酉年五月廿七日歿す

竹本石亭 俗稱又八郎名正興明治廿一年一月一日歿す歳六十七小石川光圓寺に葬る

竹本住太夫 文雅 通稱田中文藏文化七年三月十日歿す歳五十二西本願寺地中妙延寺に葬る

多湖柏山 實曆三酉年四月十六日歿す歳七十四

多湖松江 安永三年十一月廿日歿す歳六十六

建部巢兆 號鶴香江戶住に住す一號松浦又黃雀巷白雉門人書畫及俳諧を能す文化十一年十一月十七日歿す淺草日輪寺に葬る

建部傳内 名賢文初稱徳川家御師筆管圓法親王の御録管この書風を以て天正十八年九月廿一日六十九歳に歿すといふ一因に云傳内流の書風上方にも行はれて高かりし故菅原傳授手習繼の曲に武部源藏といふ人物を作りたり傳内初め純藏と呼ばれたればなり

建部綾足 涼岱 字孟喬號寒齋吸菴南都の人俳諧繪年三月十八日歿す歳五十六牛島弘福寺に葬る一涼岱性品落不羈品行上議すべし者ありと雖も秀才多能技師なり曾て連歌の片歌といふを主唱してはる貴顯より片歌道守の名をかきて賜はりしが片歌は遠に行はれずしてやみぬ

立川焉馬 談洲樓 本所相生町五丁目に住す本姓中村年六月二日歿す歳八十本所表町最勝寺に葬る焉馬は大工職棟梁なり依て狂名を譽れ言曲尺といふ戲院焉馬亭天明年四月十一日昔晰の會を始て向島の武藏屋橋亭三方にて催し其後寛政四年正月廿一日を例會とす落晰中興の開祖とす

立川焉馬 通稱山崎常次郎町與方山崎助左衛門の男深山人文政十三年二代目焉馬と改む弘化三年近松門左衛門と名乗り中村座へ出勤翌年退座文久二戌年七月廿三日歿す歳七十一小石川極樂水大雲寺に葬る

伊達吉村 伊達肥前守宗房長男從四位中將陸奥守實曆元年未年十二月廿四日卒す歳七十二芝東禪寺に葬る

伊達政宗 左京大夫輝宗長男從三位中納言陸奥守寛永十三年五月廿四日薨す歳七十二芝東禪寺に葬る

伊達宗紀 春山 舊宇和島藩主遠江守後伊豫守寛政二年九月十六日生る明治廿二年一月從二位同年十一月廿四日宇和島に薨去年百歳特旨を以て正二位を贈らる

太宰純 春臺 本姓平手氏字徳夫號紫芝園太宰謙翁に養れ大宰氏を冒す通稱彌右衛門信州の人初中野擔謙に學び後徂徠に隨ふ延享四年五月三十日歿す歳六十八谷中天眼寺に葬る

瀧方山 招鳩軒 東六條御門主の家士初名峯山後芳山稱主水維舟の門享保十五年戌五月廿四日歿す歳八十

瀧 鶴臺 山縣周南門人名長禮稱彌八長州の人安永二己年正月廿四日歿す歳六十五

瀧川吉平次 友交 敵役中山平八子初竹三郎正徳五未年十二月十九日歿す歳四十七芝觀智院に葬る

瀧野瓢水 播州加古別府の人酒井侯封を姫路に移され巡覽之時此家を問へり精しくは續崎人傳に見ゆ實曆四年某月日歳七十七にて歿す

瀧本坊昭乘 惺々翁 號松花堂城南雄徳山社僧能書まして近古三筆の一人寛永十六卯年九月十八日歿す歳五十六

多紀元胤 柳汀 機窓の男字紹翁文政十亥年六月二日歿す歳四十七平塚城官寺に葬る

多紀元惠 藍溪 姓は丹波名元真字仲明永壽院と稱す享官寺に葬る(明和二年四月廿九日父安元と共其上願して始て神田の地に醫學館を起し蹟書館と號す明和九年二月諸堂火災に罹り元惠私財を以て佐久間町に再建し永く後進を裨益す濟世の術のみならず其事業大なる近世に希なるとなり寛政三年十月御改正被仰出公儀持と成る)

多紀元簡 櫟窓 藍溪男通稱安長號桂山字廉夫文化七年十二月二日歿す歳五十六同寺に葬る

多紀安叔 茵庭 名元堅字亦柔學醫なり本石町四丁目に住す元胤の男安政四巳年二月十七日歿す歳六十三寺同上

瀧澤馬琴 篁民 通稱清左衛門後蹟吉名解號著作堂又曲亭安同陳人篁笠隱居嘉永元年十一月六日歿す歳八十二小石川茗荷谷深光寺に葬る

瀧澤羅文 名與官稱直二郎號東岡舍馬琴兄羅文は俳名なり寛政十年八月十七日歿す歳四十

爲永春水 狂訓亭 本姓佐々木氏長次郎と云後鶴正輔と改む天保十三寅年七月十三日歿す歳五十四西本願寺地中妙傳寺に葬る一春水は元書貴にて青林堂越前屋長次郎と云初め式亭三馬門人三驚と云後二世振驚亭と號す故人楚滿人か女に乞ひて二代目楚滿となりしか故有て其名を返し文政十一子年爲永春水と改む居池の端に移り又多町二丁目新道又辨慶橋牛島と移り後下谷池の端に移り又多町二丁目新道又辨慶橋牛島と移り後下龍山人と號す天保十三年四月公より咎を蒙り手鎖中に病死す

爲永春水 本名染崎延房對州嚴原藩士狂調亭の門人なり
九年九月廿七日歿す歳六十四坂本一丁目養玉院に葬る

爲永春江 明治二十年十二月廿日歿す

鯛屋貞柳 由縁齋 通稱永田清右衛門名信來狂歌を豊藏
日歿す歳八十一大坂下寺町光傳守に葬る十九年八月十五
氏父は貞因貞室門人大坂南御堂前にて鯛屋山城様と云葉
子製所なり或年南都松井和泉と云へる油屋所より大形の
墨を大内へ献進あるを聞て一月ならで雲の上まで大形の
ばるこれはいかなるゆゑなるらん此歌雲井に聞え由
縁齋と號を賜ふ

れの部

蓮月尼 明治八乙亥年二月八日歿す年八十三暮は京都愛
都の豪家の女にして美人也歌を能くよみ後に尼と成洛東
岡崎村に住居す自詠を焼物に染め付け酒器茶器等を手製
し是をひさぎて渡世とせり中年の頃貧窮なりしも後年に
は有徳になりすと云

了然禪尼 京人葛山氏の女別稱元總松田晚翠の妻正徳元
卯年九月十八日歿す歳六十六高田落合泰雲寺
に葬る(紫の一本に了然禪尼菴室(鐵炮洲のうら)是は東

その部

曾呂利新左衛門 得齋 本姓中川氏慶長八卯年九月廿
二日歿す

曾我蛇足 宗譽 式部入道宗文と稱す初越前朝倉氏に仕
五卯年十一月十七日歿す大徳寺眞珠院に葬る

蘇嶺山人 見雅居士 名眞卿字拳叔詩人なり天明四辰
年五月十五日歿す歳五十七淺草
山谷宗林寺に葬る

宗長法師 紫屋軒 本姓島田氏駿河島田驛の人宗祇の門
人天文元辰年三月六日歿す歳八十五

曾 昌道 占春 字士考薩州醫官本草家天保五年二月
廿一日歿す歳七十

宗祇法師 種玉菴 姓飯尾氏號自然齋紀州在田郡藤並莊
の客舎に物故す歳八十二同所早雲寺に墓あり一説弟子宗
長宗純宗祇の棺を昇き足柄山を越し駿河境桃園の定輪寺
に葬ると

宗紫岡 稱楠本雪溪紫山男嘉永三戌年六月六日歿す歳七
十法號誠性院釋覺玄淺草本願寺中徳本寺に葬る

宗紫山 宗紫石の男名白圭字君錫號普溪文化二丑年十一
月十九日歿す歳七十三寺同上法號壽性院釋覺誠

宗紫石 雪溪 字君赫姓楠本東都の人長崎に遊び熊斐に
五月廿日歿す歳六十五寺同上法號壽性院釋覺誠

染崎延房 爲永春水二を見よ

染木正信 韓人李氏成長して後老女染木の養子と成り染
木八右衛門と云寛文二卯年九月廿八日歿す歳
六十九(宛園小説卷一に御天守番飯島平二郎話子が相
染木某か先祖は韓人にして李氏あり豊太閣の時小童にし
て姉とともに片桐市正に生捕れて豊國に來れり市正此二
人に唐山の童子の衣服をさせて臺に乗せ天樹院君に此二
らせたり姉は成長して早尾と云ひ弟は老女染木か養子に

なり染木八右衛門正信といひて兩人ともに生涯つかへ奉
番を勤たり然るに實子なくして血脈を絶たりとそ家の傳
ふる所は族稱平氏とも染木といへりと輪池云

つの部

椿仲太 椿山 名粥字篤甫號琢華堂幕府の先手同心たり
年閏七月十三日(表向九月十日)歿す歳五十四牛込圓福寺
に葬る

椿仲輔 常盤舍 名千稔號南塘四郎左衛門下總香取の人
小山田與清門人弘化三年六月四日京
柳馬場の客寓中に歿す歳四十四

壺井鶴翁 鶴壽 名義知通稱安右衛門號温古軒浪花の人
有職故實に精し享保二十年卯十月廿四
日歿す歳七十九城東清光院に葬る

坪井青城 名敏求字子俊安永二年巳五月十九日歿す歳五
十八淺草新寺町正覺寺に葬る

坪井信友 信道男慶應三年五月廿五日長州山口に於て歿
す年三十六

坪井信道 誠齋 字信道美濃池田の人宇田川玄眞の門嘉
永元年申十一月八日歿す歳五十六淺草
誓願寺に葬る長男信友後信道と稱す

辻萬里 街萬里を見よ(かの部)

土屋東雨 安親 通稱彌五八延享元年九月廿七日歿す 歳七十五

土屋訥齋 反求 名辨梵字士明寛政五年七月七日歿す 高田亮潮院に葬る

土屋繩直 栗臺 字準夫號曲江名勘解由春臺門人實曆四年戊五月三日歿す歳五十七淺草海禪寺に葬る

釣舟清次 寛政二年戊六月廿二日歿す

鶴賀若狹椽 鶴翁 通稱高井庄兵衛宮古路加賀太夫門人にて宮古路敦賀太夫といふ後師と絶して朝日敦賀太夫又朝日を止められ鶴賀と改む狂名大木戸若牛と云ふ天明六年三月廿二日歿す歳七十五淺草田圃幸龍寺に葬る

鶴賀加賀八大夫 新内 本姓岡田五郎次郎湯方御家人なり安永三年八月十一日歿す歳六十一

鶴田卓池 弘化三年八月十一日歿す歳七十九

鶴屋南北 北壽 通稱伊之助金井三笑の門に入り狂言作者となり始め勝儀藏と稱す文政十二年五月廿七日歿す歳七十五本所押上春慶寺に葬る(鶴屋南北と名の者數人あり前三代は俳優道化方なりしが四代に至り始めて狂言作者となる四世南北は幼名源藏後伊之助父を伊三郎とて紺かきの形付を業せり安永四年金井三笑の門に入り勝儀藏と稱し後故有て鶴屋南北の名を學ぶといへり)

都賀六藏 大江漁夫 名庭鐘字公聲號大江山人浪花の儒者上田秋成の師と云ふ戯作二英草紙繁々夜話秀草紙等大に行はる後のよみ本の風は之を學ぶといへり

塚田多門 大峯 名虎字升號雄風館信州の人天保三辰年三月廿一日歿す歳八十八名古屋城南大光院に葬る

塚本長兵衛 通稱橋隨意長兵衛慶安三寅年四月十三日歿す歳三十六下谷北寺町源空寺に葬る

津田忠助 東陽 名恭字士雅長州の人長門侯に仕ふ周南の門人實曆四年九月十二日歿す歳五十三長府亨徳寺に葬る

津田宗達 號大通船鴨門塚の人天王寺屋といふ永祿九年八月二日歿す歳六十三

津田宗及 更幽齋 堺宿屋町住す大間の茶道天徳寺江月の父にて御醫師半井ト養が爲に外祖なり亦千利休の師といふ天正十九年卯四月廿日歿す

薦唐丸 柯理 喜多川氏通稱薦屋重三郎烟羅館唐丸は狂歌の號也寛政九年巳五月六日歿す歳四十八淺草山谷正法寺に葬る

筒井 憲 變溪 始め紀伊守後伊賀守と稱す書を能くす安政六年未六月朔日卒す歳八十二鳴子常圓寺に葬る

堤 鴻佐 它山 名公愷江戸の人嘉永二年酉二月四日歿す歳六十七

跡を編く演劇脚本を作ると五十余年佳作多し又神史の作も有て姥厨助と署名せり高砂町に住みたるに因て也

鶴屋南北 可祐 四代目南北孫稱孫太郎嘉永五年正月廿一日歿す歳五十七深川寺町信行寺に葬る

鶴澤市太郎 始鶴澤咬治義太郎節三線師鶴澤門人應元年丑九月四日歿す

鶴澤勇造 元祖鶴澤清七門人万延元年十一月廿八日歿す歳七十一東本願寺に葬る

鶴澤友次郎 始の名三千歳延寶二己年七月廿四日歿す歳五十一

鶴澤文藏 始め仙藏中興の名人天保五年九月廿三日歿す歳五十四大坂下寺町遊行寺に葬る

鶴澤文藏 初文藏二代目文藏子明治十九年八月廿三日歿す本所小梅常泉寺に葬る

鶴澤文三 文系 鶴澤文藏門人始忠次郎安政六年七月十日歿す歳五十三淺草黒舟町正覺寺に葬る

鶴澤才治 糸遊 五代目竹本政太夫の子始の清次郎鶴澤寛治門人安政五年八月十日歿す歳四十三東本願寺地中等光寺に葬る

鶴澤蟻鳳 通稱大坂屋小三郎晩年三代目竹本播磨太夫と改む安政元年寅十月十日歿す歳八十四谷中佛心寺に葬る

飯山谷右衛門 始鶴石文藏後二十山雲右衛門と改む嘉永五年子正月朔日歿す歳五十三

堤 三五郎 朝風 幕府賄組頭を勤む博覽の人號竹裏亭十牛込七軒町淨林寺に葬る法名朝風不占居士

津村三郎兵衛 涼菴 名敬空佐竹侯用達傳馬町に住す和歌を能くし雅望の師なり文化三年寅五月十六日歿す東本願寺地中善宗寺に葬る

津打治兵衛 英子 狂言作者名人實曆十年辰正月廿日歿す歳七十八谷中蓮光寺に葬る

角田青溪 名明字公熙稱彌左衛門江戸の人天明八申年四月廿四日歿す

爪木晚山 吟花堂 初名永可一號二童齋京の人俳諧を能くす享保十五年八月十五日歿す歳六十九雙が岡長泉寺に葬る

月岡芳年 大蘇 本姓吉岡氏月岡雪齋の養子と成る元一勇齋國芳門人明治廿五年六月九日歿す歳五十四東大久保村専福寺に葬る

月岡丹下 昌信 高田敬甫門人浪華の人號雪鼎又信夫翁とも云ふ天明六年十二月四日歿す歳七十七本姓は水田氏大坂に住せり

月形 弘 文久三年亥四月五日歿す歳六十五

月の本爲山 明治十一年一月十九日歿す歳七十五品川本光寺に葬る法號月本院爲山日晴(爲山妻の身まかりし時の狂歌一よの中のかさまとはさらへども順にいってわれがたまらぬ)

露の五郎兵衛 輕口話しの祖とも稱すべき人元祿十六年未五月九日歿す歳六十一

辻 鼠六 大黒菴 青々館春雄門明和七年寅八月廿五日 歿す歳四十四

れの部

根岸鎮衛 從五位下肥前守元高五百石寛政十年十一月 百石十八ヶ年勤續文化十二年六月廿八日加増五 才文化十二年御加増の時一御加増をこんさいた 石八十の翁の力見てくれ

根岸權兵衛 友我 名直英長兵衛直利の男始長次郎正徳 務を命せられ後小普請組に属す享保十四年九月廿五日 歿す歳六十七谷中感應寺に葬る

根岸長兵衛 暫軒 名直利正徳四年三月三十日歿す谷 中感應寺に葬る

根本八右衛門 武東 名運志相州の人徂徠門人明和元 年申十二月二日歿す歳六十六相 洲久良岐之村弘明寺に葬る

なの部

内藤義英 露沾 西山宗因の門人下野守號傍池亭延岡亭 保十八年正月十四日歿す歳七十九 倉光寺に葬る

内藤文章 芭蕉門人佛玄庵尾州犬山の人僧徒たり寛永元 年中二月廿四日歿す歳四十二粟津龍ヶ岡に葬る

内藤廣前 幕府先手組同心にして國學に精し慶應二寅年 九月十九日歿す歳七十六

那波魯堂 主膳 名師魯號鐵視道人播州の人岡白駒門人 寛政元年九月十一日歿す歳六十三 島城西妙高菴に葬る

那波綱川 與藏 魯堂義子本姓佐々木氏號綱川字世勤父 子ともに阿波侯に仕ふ文化十四年五月 歿す歳五十七

那波道圓 活所 名福播州人樞密門人紀藩に仕ふ慶 安元年正月三日歿す歳五十七

苗村芥洞 三友 名道益近江の人仁齋門人其事蹟は伴蒿 巖が晴人傳に見ゆ寛延元辰年十月廿三 日歿す歳七十五

鍋島閑叟 明治四年正月十八日歿す年五十八

生川春明 名は正香通稱三郎助伊勢津岩田町藥種商俳諧 女風俗考も此翁の編なり明治廿三年八月七日歿す歳八十 七伊勢津數圓寺に葬る

成田蒼虬 對塔菴 天保十三寅年三月十三日歿す歳八十 三

成島筑鼎 龍洲 名和鼎通稱忠八郎道筑男文化五年辰五 月四日歿す歳八十九本所本法寺に葬る

成島勝雄 衡山 字は飛通稱仙藏文化十二年亥七月六日 歿す本所本法寺に葬る

成島道筑 鳳卿 名信通字歸德號芙蓉道人又錦江成島道 雪養子實曆十年辰九月十九日歿す歳七 十二本所本法寺に葬る

成島圖書頭 司直 號東岳稱邦之助文久二年壬戌八月十 三日歿す歳八十五寺同上

成島柳北 名弘字保民稱甲子太郎明治十七年十一月三十 日歿す歳四十八寺同上

奈河龜助 一洗 始奈河篤助又一泉とも云々後一洗堂狂 言作者也天保十三寅年二月三日歿す歳 七十九大坂西寺町大林寺に葬る(逸事略す)

永原才六 左葉 名伴與字曠臺號鐵齋詩學に長す享和三 亥年三月廿二日歿す歳八十三深川靈岸 寺地中長專院に葬る

中林竹洞 成昌 字伯明太原菴東山隱士の號あり尾州の 人嘉永六丑年三月廿日歿す歳八十四

長橋右膳 東原 名實佐字孟輔文政十二年丑六月十一日 歿す歳五十八谷中長久院に葬る

奈河七五三助 洗口 奈河龜助高弟通稱金次郎文化十 一戌年十月廿日歿す歳六十一大 坂今宮海泉寺に葬る

奈河晴助 通稱宮島屋喜兵衛京の人一洗門人となり後豊 晴助と改む文化九戌年正月十九日歿す歳四十 五大坂四軒町淨圓寺に葬る

中西忠太 一刀流劔術の名人享和元年酉二月十七日歿す 根岸善性寺に葬る

中西曾七郎 淡淵 名維章字文邦三州の人竹腰氏に仕ふ 儒士なり實曆二年申七月十五日歿す 歳四十二増上寺地中瑞花院に葬る

永富鳳介 昌菴 名鳳字朝陽獨嘯菴菴髮して昌安と云東 洋門人明和三戌年三月五日歿す歳五十 五浪花城南藏菴菴に葬る

永富數馬 龜山 名友字充國獨嘯菴男五島侯の儒員享和 元酉年六月十五日歿す歳四十五

長沼澹齋 名宗敬通稱外記兵法家なり元祿三年十一月 廿一日歿す歳五十四伏見東山養春寺に葬る

長雄半左衛門 耕雲 長雄流の祖上州沼田の産藤田友 関の門人有馬侯に仕ふ號柏梁堂 寛永二巳年正月廿三日歿す歳六十二麻布淨林寺に葬る法 號向旭院莊譽嚴說居士

中尾我黒 李洞軒 號青白翁實永七寅年十月六日歿す歳 七十一

中岡豊洲 名幹字子卿號由巳稱終吉文化十一戌年十一月 七日歿す歳七十八牛込原町幸國寺に葬る

中尾正藏 廣徳 字濟寛延三年午七月七日歿す西久保天 徳寺に葬る

中川長四郎 韓天壽 號醉晉齋伊勢の人鳥石門人韓氏 寛政七年寅三月廿三日歿す歳六 十九

中川幸之進 關雄

太湫門人勢州四日市の人名圭字圭甫寶曆七年三月廿七日歿す歳廿九勢州三重高角邑に葬る

長川寛藏 華山

號芝山山本北山門人文化四卯年十月六日歿す歳三十

中川由儀 南山

字茂號不齋又若海文政八年酉八月九日歿す歳七十二淺草唯念寺に葬る辭世「愚知とふ心に心をこはれて此世の別れ今をせりぬる」

中川宗瑞 白兔園

通稱三郎兵衛延享元年子七月晦日歿す歳六十下谷幡隨院に葬る

中川宗瑞 世二

廣岡氏一叟と號す通稱戸太夫明和九年八月九日歿す音羽本淨寺に葬る

中川宗瑞 代三

松井忠吾目句山人と號す文化十一年二月十五日歿す雜司ヶ谷眞乘寺に葬る

中川文十郎 憲齋

名文彰中川由義男書家なり慶應三卯年正月十日歿す歳七十七淺草唯念寺に葬る

中川貞左

姓水原ともいへり號一寸軒又自短頭翁俳諧を能くせり延享四卯年十二月六日歿す歳六十八河東法林寺に葬る

中川五兵衛 琴川

名健字強甫本郷に住せり享和元年酉四月歿す

中川美濃子 文雪

號文雪女史書を善くす嘉永六年丑正月十一日歿す歳五十

中神九左衛門 蓋峰

名守孝字忠順天明八年申六月廿九日歿す駒込吉祥寺地中洞泉寺に葬る

永田觀鷲 東阜

名忠原稱俊平號觀鷲道人又黎祈生とも云平安の人蘇門の門人寛政四子年八月廿五日歿す歳五十五

長田德本 知足齋

三河大濱村の人醫を以て四方に周遊す享祿の頃甲州武田信虎に遊事す依て甲斐の德本といふ天文中去て信濃に卜居す寛永元年二月將軍に謁せし事あり寶永七年二月十四日信州に歿す年百十七歳

中田學古 榮堂

本姓伴氏通稱平助名藤博印刻家天保三年六月廿三日歿す歳六十一山下慶運寺に葬る

永田田善 亞歐堂

通稱永田善吉岩代國岩瀨郡須賀川驛の人にて紺屋業なり江戸に出て司馬江漢の門に入り銅版書の祖と稱す本書は谷文晁門人文政五年午五月七日歿す歳七十二

永田主書 西河

名忠成字伯行觀鷲の子京式部省史生に至り越前大塚と稱す文化六巳年三月五日歿す歳五十三

中田秋香

谷文晁の妹にて中田學古の妻となる歿年谷秋香の條に出つたの部を見よ

中根半仙 訊齋

名玄石書并印刻を能くす嘉永二酉年八月四日歿す歳五十二本郷弓町等正寺に葬る

中根東里

室鳩巢門人名若思伊豆の人稱貞右衛門明和二年酉二月七日歿す歳七十二相州浦賀に葬る

中根覺太夫 君美

名經世號東平山人下毛の人高遠侯に仕ふ文化二丑年間八月十日歿す歳六十五小苗木繩手常檢寺に葬る

中根左内 桂叢

名重玄享保七年寅五月十九日歿す本所回向院に葬る

中根春屋

慶應元年六月十八日大坂に歿す歳五十三

半井慶友 卜養

牡丹花宵伯の孫泉州堺の人延寶六年午十二月二十六日歿す歳七十二(家記に寛文六年十二月廿五日御番醫師被仰付同七年十二月廿三日二百俵被下之同九年六月十四日初めて御目見被仰付延寶元年十二月廿八日法眼被仰付同六月廿六日願之通隱居被仰付或書に元祿四年七月廿六日與醫師半井卜養不届之儀有之伊豆三宅島え流罪悴卜仙儀小出大隅守御預同八月六日卜養下人吉兵衛出舟同五年五月十日嚴有院殿十三回忌御法事に付一同御免同十年四月廿日卜仙の十人扶持被下之云々)

中村忠七 東夷

名以貞字正夫奥州福島の人白巖門弟明和三年三月十五日羽洲横手に客死す歳三十八

中村蘭林

名明遠字子晦號盈進齋初め玄春通稱新藏又源藏寶曆十一年巳九月三日歿す歳六十五谷中玉林寺に葬る

中村蘭石 雪竹齋

稱治太夫平安の人元文二年七月二日歿す歳五十五

中村新八 篁溪

名願言號春帆、水戸義公に仕ふ儒にして小姓頭格となる正徳二辰年正月八日歿す歳六十八淺草八軒町妙經寺に葬る

中村正直 敬宇

幕府儒官幼名釧太郎佐藤一齋の門人後昌平學校に勤仕す明治二年小石川に私立學校を開き同人社と稱す後四位文學博士となる明治二十四年六月七日卒す歳六十谷中墓地に葬る

中邑元禮

名通方春臺門通稱太助江戸の人寛保元酉年十月十日歿す歳二十九駒込吉祥寺地中龍光寺に葬る

中村佛菴

通稱彌太夫字景璉號至觀御疊御用達天保五年正月七日歿す歳八十四

中村轍外

名の公成號無限道人掛川藩士富士を書くに妙にして書名岳連といふ天保十四卯年三月廿八日歿す年六十八

中村惕齋 敬甫

名之欽平安の人貝原篤信の門人元祿十五年七月廿六日歿す歳七十四洛北一條壽村圓光寺に葬る

永井隱求

名行達通稱三右衛門佐藤直方門人元文五年閏七月廿八日歿す品川東海寺に葬る

中井董堂 敬義

通稱嘉右衛門號春星又小笠原松文政四年七月廿六日歿す歳六十四西本願寺地中淨見寺に葬る(敬義は其かみ腹唐秋人といへる狂歌師なり一とせ夏日團扇に一定九郎とさるに暗の與一兵衛ひとりで行はあふなかん平といふ狂歌して人々に贈れり詩書歌俳能狂言をも善くせり)

中井竹山

登庵長男履軒兄號雪翁稱善太文化元年子二月五日歿す歳七十五私諡文惠大坂八丁目寺町誓願寺に葬る

中井積德 履軒

字叔處稱德二登庵の叔子文化十四年丑二月十五日歿す歳八十六私諡文清大坂寺町誓願寺に葬る

中井豫山

文政八酉年六月廿八日歿す歳四十三

永井尚志 介堂 松平主水正子天保十一年永井能登守養子と成り岩之丞と云ふ安政二年九月從五位下玄蕃頭尚忠と名乗り明治廿四年七月一日卒す歳七十六谷中墓地に葬る

中井藍江 中直 名直字伯養浪花の人葎關月門人天保元寅年七月廿四日歿す歳六十五

中井誠之 贅庵 稱忠藏字叔貴播州の人浪花に遊び懷徳書院教授たり寶曆八年寅六月十七日歿す歳六十六

長野豊山 稱友太郎字孟確伊豫の人二州の門後山陽に學ぶ天保七年九月廿二日歿す歳五十五二本榎廣岳寺に葬る

中野吾扇 觀阿 通稱半右衛門名良直號仁風舎寛政十二年二月十五日歿す歳七十六

中院通勝卿 慶長十五年三月廿五日卒す歳五十三

中院通村卿 承應二年二月廿九日卒す年六十七

中院通茂卿 通純卿男寶永七年三月廿一日卒す歳八十

中院通純卿 承應二年四月八日卒す歳四十一

中埜摺謙 完扇 林道榮の姪名繼善稱善助長崎の人關宿侯に仕ふ享保五年七月廿三日歿す歳五十四深川六間堀要津寺に葬る

中野其明 方琳堂 鈴木其一門人晴々齋と號す明治廿五年五月廿九日歿す五十九

中埜叔賢 名輝良壬生侯儒臣寛政四年閏二月四日歿す西久保天徳寺に葬る

長江士瑤 字大圭延享五年正月廿五日歿す歳五十二増上寺地中威徳院に葬る

長澤芦洲 吞江 芦雪の義子弘化四年十月廿四日歿す歳八十一

長澤芦雪 主計 名魚通稱主計城州淀藩士圓山應舉門人圓山門の巨擘といふ寛政十一未年六月八日歿す歳四十五

長澤東海 名己字元丁號不怨齋儒士延享二丑年十月十八日歿す深川法禪寺に葬る

中澤一亨 崑岡 字良祐實曆二申年四月八日歿す歳五十一洛東慈芳院に葬る

長澤容 山本北山門人字幼公寛政四年正月廿四日歿す歳十九才同年六月廿四日北山この人の爲に同志五十人を不忍池酒樓に會して遺稿を讀む觀蓮會と號す

中澤道二 名義道通稱龜屋久兵衛京師新町に住す織物職工にして心學者となれり享和三亥年六月十一日歿す歳七十九本所猿江妙壽寺に葬る

長坂平助 黑肱 號圓陸徂徠門人後熊耳の門に入る寶曆十年辰七月廿七日歿す歳廿四牛込寺町法泉寺に葬る

仲岐陽 明和二酉年六月廿五日歿す歳四十五愛宕下青松寺に葬る

中島東關 天保六未年九月廿一日歿す歳六十四

中島孤山 訥所 伊藤仁齋門人名義方字正休平安の人享保十二未年六月十日歿す歳七十文節先生と私諡す乙訓郡寺戸村後岡に葬る

中野清茂 石翁 播磨守駿河臺に住す天保十二年五月十二日卒す歳七十四牛込七軒寺町佛生寺に葬る

長山蝶女 香子 水府の士師岡與右衛門女長山七平妻と成り正徳二年辰七月廿四日歿す歳四十二駒込大乘寺に葬る

中山愛親卿 大納言文化十一年戌八月十八日薨す年七十四洛廬山寺に葬る

中山忠能卿 權大納言忠頼公二男明治廿一年六月十二日薨去歳八十音羽護國寺に葬る

中山平四郎 信名 字文幹本姓坂本常州の人中山有村の養子と成り和學所の教授と成る本所柳島に居るを以て柳州と號す天保七年十一月十日歿す歳五十五下谷常泰寺に葬る辭世酒ものみ浮れ女もみつ文もみつ家も興しつ世に恨みなし

中山玄亨 安永八年五月廿一日歿す歳六十山城内野福勝寺に葬る

中山鬼卯 栗枝亭 東海道日坂の人煙草商にて傍戲作と爲し別號日之中道人と云ふ文政六年二月廿三日歿す歳八十三

那珂通高 梧樓 明治十二年五月一日歿す年五十二青山墓地に葬る

中江平八 眼山 一名眠江又一貫雜髮して快安と號す伊賀の人享保十一年六月十二日歿す歳七十二大坂一心寺に葬る

中江與右衛門 藤樹 名原字惟命號默齋江州高島郡小川邑の人近江聖人と云ふ慶安元年八月廿五日歿す歳四十一

中島敬藏 泰志 中嶋訥所の孫教授を以て洛下に住す文化十三年六月廿一日歿す歳七十

中島文吉 棕徳 泰志男名規字景寬號隱軒洛東聖護院村に住す安政三年七月五日歿す歳七十七

中島文信 本性九鬼氏明和六丑年九月廿五日歿す歳七十二鳥部山に葬る

中島廣足 蛙磨 通稱太郎名春臣熊本藩の士後長崎に住し國學を以て鳴る又書を善くす別號を黃口又樞園翁と云ふ元治元年正月廿一日歿す行年七十三肥州万日山に葬る

中嶋隨流 松月菴 名勝直稱源左衛門平安の人俳諧を善くす實永五子年二月五日歿す歳八十一

夏日成美 不隨齋 通稱井筒屋八郎右衛門白雄門人又書を善くす文化十三年十一月十九日歿す歳六十四山崎町蓮光寺に葬る

奈良屋茂左衛門 我泰 姓神田氏幼名成松五十七才の時剃髮して安休と云ふ享保十巳年九月三日歿す歳六十三深川靈岸寺塔中雄松院に葬る

南嶺子 桂秋齋を見よ(かの部)

南光坊天海 謚慈眼大師本姓三浦氏寛永二十年未十月二日歿す歳百二十五日光山に葬る

南部景衡 南山 本姓小野氏字思聰長崎の人安藤省庵門後松永昌三門人正徳二辰年三月七日歿す歳五十五

南仙笑楚滿人 通稱楠彦太郎始手跡師後宇田川町に住し書肆と成る文化四卯年三月九日歿す歳五十九西久保心光院に葬る

室 直清 鳩巢 字師儒後而禮に及び又號滄浪峻嶽稱新
助始め加州侯に仕ふ正徳元年西城に召
さる享保十九寅年八月十二日歿す歳七十七護持院後御厩
畠に葬る

室 勿軒 洪謨 字孔彰元文四年十月廿三日歿す歳三
十四御厩畠に葬る(御厩畠の地守を柴
崎市郎右衛門と云近世の儒官葬地を賜りて寺院に葬せざ
る事は室氏より始りしなり)

無倫道人 雪堂 本姓志村氏號拾柴軒季吟門人越後の人
享保二酉年二月廿九日歿す歳六十三愛
宕下青松寺に葬る

無外坊燕説 通稱伊藤勘右衛門勢州の人延享二丑年四月
廿二日歿す歳七十三

向井靈蘭 號蘭香又觀水子肥前神崎郡の人延享五巳年十
一月朔日歿す歳六十九洛東眞如堂に葬る

向井三省 滄洲 字魯甫子細有て柳川に改め後本姓に復
す享保十六亥年正月廿九日歿す歳六十
六洛東慈芳院に葬る

向井去來 落柿舎 通稱平次郎又次郎太夫蘭亭實永元申
年九月十日歿す歳六十二洛東眞如堂
に葬る

向井誠安 樺洲 名信義字誠安寛延三年十一月廿五日
歿す歳六十四洛東慈芳院に葬る

村上玄武坊 朴齋門人俳天堂と號す寛政十年正月十九
日歿す歳六十牛込濟松寺に葬る

村上冬嶺 友佺 那波活所門人實永二酉年八月廿九日歿
す歳八十二

村上英俊 松代藩士佛蘭西學を修め安政年中幕府の開成
所教授方外國翻譯方に任す學藝を以て世を傳
益す本邦佛蘭西學の始祖と云明治二十三年一月十三日歿
す歳八十青山墓地に葬る

村上貞輔 弘化三年五月廿五日歿す歳八十六

村上松堂 元篤 字士厚京の人峯駒の門天保十二丑年九
月廿四日歿す歳六十六

村田春門 並樹 通稱次九兵衛號多豆能屋又都子園本居
門人天保七年十一月廿四日歿す

村田春郷 顯義堂 平姓春道長子字若觀明和五年九月
十八日歿す歳三十深川本誓寺に葬る

村田春海 錦織齋 平姓春道次男字士觀又號錦織更翠後
翁通稱平四郎文化八未年二月十三日
歿す歳六十六深川本誓寺に葬る

村田春道 尙古堂 平姓通稱平四郎後宇兵衛明和六巳年
七月廿一日歿す深川本誓寺に葬る

村田よし女 愛子 伊右衛門妻貞享四年十二月十二日
歿す歳四十七

村田多喜女 梅月 雲溪妻花鳥畫を能くす萬延元申年五
月廿四日歿す歳四十二小日向本法寺
に葬る

村田多勢子 春海の女なり後尼と成り芳樹と號す弘化四
未年十二月十二日歿す深川本誓寺に葬る

村田了阿 春風 通稱小左衛門號春枝堂又一枝堂台麓清
原雄風の門書は東江の門下谷金杉西藏
院に葬る天保十四卯年十一月十四日歿す歳七十二

村田永年 雲溪 字伯慶號梅花都尉通稱正七萬延元申年
閏三月四日歿す歳六十三小日向本法寺
に葬る

村井佛山 號釋田稱彦左衛門豊前の人明治十二年九月廿
七日歿す歳七十六豊前稗田村北香に葬る

村井古道 無名園 南郡の人小西來山の門寛延二巳年十
月四日歿す歳六十九

村松蘆溪 字子永稱與左衛門越後村松邑の人鶴士寧に學
ぶ後高田侯の儒官と成る天明七未年五月七日
歿す歳五十七

村士淡齋 名宗殖稱彌左衛門江戸の人福山侯の儒官安永
元辰年八月五日歿す歳七十三駒込大圓寺に葬
る

村士玉水 淡齋義子名宗章號一齋稱行藏大和の人安永五
申年正月四日歿す歳四十八駒込大圓寺に葬る

村瀨栲亭 名之熙字君績稱嘉右衛門秋田侯の儒臣文政元
寅年二月廿三日歿す歳七十二

村瀨五猪 號心之又玉外樓稱勘作京島丸に住す嘉永六丑
年三月廿七日歿す歳六十六



